(6)

委任統治地域に於ける通商均等待遇問題及コンゴー盆地条約の研究（調書）

B-1169

0410

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

秘

昭和十三年八月

委任統治地域ニ於ケル通商均等待遇問題及コンゴー盆地條約ノ研究

通商局第六課

B-1169

0411

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

目次

第一節　序　說……一頁
第二節　我方ノ聯盟脫退ト聯盟內ニ於ケル委任統治地域ノ通商均等待遇問題論議……三
第一　概　說……三
第二　第二十七回常設委任統治委員會……五
第三　第十六回聯盟總會……一〇
第四　第二十八回常設委任統治委員會……一〇
第五　第二十九回常設委任統治委員會……一二
第六　第三十回常設委任統治委員會……一七
第七　第三十一回常設委任統治委員會……三九
第八　第三十二回常設委任統治委員會……四五
第九　第三十三回常設委任統治委員會……四八

B-1169

0412

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

第一〇　第三十四回常設委任統治委員會……五六
第三節　A式及B式委任統治地域ニ於ケル貿易實狀……五八
第一　英國委任統治地域　パレスタイン……五八
第二　英國委任統治地域　トランス・ジョルダン……六六
第三　佛國委任統治地域　シリア及レバノン……六九
第四　英國委任統治地域　タンガンイカ……八三
第五　英國委任統治地域　カメルーン……九二
第六　佛國委任統治地域　カメルーン……九六
第七　英國委任統治地域　トーゴーランド……一〇四
第八　佛國委任統治地域　トーゴー……一〇八
第九　白國委任統治地域　ルアンダ・ウルンディ……一一三
第四節　コンゴー盆地條約……一一七
第一　概　說……一一七
第二　コンゴー盆地條約ノ內容……一一九
第三　コンゴー盆地條約改訂問題……一二四
第四　コンゴー盆地條約廢棄ノ可能性……一二六
第五　コンゴー盆地條約ト委任統治地域……一二九
第五節　結　論……一三一
第一　通商均等問題ニ關スル委任統治委員會及各受任國側ノ意向……一三一
第二　聯盟カ委任統治地域ニ於ケル通商均等待遇ヲ我方ニ否認スルノ決定ヲ爲シタル場合ノ影響……一四〇

B-1169
0413
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

委任統治地域ニ於ケル通商均等待遇問題及コンゴー盆地條約ノ研究

第一節　序　說

狹隘ナル國土ニ七千萬ノ人口ヲ擁シ年々百萬人ノ增殖人口ヲ支フルノ必要ニ迫ラレ居ル日本トシテ其ノ生存發展ヲ確保スルノ途カ輸出貿易ノ增進ニ懸ルコトハ論ヲ俟タサル所ニシテ此ノ故ニ資源獲得ノ自由及製品販路ノ自由ハ我方カ多年ニ亙リ主張シ來リタル所ナリ

A式及B式委任統治地域ニ於テハ聯盟規約ニ基キ夫々ノ委任統治條項ニ依リ門戶開放及通商ノ原則規定セラレ、又コンゴー盆地條約ニ於テモ中央アフリカニ於ケル通商上ノ均等待遇ノ原則ヲ規定シ居ル處、此等ノ原則ハ何レモ其ノ適用地域ニ制限アルモ其ノ趣旨ニ於テ我方多年ノ主張ニ合致スルモノニシテ我方トシテハ此等原則ヲ維持擁護スルト共ニ其ノ精神ヲ更ニ他ノ一般未開發地ニモ擴充センコトヲ努メサルヘカラス

然ルニ帝國ノ國際聯盟脫退後、聯盟國間ニ往々右委任統治地域ニ於ケル通商均等待遇ヲ我方ニ對シ拒否スヘシトスル論議アリ他方英國其ノ他ノ國ニ於テコンゴー盆地條約廢棄論ノ勃興ヲ見ルニ至レリ此

B-1169

0414

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

等論議ノ傾向ハ我方トシテ最モ注意ヲ要スル所ナルハ言フ俟タス依テ本稿ハ最近ノ聯盟内ニ於ケル委任統治地域通商均等待遇問題ニ關スル論議、A式及B式委任統治地域ニ於ケル貿易實狀及此等トコンゴー盆地條約トノ關係ヲ敍述シ本問題ニ對スル我方對策研究ノ資料ト爲サンカ爲編纂シタルモノナリ

尙委任統治地域ノ貿易ニ關シテハ其資料極メテ乏シク比較的最近ノモノトシテハ僅カニ昭和九年外務省調査部編纂ノ「各委任統治地域ニ於ケル貿易實狀」ナル調書アルノミナルヲ以テ本稿ハ此ノ意味ニ於テモ多少寄與スル所アランコトヲ期シタリ

第二節　我方ノ聯盟脫退ト聯盟內ニ於ケル委任統治地域ノ通商均等待遇問題論議

第一　概　說

一、A式及B式委任統治地域ニ於テハ聯盟規約第二十二條及各地域ニ關スル委任統治條項ニ依リ通商上ノ均等待遇ヲ保證シ居ル處昭和十年三月二十七日帝國ノ國際聯盟脫退後我方ニ對シ依然右均等待遇ヲ認ムヘキヤ否ヤニ付議論ヲ生シタリ

委任統治地域ニ於ケル通商上ノ均等待遇ヲ規定セル聯盟規約及委任統治條項ノ規定ヲ參考ノ爲掲クレハ左ノ如シ

(一)　聯盟規約第二十二條第五項

「他ノ人民殊ニ中央阿弗利加ノ人民ハ受任國ニ於テ其ノ施政ノ責ニ任スヘキ程度ニ在リ尤モ受任國ハ公ノ秩序及善良ノ風俗ニ反セサル限リ良心及信敎ノ自由ヲ許與シ、、、且他ノ聯盟國ノ通商貿易ニ對シ均等ノ機會ヲ確保スルコトヲ要ス」

(二)　A式委任統治條項（例ハシリア、レバノン委任統治地域ニ於テ課稅若ハ商業職業若ハ產業ノ經營又ハ航海ニ關スル事項ニ關シ又

B-1169

0415

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ハ船舶若ハ航空機ノ待遇ニ關シ國際聯盟國ノ國民ニ對シ自國民又ハ他ノ外國ノ國民ニ比シ差別ヲ生スルコトナカラシムヘシ同樣ニ委任統治地域ニ於テ右聯盟國ノ何レカニ原産シ又ハ之ニ差向ケラルル貨物ニ對シ差別ヲ設クルコトヲ得ス衡平ナル條件ノ下ニ前記地域ヲ通過スルノ自由アルヘシ」

(三) B式委任統治條項（例ハトーゴーランド ニ對スル英國ノ委任統治條項第六條）

「受任國ハ通商及航海ノ自由竝ニ經濟上商業上及 產業上ノ完全ナル均等ヲ自國民ニ對スルト同樣ノ地歩ニ於テ一切ノ國際聯盟國民ニ對シテ確保スヘシ但受任國ハ緊要ナル公共ノ工事及役務ヲ正當ト思惟スル條件ノ下ニ營ムコト自由タルヘシ」

二、尙、以下ニ述フル常設委任統治委員會ノ論議ニ關係アル常設委任統治委員會ノ委員ノ國籍ハ左ノ如シ

○議長、第二十七回ヨリ第二十九回迄テオドリ（伊國人）、第三十二回ヨリ第三十二回迄オーツ（白國人）、第三十三回ラッパール（瑞西人）、第三十四回オーツ（白國人）

○委員、ヘーレー（英國人）、マンスロン（佛國人）、ジロー（佛國人、マンスロンノ後任者）、鮭延（日本人）、オーツ（白國人）、ファン・アスベック（和蘭人）、ペンハ・ガルシア（葡國人）、ラッパール（瑞西人）

○前委任統治部長、カタスチニ（伊國人）、（現任委任統治部長ハ瑞西人ノド・ハレルナリ）

○常設委任統治委員會

第二　第二十七回常設委任統治委員會ハ帝國ノ聯盟脫退

一九三五年六月三日ヨリ同十八日迄開催セラレタル第二十七回常設委任統治委員會ハ帝國ノ聯盟脫退完了後最初ニ開カレタル同委員會ノ會合ナルカ各年報審査ノ際果然我方ニ對スル通商均等待遇ノ許與カ問題トナレリ其ノ論議ノ大要左ノ如シ

一、パレスタインノ年報審査ニ際シ六月五日オーツ委員ハ英國代表ニ對シ「日本ハ其聯盟ヨリノ脫退後モパレスタインニ對スル日本品ノ輸入ニ關シ經濟上ノ均等待遇ヲ享受シ居ルヤ」トノ質問ヲナセリ英國代表之ヲ肯定セルニオーツ委員ハ「然ラハ右ノ處置ハ統治地域ノ利益ノ爲ニ採ラレタルモノナリヤ」ト問ヒ英國代表ハ「調査ヲ遂ケル迄返答ヲ差控ヘ度シ」ト答ヘタリ

翌六日英國代表ハ前日ノ質問ニ對シ「今日迄ノ處事態ニ何等變化ナシ將來採ラルヘキ措置ニ關スル英國政府ノ見解又ハ意思ニ付テハ何等承知セス尤モ一九一二年日英通商條約ノ存在スル結果日本ノ聯盟脫退ニ伴ヒパレスタインカ自動的ニ日本商品ノ待遇ニ關シ行動ノ自由ヲ恢復スルモノニ非サルコトニ留意スルヲ要ス」ト答ヘ之ニ對シオーツ委員ハ「日英條約アルニ拘ラス輸入割當制度ノ如キ措置ハ英領植民地殊ニ西部アフリカニ於テ採用セラレタリ、日英條約ハパレスタインニ於テ此ノ種ノ手段ヲ採用セントスル場合之ヲ妨クルモノニ非スト思ハル」ト述ヘ英國代表ハ「余ハ日英條約カ

B-1169

0416

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

此ノ種手段ノ採用ヲ妨クルモノナリト言ヘルニアラス日本ノ脱退ニ伴ヒ**パレスタイン**カ自動的ニ行動ノ自由ヲ恢復スルモノニ非スト言ヘルナリ」ト陳辯ス

二、七日**シリア及レバノン**年報審査ニ際シ**オーツ**委員ヨリ「日本ハ三月二十七日聯盟ノ脱退ヲ完了セルニ依リ同日後經濟上均等待遇ヲ受クヘキ權利ヲ喪失シタリ然ルニ本年四月ノ**コレスポンダンス・ドリアン**第四四八號ニ依レハ**シリア**ノ特惠關稅待遇ハ二ケ月間日本ノ爲延長セラレタルモノノ如シ事ノ眞相如何」トノ質問アリ佛國代表ハ「本件ハ日本ニ關シ恢復セラレタル行動ノ自由ヲ利用シ日本ヲシテ同國カ**シリア**ニ賣込ムモノニ相應スル買入レヲ同地域ニテナサシメントシ居ルモノナリ日本ノ**シリア**ニ對スル輸出ハ言フニ足ラサルモノナリシカ今ヤ日本ハ躍進シテ**シリア**ニ對スル輸出國トシテ第二位ヲ占ムルニ至レリ日本ハ織物ニ付テ競爭國全部ヲ驅逐セルノミナラス**シリア**ノ織物業ヲモ危殆ニ瀕セシメツツアリ之ニ反シ日本ノ同地域ヨリノ買入レハ皆無ニ近シ此ノ事態ハ此ノ儘永續セシムルヲ得ス同地域ノ市場カ日本ニ開放セラルル限リ日本ハ同地域產出ノ棉花ノ購入ニ依リ同市場ノ顧客トナルコト肝要ナリ從ツテ問題ノ解決ハ割當制度類似ノ制度ノ適用ニアルヘシ」ト答ヘタリ

三、十日**タンガンイカ**ノ年報審査ニ際シ**オーツ**委員ハ「既ニ國際聯盟員タラサル日本カ尙委任統治地域ニ於テ經濟上ノ均等條項ニ均霑シツツアリヤ否ヤノ問題ハ他ノ各委任統治地域ニ關シテモ提起セラレタルカ**タンガンイカ**ノ場合ハ特別重要ナリ何トナレハ輸入總額ノ報告ニ依レハ**タンガンイカ**ニ輸入セラルル日本商品ノ割合ハ尙增加シツツアリ四月十日ノ倫敦ニ於ケル議會ニ於テモ日本向ケ輸出ニ比シ日本商品ノ輸入增加ノ問題カ論議セラレタルカ斯カル不均衡ナル**バランス**ヨリ生スル不利ヲ調整スル爲ニ政府ハ如何ナル處置ヲ採ランストスルヤトノ質問ニ對シ植民相ハ斯カル法律上ノ問題ト一般政策ノ問題トヲ共ニ含ム質問ニ對シテハ調査研究ヲ要スヘシト答ヘタルカ統治國政府代表ハ此ノ點ニ關シ說明ヲ與ヘラレ度」旨述ヘタルニ對シ英國代表ハ「實際ニ於テハ日本ハ常ニ均等待遇ヲ享受シ居レリ議會ニ提起セラレタル質問ニ關シテハ玆ニ答フルコトヲ得ス」ト答ヘタリ

四、斯クテ委員會モ終期ニ近ツキ理事會ニ提出スヘキ年報審査報告書ヲ作成スル際右**オーツ**委員ノ質問ハ委員會全部ノ意見トシテ「經濟平等ノ原則」ノ項下ニ「聯盟ヲ離脫シタル國ノ商品ニ對シ統治國ハ依然聯盟國ノ商品ニ對スルト同等ノ待遇ヲ與ヘ居ルハ如何ナル理由ニ基ツクヤ承知シ度」旨ヲ理事會ニ上申スルノ意向ヲ以テ報告書原案中ニ提議セラレタルカ右原案ハ委員會カ聯盟ヲ離脫シタル國ニ對シテハ平等待遇ヲ與フヘカラストノ見解ヲ有スルモノナルカノ如クニ認メラレタリ此レニ對シ鮭延委員ハ十四日**タンガンイカ**ニ關スル**オブザベーション**ヲ作成ノ際「委員會カ右ノ如キ意見ヲ公表スルハ行過ノ過ヲ犯スモノニ非サルヤ余ノ見ル所ニ依レハ委員會ハ國際聯盟ニ屬スル諸國ノ商品ニ對シ受任國カ均等待遇ヲ與フルコトヲ監視スルヲ以テ職務トス受任國カ非聯盟國ニ對シ聯

B-1169

0417

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

B-1169

ヤ否ヤ」ヲ問ヘルニ委任統治地域カ非聯盟國トノ間ニ於ケル聯盟國トノ間ニ於ケル均等原則ニ違反スルノ取極ヲ認ムルヤ否ヤヲ問ハス「ラッパール」委員ハ之ヲ以テ否定セリ

「カタステニ」委任統治部長ハ「通商均等待遇ノ原則ハ單ニラッパール委員ノ述ヘタル如キ目的ノ爲ニノミ設定セラレタルモノニ非スシテ本原則ハ又全然平和的ナル他ノ目的ヲ有スルモノニシテ特ニ原料産出地域ニ於テ世界的競爭カ惹起セラルルコトアルヘキ摩擦ヲ本地域ニ於テ聯盟國間ニ於テ可及的ニ減少セントスル聯盟ノ目的ニ副フヘキモノナリ」ト述ヘタリ

スルコトヲ必ナリ加フルニ問題ノ地域ハ「サン、ジェルマン、アン、レイ」條約ニ基キ「コンゴー」盆地條約ノ適用アルヲ以テ此ノ種ノ議論ハ實益少ナキ注意ヲ要ス」ト述ヘタリ

斯クテ「ガンイカ」ニ關スルオブザベーション中ノ本件ニ關スル項目ハ削除セラルルコトナレリ

然レトモ「パレスタイン」及「トランス・ジェルダン」竝ニ「シリア」及「レバノン」ニ關スルオブザベーション中ニ「エコノミック」項下ニ經濟均等待遇問題ニ關シ左ノ如ク述ヘタリ

「委員會ハ聯盟國タルコトヲ止メタル國ノ生産品ノ輸入カ聯盟國ノ生産品ノ輸入ト均等ノ地位ニ於テ認メラレ居ルコトヲ即チ承知シタリ委員會ハ其理由ヲ承知シ度シ」

理事會ハ右委員會ノ報告ヲ了承シ型ノ如ク事務總長ニ命シテ右オブザベーションヲ當該受任國政府ニ傳達セシメ且之等政府ニ對シ委員會ノ要求ニ應スヘキ旨要請セシメタリ

ノ適用アルヲ以テ此ノ種ノ議論ハ實益少ナキ注意ヲ要ス」ト述ヘタリ

斯クテ「ガンイカ」ニ關スルオブザベーション中ノ本件ニ關スル項目ハ削除セラルルコトナレリ

然レトモ「パレスタイン」及「トランス・ジェルダン」竝ニ「シリア」及「レバノン」ニ關スルオブザベーション中ニ「エコノミック」項下ニ經濟均等待遇問題ニ關シ左ノ如ク述ヘタリ

「委員會ハ聯盟國タルコトヲ止メタル國ノ生産品ノ輸入カ聯盟國ノ生産品ノ輸入ト均等ノ地位ニ於テ認メラレ居ルコトヲ即チ承知シタリ委員會ハ其理由ヲ承知シ度シ」

理事會ハ右委員會ノ報告ヲ了承シ型ノ如ク事務總長ニ命シテ右オブザベーションヲ當該受任國政府ニ傳達セシメ且之等政府ニ對シ委員會ノ要求ニ應スヘキ旨要請セシメタリ

カ故ナリト述ヘ「オーリ委員ハラッパール委員ノ提案ニ贊成スルモ其理由ハ異ナレリ委任統治委員會ノ本質的職務ハ委任統治地域ノ利益ヲ監視スルニ在リ而テ其利益ハ最モ安價ナル商品ヲ買ヒ得ルノ時期ニ非スト認ムルカ故ニ「ラッパール」

第三、第十六回聯盟總會

右委任統治委員會ニ次テ同年九月開催セラレタル第十六回國際聯盟總會第六委員會ニ於テ諸威代表ラ
ンゲハ第二十七回委任統治委員會事業ヲ紹介セル演說中ニA式及B式委任統治地域ニ於ケル經濟上ノ
均等待遇ノ原則ニ付キ委任統治委員會ガ同原則ノ適用ノ監視ニ忠實ナルヲ賞讃シ次テ同原則ニ關聯シ
テ「昨年新ニ甚タ重要ナル問題發生シタリ聯盟脫退國ニ對スル該原則ノ適用問題卽チ具體的ニハパレ
スタイン及タンガンイカニ於ケル日本商品ノ輸入問題之ニシテ本問題ハ委任統治委員會ニ於テ目下研
究中ナルカ吾人ハ其結論ヲ多大ノ興味ヲ以テ待ツモノナリ」ト述ヘタリ尤モ本問題ヲ取上ケ討論スル
モノナク第六委員會ノ報告者トシテ指名セラレタルランゲモ聯盟總會ニ對スル報告案及議決案中ニハ
本問題ニ關シ記述スル所ナカリキ

第四、第二十八回常設委任統治委員會

第二十七回常設委任統治委員會ニ於ケル前記オーツ委員ノ發言ハ單ナル委任統治地域ノ行政ニ對スル
批判ニ非スシテ寧ロ委任統治問題ニ關スル帝國ノ地位ニ對スル法理論トモ解釋シ得ヘク之ヲ放置スル
ニ於テハ恰モ帝國政府カ聯盟ノ見解ヲ甘受シタルカ如キ印象ヲ與フル惧アリタルヲ以テ總會終了後間
モナク開カルヘキ第二十八回常設委任統治委員會ノ帝國委任統治年報審査ノ際委任統治ニ關スル帝國
ノ地位ニ付明白ナル聲明ヲナスコトトセリ

第二十八回常設委任統治委員會ハ十月十七日ヨリ十一月二日ニ亘リ開催セラレタルカ會議ノ劈頭、議
長ハ伊藤帝國代表ヨリ議長ニ宛テタル左ノ十月二日付書翰ヲ披露シタル後受任國カ其委任セラレタル
地域以外ノ委任統治地域ニ關シテ爲サントスル聲明ヲ委員會ハ聽取シ得ルヤヲ諮リタリ

書翰

貴委員會ノ前會期ニ於テ「委員會ハ聯盟國タルヲ止メタル國ノ生產品ノ輸入カ聯盟國ノ生產品ノ輸
入ト均等ノ地位ニ於テ認メラレ居ルコトヲ聞知シタリ委員會ハ其ノ理由ヲ承知シ度シ」ナルオブザ
ベーションカ理事會ニ對スル報告トシテ採用セラレ右オブザベーションハ理事會ニ採擇セラレタリ
本件ハ特別ニ日本ニ利害關係アルカ故ニ當該受任國ノ意見ト同樣日本ノ見解ヲモ承知セラルルハ貴
委員會ノ利益ナルヤニ思考セラルル處貴委員會ノ次會期中日本委任統治南洋群島ノ年報審査ノ前或
ハ後ニ於テ本件ニ關シ聲明ヲナスノ機會ヲ與ヘラレ度ク本代表ハ右希望ヲ表明スルノ義務ヲ感スル
モノナリ（伊藤述史）

右ニ對シオーツ委員ハ「委員會カ如何ナル條件ニ於テ伊藤代表ノ引用セルオブザベーションヲ作成ス
ルニ至レルカヲ回顧シタシ右オブザベーションハ單ニ理事會ニ對シ本件ニ付注意ヲ促スヲ以テ目的ト
セルモノナリヤ或ハ委員會カ尙本件ノ調査ヲ續ケル意圖アルヲ表明シタルモノナリヤ換言スレハ右オ
ブザベーションハ委員會カ權限ヲ有スル意味ヲ示シタルモノナリヤ」ト問ヒ議長ハ「委員會ハ一方ニ

B-1169
0419
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

於テ**パレスタイン及トランス・ジヨルダン**、他方ニ於テ**シリア及レバノン**ノ一九三四年度年報審査ニ當リ疑問ノ點ニ關スル解明ヲ求メタルナリ」ト答ヘ、**オーツ**委員ハ「然ラハ委員會ニ附セラレタル年報ノ審査ニ當リ生シタル疑問ニ關シ語ラントスル受任國代表ニ其陳述ヲ許ササル理由ハ發見シ得ス」ト述ヘ**ラツパール**委員ハ**オーツ**委員ノ見解ニ贊成シ「受任國代表ニ對シ委員會カ受任地域ニ關セサル點ニ付質問スルハ正シカラサルモ受任國代表カ自ラ聽取セラレタシト希望スル場合ニ之ヲ聞カサルハ禮ヲ失スルモノナリ尤モ本問題ノ討議ニ關スル委員會ノ權限ノ點ハ常ニ留保セラルヘク伊藤代表ノ聲明ハ單ナル通知ノ意味ニ於テ聽取セラルヘシ」ト述ヘタリ

斯クテ議長ハ委員會カ自後委員會側ニ於テ得ヘキ情報ニ如何ニ對處スルカハ別問題トシ伊藤代表ノ要求ニ從フコトニ贊成セルモノト認ムル旨述ヘ右決定ニ基キ伊藤代表ハ十月二十八日委員會ニ於テ其ノ南洋群島ニ關スル帝國委任統治年報審査ニ先タチ左ノ聲明ヲ行ヘリ

伊藤帝國代表ノ第二十八回常設委任統治委員會ニ於ケル聲明

（壽府一九三五年十月二十八日）

(一) 第二十七回常設委任統治委員會ニ於テ或受任國ノ代表ハ、日本ハ聯盟脫退後該受任國ノ委任統治地域ニ於テ引續キ經濟上ノ均等待遇ヲ享有シ居ルヤトノ質問ヲ受ケタリ、右質問ハ具體的ニ言ヘハ六月五日及六日ノ**パレスタイン、トランス・ジョルダン**ノ年報審査、同七日ノ**シリア、レバノン**ノ年

報審査、竝ニ同十日ノ**タンガンイカ**ノ年報審査ニ際シテ行ハレタリ、斯クシテ委員會ハ各委員及各受任國政府代表ノ意見ヲ聽取スル機會ヲ得タリト雖モ該問題ニ直接關係ヲ有スル日本ハ未タ右ニ關スル獨自ノ見解ヲ開陳スル機會ヲ有セサリシ次第ナルヲ以テ、今茲ニ帝國政府ノ見解ヲ聽取スルハ委員會ニ取リ無益ナラサルヘシ、本代表ノ目的ハ此處ニ論爭ヲ開始セントスルニ非スシテ、帝國政府ノ見解ヲ出來得ル限リ明白ニ開陳シ、以テ委員會ノ考慮ヲ求メントスルニアリ

(二) 第二十七回議事錄第九十一頁ニ「千九百三十五年三月二十七日日本ノ聯盟脫退完成シタルヲ以テ右期日以降日本ハ經濟上ノ均等待遇ニ關スル規定ニ均霑スル權利ヲ失ヒタリ」トアルモ、帝國政府ハ斯カル見解ニ承服スルコト能ハサルモノナリ

(イ) 帝國政府ノ見解ニ據レハ委任統治ノ割當卽チ受任國ノ指名及該受任國カ施政ヲ行フヘキ地域ノ決定ハ主タル同盟及聯合國之ヲ行ヒタリ斯クテ委任統治ノ實質的權限ハ主タル同盟及聯合國ニ依リ賦與セラレタルノミナラス委任統治ノ條件卽チ各委任執行ノ樣式亦是等諸國ノ決定ニ依ル受任國竝ニ委任統治條項案ニ關スル是等決定ハ結局聯盟側ニ提出セラレタリト雖モ理事會ハ唯形式的ニ且事務的ニ是等ヲ確認シタルニ過キス據是觀之委任統治ノ割當ニ關與シ且受任國トシテ指名セラレタル一國トシテノ帝國カ聯盟國ナリヤ否ヤノ一事實ニ依リ左右セラレ得ヘキモノニ非サルト共ニ受任國統治條項ニ關スル一切ノ變更ハ帝國政府ノ明白ナル合意アルニ非サレハ有效ナルヲ得

B-1169

0420

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ザルヘキモノトス上述シタル所ハ又夙ニ千九百二十年八月サン・セバスチァンニ會合セル國際聯盟理事會及第一回國際聯盟總會ニ依リ承認セラレタル所ナリ

(ロ) 委任統治ノ賦與及經濟上ノ均等待遇ノ確保ヲ約定スル條項ヲ含ム委任統治ノ條件決定ニ關與シタルニ鑑ミ帝國政府ハ聯盟脫退後ト雖モA式及B式委任統治地域ニ於ケル經濟上ノ均等待遇ヲ享有スルヲ以テ帝國固有ノ權利ト思料スルモノニシテ從テ帝國ヲ委任統治制度ノ設立ニ關與セサリシ國際聯盟加盟國ニ比シ不利ナル條件ノ下ニ置クカ如キ待遇ハ帝國政府ノ甘受スル能ハサル所ナリ

(ハ) 治革的論據ハ暫ラク措クモ、國際聯盟規約ハ上記ノ帝國政府ノ見解ヲ切實ニ支持シ居レリ規約ニ據レハ國際聯盟ハ經濟問題ニ關シ一切ノ聯盟國ノ通商ニ對スル衡平ナル待遇ヲ確保スル爲方法ヲ講シ以テ該關係ニ於ケル差別的待遇ニ反對スヘキ（規約第二十三條）使命ヲ有スルニ止マラス、右「一切ノ聯盟國」ナル語句ハ一見「一切ノ聯盟國」ノミヲ意味スルカ如キモ、實際上現在世界經濟ニ於ケル各國間ノ否定シ得サル相互依存性ニ鑑ミ國際聯盟ハ從來常ニ右ノ語句ヲ以テ世界ノ總テノ國ヲ表示セルモノトノ解釋ヲ取リ來リ、聯盟ハ此ノ意味ニ於テ長年努力ヲ盡シ多少ノ效果ヲ擧ケ來リタルモノニシテ或ハ條文上ニ明示セラレ、或ハ前述ノ如ク解釋セラレタル目標ヲ放棄シタルコトナカリキ、據是觀之、委任統治地域ニ於ケル差別待遇ヲ示唆シ乃至ハ提議スルカ如キハ國際聯盟ヲシテ自ラ其ノ使命ニ背反セシムル所以ト謂フヘク、從テ差別待遇カ聯盟ノ機關タル委任統治委員會ノ委員ニ依リ一特定國ニ對シテ稱ヘラルルカ如キハ帝國政府ノ甚タ諒解ニ苦シム所ナリ

(三) 右ノ諸理由ニ基キ國際聯盟脫退後ト雖モ委任統治ニ關スル限リ帝國ノ地位ニ何等變更ノ生スルコトナキヲ確信シ且委任統治問題ニ關シテハ引續キ國際聯盟、特ニ本委員會ト協力セントスル帝國政府ハ聯盟側ニ於テモ亦嘗テ**サンセバスチァン**ニ於ケル理事會ニ依リ採擇セラレタル**イーマンス**報告中ニ所謂「受任國ノ引受ケタル任務ノ困難ヲ增加」セシムルカ如キ措置ヲ取ラサルコトニ留意スルコト重要ナリト思考ス而シテ右ハ啻ニ經濟上ノ均等待遇問題ニ限ラス委任統治ノ遂行ニ關スル一切ノ問題ニ付テモ亦然リトス

右日本政府ノ聲明ニ對シテハ別段ノ質問モナク委員會ハ「該聲明ハ重要ナル根本原則ニ關スル問題ヲ包含スルモノナルニ依リ之カ審議ハ理事會ノ諸問ナキ限リ委員會ノ任務ノ外ナルヘシ」トノ結論ニ到達シタルヲ以テ、之ヲ其儘理事會ニ廻付スルコトトセリ

二、十月十九日佛國委任統治地域タル**トーゴー**年報審査ニ際シ議長ハ「本年三月二十七日**トーゴー**ニ於ケル輸入國タル一國カ聯盟ヲ去リ又十月二十一日他ノ一國モ聯盟脫退ヲ完了スヘキ處脫退確定後此等ノ國ノ輸入品カ如何ナル取扱ヲ同地域ニ於テ受クルヤニ關シ佛國政府代表ノ說明ヲ求メタシ」ト述ヘタルカ同代表ハ「兩國聯盟脫退後ハ從來ノ均等待遇條項ノ適用ナキモノト思考スルモ本問題

B-1169

0421

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ハ目下政府ニ於テ考慮中」ナル旨答ヘタリ

十月二十三日同シク佛國委任統治地域タル**カメルーン**年報審査ニ際シ議長ハ「同地域ニ於ケル日本ヨリノ輸入額カ一九三四年度ニ於テ四、五四八、〇〇〇法ヨリ五、二二四、〇〇〇法ニ增加シ今ヤ日本カ同地域ニ對スル供給國トシテ第四位ニ在ル處或ル國カ非聯盟國トナリタル際依然經濟上ノ均等待遇ヲ享受シ得ヘキヤ」ヲ問ヒ之ニ對シ佛國代表ハ「本問題ハ殖民省ニ於テ研究中ナルカ均等待遇條項ハ非聯盟國トナレルモノニ適用ナカルヘキモノト考慮セラルル」旨答ヘタリ

斯クテ委員會ハ右**トーゴー**及**カメルーン**兩地域ニ對スル**オブザベーション**作成ノ際「委員會ハ受任國カ一九三五年度ニ於テ非聯盟國トナレル二箇ノ國ヨリノ輸入品ニ對シ如何ナル待遇ヲ與フヘキカニ付考究中ナルコトヲ了承シ右研究ノ結果到達スヘキ結論ヲ承知シタシ」トノ意見ヲ理事會ニ上申スルコトトナレリ

三、英國委任統治地域タル**トーゴーランド**ニ關シテハ十月二十一日其年報審査ニ當リ議長ヨリ一九三四年命令第二十二號即織物ノ輸入割當ニ關スル件ニ注意ヲ促シ「右ハ**ゴールドコースト**政廳ヲシテ一定ノ期間輸入セラルヘキ外國產織物ノ割當量ヲ定ムヘキ命令ヲ發スルノ權ヲ取得セシメタルカ右第二條第一項ニ依レハ右ハ委任統治地域ニモ適用アルカ如シ而モ第六條及第十六條ハ其ノ反對ヲ規定スルカ如ク見ユルハ如何」ト問ヒ此レニ對シ英國代表ハ「右命令ハ委任統治地域ニモ適用アルモ

ノト記憶スルモ正確ナルコトハ後日調査スヘシ」ト答ヘ議長ハ「然ラハ「輸入ナル語及ヒ輸入ニ關聯スル語ハ植民地ニ輸入セラレタル物品ニシテ委任統治地域**トーゴーランド**向トシテ通過ヲ宣言セラレタルモノニ適用セス」ナル條項ハ如何ニ說明セラルヘキヤ」ト問ヒ英國代表ハ「此ノ點ニ關シテハ研究ヲナシ置クヘシ」ト答ヘタリ

次テ議長ヨリ「一九三五年四月十日ノ英國議會議事錄ニ依レハ**ゴールドコースト**ニ於テ日本商品ノ或ルモノニ關シ特別ノ關稅カ設ケラレタル旨植民大臣カ下院ニテ說明セリトノ趣ナルカ右關稅ハ委任統治地域向ケノ日本商品ニモ適用アルモノナリヤ」ト質問シ此レニ對シ英國代表ハ「適用アルモノト記憶スルモ詳細ニ關シテハ次期年報ニ於テ報告シ度シ」ト答ヘ議長ハ「此ノ場合ニ於テハ委任統治地域ニ入ル日本商品ハ他國ノ商品ヨリモ高キ關稅ヲ負擔スルモノト思考スルカ如何」ト問ヒ英國代表ハ「**ゴールドコースト**ト**トーゴーランド**トハ同一關稅制度ニ服スルカ故ニ御說ノ通ナラン」ト答ヘタリ

次イテ議長ハ一九三四年關稅追加條例ト呼ハルル同年命令第二十三號ノ適用範圍ヲ正確ニ承知シ度シトテ「右條例ハ**ゴールドコースト**政廳ヲシテ其指定セル國家ノ一切ノ生產品ニ對シ命令ヲ以テ稅額ヲ定ムルノ權ヲ取得セシメタルカ右ハ委任統治地域ニハ適用アル旨ノ特別條項ナシ、然ラハ委任統治地域ノ關稅ハ異ルモノナリヤ或ヒハ政廳カ機宜ノ處置ヲ以テ國別ノ稅額ヲ定メ得ルモノナリ

B-1169

0422

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ヤ」ト問ヒ英國代表ハ「政府ハ同條例第五項記載ノ各地域即チゴールドコースト植民地、アシヤンチ地域、ノーザン・テリトリー及トーゴーランド委任統治地域ノ總テニ關シ同一ノ關稅制度ヲ制定シタルモノト記憶スル」旨答ヘタリ

ラッパール委員ハ「前述ノ論議ヲ取纏ムレハ問題ハ輸入割當制ト日本商品ニ不利トナルヘキ特惠關稅トノ二ニ歸着スヘシ余ノ知ルトコロニ依レハ委任統治委員會ハ割當制ト經濟平等原則トカ兩立シ得ルヤニ關シテハ態度ヲ決シタルコトナシ他方委員會ハ經濟平等原則ト特惠關稅トハ常ニ相容レサルモノトノ見解ヲ維持セリ然シ乍ラ日本カ既ニ聯盟國タラサルニ依リ問題ハ新ナル分野ニ展開セリ受任國カ委任統治地域ニ於ケル經濟平等原則ノ適用ヲ承認シ居ルハ確信スル所ナルカ若シ行政上ノ便宜ニ依リ委任統治地域カ隣接ノ植民地ト同一ノ關稅地域ヲ構成スル場合ハ右植民地モ同樣ニ平等原則ニ從ハサルヘカラス委任統治委員會カ植民地ニ何等ノ權限ヲ及ホスヲ得スト云フハ正當ナルヘキモ兩地域ノ聯合カ專ラ行政上ノ便宜ニ依リ爲サレ經濟平等原則ヲ侵害セサルヘキ明示的留保ヲ有スル限リ該原則ハ自動的ニ關稅聯合地域全般ニ及フヘキコト理論上當然ナルカ如シ」ト述ヘ此レニ對シ英國代表ハ「右質問ハ甚タ廣汎ニシテ而モ重要ナルヲ以テ政府ニ照會スル要アリ然レトモゴールドコースト植民地ト委任統治地域ノ間ノ國境線ノ全部ニ監視所ヲ設クルニ非サレハ二地域間ノ關稅ニ關シ區別ヲ設クルコト絕對ニ不可能ナリ其ノ爲ニハ拂戻制度ノ如キヲ設ケサルヲ得サルヘシ」ト述ヘタルニ依リ**ラッパール**委員ハ「カカル種類ノ設備ヲナス意嚮アリヤ」ト問ヘルニ英國代表ハ之ヲ否定シ斯カル組織ハ甚タシク費用ノカカルモノナルカ故ナリト答ヘタルニ依リ議長ハ「行政上ノ便宜ノタメニ如上ノ措置カトラレタルモノトスレハ右ハ經濟上ノ平等原則ヲ尊重スルノ義務ヲ免レン爲ト考フルコトヲ得ス然レトモ立法者モ此ノ點ニ難點ヲ認メタルハ明ナリ」ト述ヘタリ

翌十月二十二日英國代表ハ「前日ノ會合ニ於テ一九三四年命令第二二號及二三號カ委任統治地域ニ適用アリヤニ付質問アリタルカ一九三四年ノ法令集ヲ研究スルヲ得タル結果右命令ハ英國委任統治地域**トーゴーランド**ニハ適用ナシト云ヒ得ル」旨宣言シ次イテ「一九三四年ノ**トーゴーランド**委任統治條例第一號及第三號ハ明ニ命令第二二號及第二三號ノ委任統治地域ニ對スル適用ヲ除外シ居レリ」ト述ヘタリ尙同代表ハ「**ゴールドコースト**ニ對シテ發布セラレタル法令ハ行政命令ノ改正ニ依リ明示的ニ除外サレルニ非サレハ全部ノ地域ニ適用アル」旨附加ヘタリ

議長ハ「年報八八頁ノ表ニ從ヘハ右二個ノ命令ハ**トーゴーランド**ノ南部扇形地帶ニ適用アルカ如ク思ハル」旨注意シタルニ英國代表ハ「年報ノ八七頁ニ示サレタル表ハ右二個ノ命令ノ**トーゴーランド**ニ適用セラレサルヲ示シ居ル處此等ノ命令ハ輸入織物割當ニ關スル法令ナルニ對シ八八頁ノ表ハ表題ノ示ス如ク輸入織物調整ニ關スル法令ナルヲ以テ兩者ハ異ルモノナリ」ト答ヘタリ

B-1169

0423

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ラッパール委員ハ「委任統治地域トゴールドコーストトニ相互ニ異ナレル關稅法カ同時ニ存スルコトヲ確認スルモ右兩地域ハ常ニ關稅上ノ聯合地域ヲナスカ故ニ商品カ一方ヨリ他方ヘ自由ニ通過スルヲ如何ニシテ妨ケ得ルヤ解シ難シ」ト述ヘ英國代表ハ「一九三四年ノ命令第二二號ノ輸入ニ關スル定義ニ從ヘハ商品カ委任統治地域ニ輸入セラルル場合ニハ移入ノ爲ニ通過スルモノナリト認メラレ輸入者ハ此ノ事實ヲ通告スヘク義務ツケラレ居レリ」ト答ヘ之ニ對シラッパール委員ハ「此ノ點ニ關シテハ敢テ執拗ニ追求ヲナスノ意圖ナキモ只共同ノ關稅地域ニ包含セラルルヲ以テ商品カ果シテ二者何レニ向ケラレタルヤ區別スルニ困難ナラント思ハルルカ故ニ實際上ノ取扱カ如何ニ行ハレ居ルヤ說明ヲ聞クヲ得ハ幸ナリ」ト述ヘ英國代表ハ來年度年報ニ於テ本件ニ關シ充分ノ說明ヲナス旨約シタリ

カクテ英國委任統治下ノトーゴーランドノ經濟平等原則ニ關スル委員會ノ**オブザベーション**ハ左ノ通

「委任統治地域トゴールドコースト植民地（后者ニ於テハ一九三四年「追加關稅條例」ニ依リ特惠制度ト割當制度トカ定メラレ居レリ）トノ間ニ關稅同盟アルニ鑑ミ委員會ハ實際上經濟平等原則カ受任國ニ依リ如何ニ監視セラレ居ルヤ其ノ方法ニ付次期年報ニ於テ說明ヲ與ヘラレンコトヲ希望ス」

四、英國委任統治地域タル**カメルーン**ニ關シテハ其ノ年報審査ニ當リ十月三十一日議長ヨリ「一九三五年度ニ於テ二個ノ國カ聯盟國タラサルニ至リタルカ右ノ中一國ハ本地域ニ相當額ノ輸入ヲ爲シ居リ他ノ一國即チ獨逸ハ輸入ニ關シ壓倒的地位ヲ占ムル處此等ハ今後モ經濟上ノ均等待遇ヲ享有スヘキヤ」ト問ヒ英國代表ハ右質問ヲ受任國政府ニ傳達スヘキコトヲ約シタリ

本地域ニ於ケル經濟平等原則ニ關スル委員會ノ**オブザベーション**ハ左ノ通

「委員會ハ一九三五年度ニ於テ聯盟國ヲ止メタル二個ノ國ニ對シ受任國カ經濟平等原則ノ適用ヲ如何ニ考慮スルヤ若シ之ヲ適用セサル場合ハ如何ナル指置ヲ講スルヤ承知シタシ」

五、茲ニ一言附加シタキハ第二十八回常設委任統治委員會終了後同年十二月英國議會下院ニ於テモ同國委任統治地域ニ關シ日本ニ經濟上ノ均等待遇ヲ維持スヘキヤ否ヤニ付論議アリタルコトニシテ此レニ對シ**ボールドウィン**首相及**クランボン**外務次官ヨリ夫々英國政府ノ態度ヲ表明スル所アリタルカ其ノ要旨左ノ通

(一) **ボールドウィン**首相ノ答辯

日本ハ聯盟國タルヲ止メタルニ依リ委任統治條項ノ規定ニ基キ同地域ニ於ケル通商上ノ均等待遇ヲ要求スヘキ法律上ノ權利ヲ有セス然レトモ現在ニ於テハ一九一一年ノ日英通商條約カ英國委任統治地域ノ或ルモノニ適用アリ此ノ條約ニ基キ日本ハ右條約ノ有效ナル限リ相互的基礎ノ上ニ最

B-1169

0424

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

惠國待遇ヲ享受スルモノナリ

(二) **クランボン**外務次官ノ答辯

一九一一年ノ日英通商條約ハ**パレスタイン**及**タンガンイカ**ニ適用アリ從テ日本ハ右地域ニ於テ相互的基礎ニ於テ最惠國待遇ヲ享受スルモノナリ又假令同條約ノ適用ナシトスルモ同地域住民ノ利益ニ於テスル以外差別課稅スルハ委任統治條項ニ合致セサルモノナリ

第五　第二十九回常設委任統治委員會

第二十九回常設委任統治委員會ハ一九三六年五月二十七日ヨリ六月十二日ニ亙リ開催セラレタルカ經濟均等待遇問題ニ關スル論議ハ左ノ通ナリ

一、**シリア及レバノン**年報審査ニ際シ六月四日**オーツ**委員ヨリ「委員會ハ前年度ニ於テ國際聯盟國タルヲ止メタル國家ノ商品ノ輸入カ**シリア及レバノン**ニ於テ聯盟國ト均等ノ待遇ヲ許與セラレ居ルヲ聞知シ其理由ヲ知リ度キ旨要求シタルカ之ニ對シ年報第二八頁ニハ日本及獨逸ハ確定的ニ聯盟ヲ脫退セルニ依リ現實ニ最高ノ關稅ヲ課セラレ得ヘキモ現在日本及獨逸商品ノ輸入地トシテ委任統治地域側ニ有利ナル市場ヲ確保スルノ目的ノ下ニ兩國トノ間ニ通商調整ニ關スル交涉繼續中ナリトノ記述アリ一九三四年佛獨通商條約締結ニ當リテ獨逸ハ聯盟脫退後モ尙三ケ月ハ最惠國待遇ヲ享受スル旨定メラレ而テ此ノ期間延長ハ數回更新サレタルモノノ如シ同時ニ日本モ新協定成立ニ至ル迄最

惠國待遇ヲ受ケ居ルモノノ如シ右二國ト委任統治地域トノ通商關係ハ益々發展シツツアルカ故ニ後者ニ重大ナル意義ヲ有スル右諸交涉ノ現狀ニ付報告ヲ與ヘラレ度シ」ト述ヘ此レニ對シ佛國代表ハ「日本ニ關シテハ現制度ハ毎月延長セラレ居ルモ同時ニ**シリア及レバノン**ノ日本向ケ輸出カ委任統治地域ヘノ日本品ノ輸入ト比例スルニ至ルヲ目的トシテ交涉カ進行中ナリ獨逸ニ關シテハ問題ハ獨逸清算制度ニ拘束セラレ其ノ期間未タ滿了ニ至ラサルカ故ニ再調整セラルルニ至ラス」ト答ヘタリ

斯クテ委員會ハ**シリア及レバノン**ニ關スル**オブザベーション**作成ノ際**レジーム、エコノミック**ノ項下ニ左ノ通述ヘタリ

「委員會ハ委任統治地域ト一九三五年聯盟國タルヲ止メタル二國トノ間ノ通商調整ニ關シ交涉進行中ナルコトニ多大ノ關心ヲ有シ右交涉ノ結束聯盟國カ委任統治條項第十一條ニ依リ有スル權利ヲ害セラルルコトナク委任統治地域ノ爲有利ナル市場ヲ確保スル協定ニ到達スルコトヲ希望スルモノナリ」

二、**パレスタイン及トランス・ジョルダン**年報審査ニ當リ六月九日ノ會合ニ於テ**オーツ**委員ハ先ツ一九三六年四月三十日附**アジャンス・ジェイヴ**ヨリ**パレスタイン**高級委員ニ宛テタル書翰（之ニハ一九三五年ノ**パレスタイン**ニ於ケル猶太民族團體ノ發展ニ關スル覺書カ附セラレタリ）ノ左ノ一節ヲ讀ミ

B-1169
0425
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

上ケタリ

「パレスタイン」ト他ノ諸國トノ通商關係ヲ正常ナル狀態ニ恢復スルタメニモ同樣ニ對策カ講セラレタリ「パレスタイン」ニ門戶開放制度ヲ命シ他ノ聯盟國トノ通商關係ニ於テ如何ナル差別ヲモ設ケ得サルヲ定メタル委任統治條項第十八條ハ現在ノ解釋ニ於テハ「パレスタイン」經濟ノ死活ニ關スル利益ニトツテ致命的ナル重壓トナリ居レリ「パレスタイン」產品ノ市場ヲ獲得スル點ニ於テハ相互的有利待遇ヲ受クヘキ手段モ有セス報復的ノ手段ヲ講スヘキ武器モナシ、通商關係ニ於テ相互條件採用ノ不可能ナル結果貿易「バランス」ハ極端ニ入超トナリ「オレンジ」ノ增收ノ爲ニ其ノ處分スヘキ市場ニ困難ヲ感スルニ至レリ「アジャンス・ジュイヴ」ハ「パレスタイン」ヲ其ノ通商上ノ發展ニソクハサル不利ノ狀態ニ置キ他國トノ關係ニ於テ永久ニ劣等ナル地位ニ置クカ如キ委任統治制度ニ永ク止リ得サルコトヲ主張スル「パレスタイン」ニ利害關係ヲ有スル諸國トノ間ニ相互條件ノ下ニ新ナル通商關係ヲ設定スルカ爲ニハ無差別原則ニ新ナル解釋ヲ與ヘルコト事態ノ要求スル所ナリト思考シ「アジャンス・ジュイヴ」ハ複關稅制度ノ採用ヲ妥當ナリトス卽チ最低最高兩稅率ヲ設ケ「パレスタイン」カ買フ量ニ比例シテ割當テタル額丈ケ「パレスタイン」ヨリ商品ヲ買フ諸國ニハ最低稅率ヲ適用シ右額ニ達セサル額ノミヲ買フニ過キサル諸國ニハ最高稅率ヲ適用スルコトトシタシ、尤モ此際ハ相互的關係ニモ相當彈力性アルモノトシ時期ニ應シ修正スルヲ

得ルモノトス、又右方法トハ別ニ現在世界的ニ適用セラレ居ルモノト類似スル割當制度モ採用シ得ヘシ、右二個ノ方法ハ何レモ差別的ニハアラサルヘシ何トナレハ何レノ國モ右制度ニ依リ利益ヲ得ルハ自由ナレハナリ「アジャンス・ジュイヴ」ハ右方法ノ何レカノ適用カ許容セラルルカ如キ委任統治條項第十八條ノ解釋カ聯盟ノ機關ニ依リ與ヘラレンコトヲ切ニ希望スルモノナリ」

「オーツ」委員ハ語ヲ繼イテ「經濟平等ノ原則カ適用セラレ居ル委任統治地域ハ「パレスタイン」ソノミニハ非サルモ此ノ點ニ關シ第二十七回委員會ニ於テ日本及獨逸ノ如ク聯盟國タルコトヲ止メタル國カ經濟平等原則ニ關聯シテ如何ナル地位ニアルヤニ付委任統治國ノ意見カ求メラレタル時「パレスタイン」ニ對スル受任國代表ハ英國ト日本トノ間ノ通商關係ハ如何ナル場合ニモ一九一一年ノ日英通商條約ニ依リ處理セラレ居ル旨說明シタリ「パレスタイン」ニ於ケル輸入カ相當重大ナル額ニ達スル諸國カ聯盟國タルヲ止メタル事實ハ「パレスタイン」ニ少クトモ其等ノ國ニ對シテハ經濟平等原則ノ適用ヲ排シ相互主義ニ基ク通商協定ヲ新ニ交涉スル機會ヲ與フルモノニシテ恐ラクハ再ヒ得難キ機會ナル處日英通商條約ニ依リ斯ル豫想ヲ「パレスタイン」ニハ許サスト法律上主張シ得ルヤ英代表ノ感想ヲ聽キ度シ」ト述ヘタリ

此レニ對シ英國代表ハ「委任統治條項ノ保證セル經濟平等原則ヲ受クル權利ヲ有セサルニ至リタル諸國ニ差別待遇ヲ爲スヘキヤ否ヤノ問題ハ委任統治地域ニ關スル利益ト義務トヲ考慮シテ受任國ニ

B-1169

0426

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

依ツテ決定セラルヘキモノニシテ先ツ委任統治地域ノ住民ノ利益ヲ考慮スヘキモノナリ日本（或ハ獨逸）ニ關シ均等待遇ヲ停止スヘキヤ否ヤヲ檢討スルニ際シテハ斯ル措置カ英國其他ノ聯盟國ニ與フル利益ノミヲ考慮シテ決スルノ權利ハ英國ニ存セス勿論前述セシ所ハ日本カ聯盟國タルヲ止メタル現在ニ於テ嘗テノ主タル同盟及聯合國タルノ故ヲ以テ委任統治地域ニ於テ經濟平等原則ヲ要求スルノ權利ヲ有スルヤ否ヤノ問題トハ別ナリ此ノ點ハ羅馬尼代表カ理事會ヘノ報告書ニ述ヘタル如ク今後ノ研究ノ題目タルヘク英國政府ハ現在ノ所此ノ問題ニ對スル態度ヲ明ニセサルヲ妥當ナリト思考ス」ト述ヘタリ

オーツ委員ハ「問題ノ存スルハ委任統治下ノ國家及住民ノ利益ノ點ナルカ受任國ハ此ノ利益ヲ保護スル義務アルモノナリ然ルニ事態ヲ現狀ノ儘ニ持續セント主張スル根據ハ今迄ノ所唯日英通商條約カ存在スルカ爲ナリトノ議論ナリ受任國ハ該條約カ**パレスタイン**ニ於テ差別待遇ヲナスヲ禁スルモソナリトノ見解ヲ有スルモノナリヤ否ヤ次ノ年報ニ於テ明ニセラレタシ」ト述ヘ此レニ對シ英國代表ハ「卽答スルヲ得サルニ依リ問題ノ點ヲ權限アル機關ニ附シテ研究セシムヘシ」ト答ヘタリ斯クテ委員會ハ**パレスタイン**ニ關シ**レヂーム・エコノミツク**ノ項下ニ左ノ**オブザベーション**ヲ作成セリ

「委員會ハ聯盟國タルヲ止メタル國ヨリノ輸入商品ノ待遇ニ關シ受任國カ委任統治地域及聯盟國ノ利益ノ爲採レル處置ニ付來年度年報中ニ完全ナル說明ヲ與フルコトヲ希望スルモノナリ」

第六　第三十回常設委任統治委員會

第三十回常設委任統治委員會ハ一九三六年十月二十七日ヨリ十一月十一日ニ亙リ開催セラレタルカ經濟均等待遇問題ニ關スル論議ハ左ノ通ナリ

一、十月二十九日英國委任統治地域**カメルーン**ノ年報審査ニ際シ議長ヨリ「前年ニ於テ理事會ヘソ**オブザベーション**ハ受任國カ一九三五年聯盟國タルヲ止メタル二國ニ經濟平等原則ヲ享受セシムルヤ否ヤヲ承知シタキ委員會ノ希望ヲ表明シタルニ對シ年報（第六頁第七項）ニハ受任國カ「今日迄ノ處」聯盟國ト非聯盟國トノ間ニ統治地域ニ於テ關稅ニ關シ差別ヲ設クル理由ヲ發見セス而テ日本及獨逸ノ聯盟脫退ニ伴ヒ此ノ點ニ關シ如何ナル政策ノ變化モナカリシ旨記述シ居ル處「今日迄ノ處」ナル語ノ暗示スル所ニ從ヘハ受任國ハ非聯盟國ニ經濟平等原則ヲ適用スルヲ義務ナリトハ考ヘサルモ他方委任統治ノ義務竝ヒニ統治地域ノ利益カ兩國ト聯盟國トノ間ニ差別的待遇ヲ要求スルト思ハレサルカ故ニ均等待遇ヲ與ヘ居ルモノト結論シテ可ナリヤ次ニ統治地域ト右二國トノ間ノ通商ニ適用セラレ居ル現行制度ハ如何ナルモノナリヤ第三ニ現行諸條約ニ從ヘハ委任統治地域ハ其ノ輸出ニ關シテ右二國トノ間ニ相互主義ニ基ク制度ヲ有スルヤ否ヤ」ト問ヒ英國代表ハ「余ノ知レル限リニ於テハ如何ナル差別待遇モ行ハレ居ラス又何等變更ノ意圖モ存セス」ト答ヘタリ

B-1169

0427

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

議長ハ「問題ハ英國委任統治地カメルーンノミニ關スルモノニ非スシテ一般問題ナルコト注意ヲ要ス、委員會ハ諸國カ此ノ件ニ關シ自國ノ權利ヲ如何ニ考ヘ居ルヤヲ最モ知リ度ク希望スルモノナルカ此ノ見地カラ年報ノ愼重ナル作成振ヲ見ルニ英國ハ非聯盟國ニ差別待遇ヲ設定スル權利ハ有スルモ其レヲ爲ササルヲ適當ナリト考ヘ居ルカ如キ印象ヲ得ルカ如何」ト問ヒ英國代表ハ「英國政府カ右權利ヲ有スルモノト思考スルヤ否ヤニ付明言スルヲ得ス單ニ何等ノ差別待遇カ爲サレ居ラサルヲ答ヘ得ルノミナリ又相互主義ノ問題ニ關シテハ次會期ニ於テ答ヘタシ」ト述ヘタリ

ラッパール委員ハ「本問題ノ總括的說明ヲナスヘシ」トテ「委任統治條項ニ依レハ聯盟國間ニハ經濟平等存在セサルヲ得サルモ非聯盟國ニ關シテハ何等言フ所ナキカ故ニ此ノ點ニ於テ受任國ハ全ク自由ナルカ如ク思ハルヘシ、之ヲ委任統治地域ノ利益ナル點ヨリ見レハ明ニ住民カ可及的ニ安價ナル商品ヲ買ヒ得ヘキカ望マシク平等原則ハ一切ノ國ニ擴張セラルルヲ以テ此ノ希望ニ適フモノト云ヒ得ヘキモ他方ニ於テ右經濟平等原則カ常ニ聯盟國ニ關スルト同樣義務的ナルモノト思考セラルルハ不便ナル點ヲ含ムモノト言フヲ得ヘシ何トナレハ上述ノ如キ非聯盟國カ委任統治地域ノタメニ與ヘル待遇ニシテ如何ニ不利ナル場合ニ於テモ統治地域ハ該諸國ニ對シ門戶ヲ解放シ置クヲ强ヒラルカ故ナリ」ト述ヘ此レニ對シ**ヘーレイ**委員ヨリ「問題ハ委任統治地域ノ輸出ニ關スル政策ニ關スルノミナリト思考セラルル處輸入ニ關シテハ受任國代表ノ答辯ニ依リ如何ナル差別待遇モ事實上爲サレ居ラサルヤ然與スルヲ得ス何者輸出ト輸入トノ間ニハ緊密ナル關係アルカ故ナリ若シ受任國ニシテ輸入ニ關シ差別待遇ヲナスノ權利ナシト思考スルトセハ今後通商交涉ノ可能性ニ重大ナル反響ヲ與フルニ至ルヘシ」ト應酬シ議長ハ「**カメルーン**ヨリノ輸出ノ中八〇%ハ非聯盟國向ナルヲ以テ此ノ問題ハカメルーンニ關シテ特別重大ナルコトヲ示スモノナリ」ト述ヘタリ

サレ居ラサルコトヲ委員會ハ承知シタル譯ナリ」ト述ヘタルニ**ラッパール**委員ハ「斯ル見解ニハ全

翌三十日ノ會合ニ於テ本問題ハ再ヒ蒸返サレ先ツ**マンスロン**委員ヨリ「**カメルーン**ノ經濟狀態改善ニ依リ利益ヲ受クル國ノ最タルモノハ聯盟ヲ脫退シタル國家即チ獨逸（輸出ノ八〇%、輸入ノ五〇%ヲ占ム）及日本ナルカ如シ、日本綿布ノ輸入ハ殆ント二倍トナレリ然レトモ**ナイジェリア**ニ關シ一年間設ケラレタル輸入割當量カ費消シ盡サレタル結果右商品ノ大部分ハ**ヴイクトリヤ**港（**カメルーン**ノ港）ヨリ陸揚セラレ居ル趣ヲ年報ハ說明ヲ與ヘタルカ如何」ト問ヒ英國代表ハ「此等商品ハ**ナイジェリア**ノ輸入割當量カ費消シ盡サレタルタメ年末頃迄即チ右商品カ次年度割當量ニ含マルルニ至ル迄ノ期間一時的ニ**カメルーン**ニ陸揚セラレタルナリ」ト說明セル處**ラッパール**委員ハ「**カメルーン**及**ナイジェリア**間ニハ關稅同盟アリ」ト指摘シ英國代表ハ其ノ事實ヲ認メタルモ「日本商品ノ割當ニ關スル法律ハ委任統治地域ニハ適用セラレス」ト述ヘタリ

ペンハ・ガルシア委員ハ「獨逸及日本カ委任統治制度ノ發生前ヨリ**カメルーン**市場ニ於テ優越ノ地

B-1169

0428

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

位ヲ占メ居タリト想像スル」旨述ヘタル處議長ハ「右想像ハ獨逸ニ關シテハ當レルモ日本ハ然ラス日本ハ近來ニ及ンテ統治地域トノ通商關係急增シタルナリ」ト述ヘ英國代表又此ノ觀察ヲ確認セリ

ラッパール委員ハ「**ナイジェリア**ニ於ケル輸入割當制度ノ存在ハ理解シ難キコトナリ**ナイジェリア**及**カメルーン**間ニハ關稅同盟アルモ斯クテ構成セラヘキ一**ブロック**內ニ於テ通商關係ヲ監視スル任務ヲ有スル稅關吏ナシ然ラハ一時的ノ名目ニテ**カメルーン**ニ輸入セラルル割當最超過ノ商品ハ稅關倉庫ニテモ保管セラレサル限リ如何ニシテ**ナイジェリエ**ニ移入セラルルヲ妨ケ得ルヤ」ト述ヘ英國代表ハ「商品カ稅關ニ保管セラルルヤ否ヤハ承知セス保存セラレストセハ商品カ容易ニ國境線ヲ通過シ得ルハ認ムルモ果シテ左樣行ハレ居ルヤ證據ナシ」ト答ヘ議長ヨリ「關稅同盟アル二國ノ一ニ割當制度アリ他ノ一ニ之ナキハ相當異樣ナリト思ハル」ト述ヘタルニ對シ英國代表ハ「全然個人的意見ナリ」ト前提シタル後「**ナイジェリア**ニ割當制ノ施行セラレタル時、日本ハナホ聯盟國タリシカ故ニ割當制ヲカメルーンニ迄擴張スルコトハ平等原則ニ明ニ反シタルカ爲ナルヘシ何レニセヨ明年度年報ニ於テ尙詳細ノ說明ヲ與フヘシ」ト答ヘタルニ**ラッパール**委員ハ「**ナイジェリア**ハ**オツタワ**協定ニ包含セラレ居ルモノト思考スル處其ノ結果英國ノ輸出業者ハ特惠待遇ヲ受ケ居レリ、然ルニ他方委任統治ノ地域ニハ經濟上ノ平等原則アリ同時ニ**ナイジェリア**ハ右統治地域ト關稅同盟ノ地位ニアリ此ノ三事實ハ互ニ兩立シ得サルモノト思考セラルル處ヲ如何ニ融合セシメ居ルカ伺ヒタシ、委任統治條項ニハ關稅同盟ニ關シ條項ノ他ノ規定カ承認スル限リニ於テ有效ナリト明言セリ、**ナイジェリア**ニ於ケル經濟不平等、委任統治地域ニ於ケル經濟平等、及兩地間ノ關稅同盟ト云フ此ノ三事實ハ如何ニシテ共存シ得ルカ理解シ難シ」ト述ヘ英國代表ハ「此ノ點ニ關シテハ來年度年報ニ於テ報告スヘシ」ト答ヘタリ

次ニ議長ハ前日ノ會合ニ於テ論議セラレタル通商均等待遇問題ニ關スル三個ノ問題ヲ再ヒ提起シ「第一ニ受任國ハ其ノ年報中ノ「今日迄ノ處」ナル語ニ依リ非聯盟國ニ通商均等待遇ヲ與フル義務アリトハ思考セサルモ他方委任統治ノ義務ト住民ノ利益トカ右諸國ト聯盟國トノ間ニ差別ヲ設クルヲ要求スルトモ思考セサル如ク解釋シ得ルモ如何」ト問ヒ英國代表ハ「右質問ニ對シテハ訓令ヲ俟タサレハ返答シ得サルニ依リ直ニ政府ニ照會スヘシ」ト答ヘ、議長ハ「第二ノ問題トシ委任統治地域ト非聯盟國トノ間ノ現行ノ通商制度ハ如何」ト問ヒ英國代表ハ「現行制度ニ依レハ聯盟國ト非聯盟國トノ間ニハ差別ナシ」ト答ヘ、議長ハ「第三ノ問題トシテ現行條約ノ規定ニ從ヘハ委任統治地域ハ其ノ非聯盟國向ケ輸出ニ於テ互惠的地位ヲ有スルヤ」ト問ヒ英國代表ハ「茲ニ確答シ得サルヲ遺憾トスルモ問題ハ現行條約ノ規定ニ懸ルヲ以テ來年度年報ニハ說明ヲ與フヘシ」ト答ヘタリ

斯クテ理事會ヘノ報告ノ爲メ英國委任統治地域**カメルーン**ニ關シ委員會ノ作成シタル**オブザベーション**ハ左ノ通ナリ

B-1169
0429
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

「委員會ハ受任國カ「今日迄ノ處」聯盟國ト非聯盟國トノ間ニ統治地域ニ於テ差別的ノ關稅制度ヲ設クル理由ヲ發見セス日本及獨逸ノ聯盟脫退ニ伴ヒ此ノ點ニ關シ態度ヲ變更スル意圖ナキ旨ニ注意ヲ拂ヒ、此等ノ國ノ輸入品ニ均等待遇ヲ適用スルハ法律上ノ見地ヨリ然ルヘキモノト思考スルカ故ナリヤ否ヤニ付來年度年報ニ於テ明示セラレンコトヲ希望ス、尙委員會ハ委任統治地域ト上述ノ國トノ間ノ現行通商制度ハ委任統治地域ノ輸出ニ關シ相互主義ニ依ル利益ヲ含ムモノナリヤヲ承知シタシ」

二、英國委任統治地域トーゴーランドニ關シテハ十一月二日ノ會合ニ於テゴールドコースト植民地ニ於ケル或ル商品ノ特惠的取扱或ヒハ輸入割當制度ニ注意ヲ惹カレタルカ委任統治地域ト隣接植民地トノ間ニ關稅同盟アルカ故ニ通商均等待遇原則ノ現實ノ適用ヲ受任國ハ如何ニ監視シ居レルヤ其ノ組織ニ付委員會ハ說明ヲ得度旨ヲ要求シタリ年報ハ第四三節乃至第四七節（一九頁及二〇頁）ニ於テ問題ノ手段ヲ採用ノ當時ゴールドコーストニ於テハ本件ニ關シ委任統治地域ニ通商均等待遇原則ヲ維持スル最モ簡單ナル方法ハ免稅通過ノ制度ヲ設クルコトナリト決定サレタリト說明セリ、割當制度ノ適用品目（綿布、絹織物等）ニ對シテハ特別ノ法令カ發布セラレ之ニ依リテゴールドコーストニ適用セラルル割當制度ノ存在ニ拘ラス此等ノ商品ハ無稅ニテゴールドコーストヲ經由シ委任統治地域ノ住民ノ手ニ入リ得ルト云ヒ（第四四節）附加稅ノ

課セラルル品目（セメント及波狀鐵板等）ニ關シテハ委任統治地域ニ無稅ニテ移入セラルルヲ規定セル規則カ未タ發布セラレサルモ右ハ斯カル商品ノ無稅輸入ヲ住民カ希望セサルカ故ナリト云ヒ年報ハ尙斯カル希望カ表明セラルルニ至ラハ右規則ノ發布ハ容易ナラント附加ヘタリ又年報ノ示ス所ニ依レハ前記法令ニ依ツテ輸入セラルル商品カ委任統治地域ヨリ植民地內ニ流入スルハ弊害ヲ避ケル爲ニ禁止セラレ居レリ尙如上ノ商品ハ佛國委任統治地域トーゴーランドヨリ本委任統治地域ニ輸入セラルル場合ハ如何ナル制限モ受クルモノニ非スト云ヘリ然ラハ受任國代表ハ次ノ點ニ說明ヲ與ヘラレ得ルヤ」ト述ヘ六項ニ亙ル左記質問ヲ提出セリ

(一) 採用セラレタル諸種ノ制限ハ今日迄ノ所專ラ日本商品ニノミ適用セラレタリト雖モゴールドコースト及委任統治地域ニ行ハレ居ル法律ハ原則トシテ之ヲ他ノ一切ノ國ニ及ホスヲ許容セサルヤ

(二) ゴールドコースト向ケノ輸入ニ適用サレ、委任統治地域ニハ適用ナキ制限（割當制度等）ハ日本商品ヲ目標トシ居ル處受任國ハ日本カ聯盟ヲ脫退シタル後ト雖モ均等待遇ノ原則ヲ適用スルヲ義務ト思考スルヤ

(三) 一般的ニ現在、委任統治地域ト一九三五年聯盟ヲ脫退セル二國トノ間ノ通商ニ適用セラレ居ル待遇ハ如何ナルモノナリヤ

(四) 現行條約ニ從ヘハ委任統治地域ハ其輸出ニ關シ問題ノ二國ニ於テ互惠主義ニ依ル利益ヲ享有ス

B-1169

0430

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ルヤ

(五) **ゴールドコースト**植民地ニ於テハ英國商品ノ爲ニ特惠關稅制度アリヤ（**オッタワ**協定）

(六) 若シアリトスレハ右協定ノ植民地ニ輸入セラレ、委任統治地域ニ仕向ケラレタル商品ニモ適用アリヤ

右質問ニ對シ英國代表ハ次ノ如ク回答シタリ

(一) 問題ノ法律ハ一般的ニ適用アリ如何ナル國ヨリ來ルヲ問ハス一切ノ商品ニ適用サルルモノナリ

(二)及(三)、英國政府ハ英國委任統治**トーゴーランド**ノ受任國トシテ今日迄ノ所同地域ニ於テ聯盟國ト非聯盟國トノ間ニ差別ヲ設クルカ如キ立法ヲナスノ義務ヲ認メス、故ニ日本及ヒ獨逸ノ聯盟脫退ニ伴ヒ此ノ點ニ於テ如何ナル政策ノ變更ヲモ意圖シ居ラス

(四) 回答スヘキ材料ナシ本年度年報ニ於テ回答ヲナスヘシ

(五) **ゴールドコースト**ニ於テハ**オッタワ**協定ニ基ク特惠關稅制度ナシ

(六) 右ニ依リ問題ハ成立セス

斯クテ委員會ハ英國委任統治地域**トーゴーランド**ニ關シ理事會ニ上申スヘキ**オブザベーション**中ニ於テ通商均等待遇問題ニ關シ左ノ如ク述ヘタリ

「委員會ハ受任國カ一九二五年聯盟國タルヲ止メタル國ヨリノ輸入商品ニ對シ均等待遇ヲ適用スルハ法律上ノ見地ヨリ然スヘキモノト思考スルカ故ナリヤ否ヤニ付來年度年報ニ於テ明示セラレンコトヲ希望ス尙委員會ハ委任統治地域ト問題ノ諸國トノ間ノ現行通商制度ハ委任統治地域ヨリノ輸出ニ關シ相互主義ニ依ル利益ヲ包含シ居ルヤ否ヤヲ承知シ度シ」

三、佛國委任統治地域タル**カメルーン**ニ關シテハ十月二十七日其ノ年報審査ニ際シ議長ヨリ「第二十八回委員會ニ於テ受任國代表ハ聯盟國タルヲ止メタル二國カ委任統治地域ニ於テ其ノ輸入ニ均等待遇ヲ享受シ居ルヤノ問題ニ付研究ヲナス旨聲明シタル處右研究ハ既ニ完了セルヤ又其ノ結論ハ如何ナルモノナルヤ又此レト關聯シテ現在此等ノ國ノ商品ニ適用セラレ居ル制度ハ如何」ト問ヒタル後、年報（九三頁）中ノ日本ニ關スル左ノ記事ヲ注意ニ値スルモノトシテ讀ミ上ケタリ

「日本ハ其ノ商品ノ價格ノ低廉ナルカ故ニ目覺シキ進展ヲナセリ其ノ輸入ハ一九三五年一、〇八五噸、價額ニ於テ一二、〇五五、〇〇〇法ニ達シタリ從來其ノ商品ハ主トシテ綿布、綿製被服、メリヤス類及**ゴム**製履物類ナリシカ次第ニ發展シテ他ノ商品即食料品罐詰、磁器、陶器、硝子製品、自轉車及空氣**タイヤ**等ニ迄及ハントシツツアリ」

此レニ對シ佛國代表ハ「右ノ問題ハ法律的ニモ經濟的ニモ甚タ重大ニシテ植民省及外務省ニ於テ研究ヲ遂ケタルカ法律的ニハ通商均等待遇原則ハ聯盟國ニノミ適用セラルルトノ結論ニ達シタリ、前聯盟國ト北米合衆國トハ之ヲ同視スルヲ得ス後者ハ一九二三年二月十三日佛蘭西トノ間ニ締結セラレ

B-1169

0431

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

タル特別ノ條約ニ依リ均等待遇ヲ得タレハナリ從ツテ佛國政府ハ前聯盟國ハ均等待遇ヲ享受スルノ權利ヲ要求スルヲ得ストノ意見ヲ有スルモ何等カノ措置ヲ取ル前ニ先ツ委任統治委員會若クハ理事會ノ決定ヲ知ルカ又ハ少クトモ本件ニ關スル兩機關ノ見解ヲ知ルヲ以テ適當ト認ムルカ故ニ實際ニハ如何ナル措置モ未タ採ラレ居ラス」ト述ヘタリ議長ハ「問題ハ理事會ニ付託セラレ居ラス余ノ意見ニ依レハ受任國カ自ラソノ權利ト義務ヲ解釋スヘキモノト思考ス他方右政府ノ結論ハ伯林議定書第一條ニ依リ規定セラレタル通商均等待遇地域ニ包含セラルルカメルーンノ部分ニモ適用セラルルヤ」ヲ問ヒ佛國代表ハ「カメルーンハ右地域外ナリト思考スルモ確實ナラス」ト答ヘヘーレイ委員ハ「此ノ問題ニ關シ佛國ハ北米合衆國ト既ニ協定ヲ締結シタル カ日本トモ協定ヲ締結スル意圖アリヤ」ト問ヒ佛國代表ハ「從來ノ制度ニ於テハ日本ハ聯盟國ナリシヲ以テ之ト特別ナル條約ヲ結フ必要ナカリシヲ以テ如何ナル協定モナシ、新ニ協定ヲ結フ可能性ニツイテハ回答ヲ與フル權限ヲ有セス」ト答ヘタリ

翌十月二十八日議長ハ再ヒ前日ノ質問ヲ取上ケ一九一九年サン・ジェルマン條約ニ定メラレタル通商自由地帶ノ地圖ヲ受任國代表ニ提供シ「地圖ニ依レハカメルーンノ四分ノ一ハ右地域ニ包含セラレ居ル處周知ノ如ク經濟的意味ニ於テハ基礎原則ハ右條約ニ依ルモ委任統治條項ニ依ルモ同一ナルカ均等待遇ノ利益ヲ享受スル者ハ右二者ノ中ノ何レニ從フカニ依リ同一ノ意味ニ於ケル均等待遇ヲ受

クルニ非サルヲ以テ實際的ノ見地ヨリ委任統治地域ニシテサン・ジェルマン條約ニ規定セラレタル地域ニ含マルル委任統治地域ノ一部ニ右二者ノ何レカ適用セラルルカハ興味ノアル點ナリ」ト述ヘタルニ佛國代表ハ「カメルーンニ於ケルサン・ジェルマン條約上ノ益地地域範圍ノ問題ハ之ヲ政府ニ通知シ政府ト共ニ審議シ議長ニ依リ提出セラレタル質問ニ對シテハ書面ヲ以テ答フルコトトスヘシ」ト述ヘタリ

佛國委任統治地域トーゴーニ關シテハ十月三十一日其ノ年報審査ニ際シ議長ヨリ「今般ノ會合ニ於ケル佛國委任統治地域カメルーンノ年報審査ニ當リ受任國代表ハ其ノ政府カ委任統治地域ニ於テ聯盟國タルヲ止メタル國ニ均等待遇ヲ適用スル義務ナシトノ結論ニ達シタルカ實際ニ於テハ此ノ結論ハ行ハレ居ラスト述ヘタル處トーゴーニ於テモ此ノ點ニ關シテ如何ナル措置モナサレサリシヤ」ト問ヒ佛國代表ハ「カメルーンノ場合ト同樣ナリ卽チ受任國政府ハ或ル國カ聯盟脫退セルノ事實ハ經濟均等待遇ヲ受クルノ權利ヲ該國ニ失ハシメタルニ關スル問題ハトーゴーニハ起ラサルコト云フ迄モナシ」ト答ヘタリ

斯クテ委員會ハ佛國委任統治地域トーゴー及カメルーンニ關スルオブザベーショントシテ次ノ如ク理事會ニ上申スルコトトナレリ

「委員會ハ受任國カ調査ノ結果聯盟國タルヲ止メタル國ヨリノ輸入品ニハ均等待遇ノ利益ヲ享受

B-1169

0432

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

セシムル義務ナシトノ結論ニ達シタルノ旨ノ政府代表ノ聲明ニ留意シ尚同時ニ右結論ニ拘ラス今日迄ノ所從來ノ制度ニ如何ナル變更モ加ヘラレ居ラサル事ニ注意スルモノナリ」

四、白國委任統治地域**ルアンダ、ウルンディ**ニ關シテハ十一月六日ノ會合ニ於テ議長ハ「年報一七九頁及一八〇頁ノ表ニ依リ一九三五年ノ獨逸ヨリノ輸入カ一、七九〇、五二九法ニ達シ居ル」ヲ認メ「受任國ノ意見ニ依レハ聯盟國タルヲ止メタル國カ均等待遇ヲ享受シ續クルヲ認ムルモノナリヤ否ヤ」ヲ問ヒタル處白國代表ハ「現在ノ所該國ハ經濟均等待遇ヲ事實上享受シ居ルモ法律上ノ問題トナリタルコトナシ」ト答ヘ議長ハ委任統治條項ノ見地ヨリ此ノ問題ヲ提出スル旨ヲ述ヘタルニ白國政府代表ハ「後日ノ返答ヲナス爲ニ政府ニ此ノ問題ノ檢討ヲ要求スルモ現在政府ノ名ニ於テ意見ヲ述フルヲ得ス又右問題ハ實際上ノ利益ナシ**サン、ジェルマン、アン、レーイ**條約ニ依リ規定セラレ居ル白領**コンゴー**ニ於テハ外國間ニ如何ナル差別待遇モ行ハレ居ラス委任統治條項ノ意味カ如何ナルモノニセヨ**ルアンダ、ウルンディ**ニ如何ナル差別待遇モ存セサリシコトハ宣言シ得ル所ナリ」ト述ヘ議長ハ「受任國カ來年度年報ニ於テ彼ノ質問ニ答辯セラレンコトヲ希望ス」ト述ヘタリ斯クテ本地域ニ關スル委員會ノ作成セル**オブザベーション**ハ次ノ如シ

「委員會ハ受任國カ聯盟國タルヲ止メタル國ノ商品ニ對シ與ヘントスル取扱振ニ付說明ヲ與ヘラレンコトヲ望ムモノナリ」

第七、第三十一回常設委任統治委員會

常設委任統治委員會ノ第三十一回會期ハ一九三七年五月三十一日ヨリ六月十五日ニ亘リ開催セラレタルカ同會期ニ於ケル通商均等待遇問題ノ論議ハ左ノ通ナリ

一、英國委任統治地域**タンガンイカ**ニ關シテハ六月一日其ノ年報審査ニ際シ**ペンハ・ガルシア**委員ヨリ「委員會ハ從來聯盟ヲ脫退シタル國ニ適用セラルル經濟上ノ平等原則ニ關スル問題ニ多大ノ注意ヲ拂ヒ來リタル處此ノ點ニ關シ年報第五二項ヲ見ルニ受任國ハ從來ノ政策ニ如何ナル變更ヲモナス意圖ナシトアリ右ハ受任國カ變更ヲナス權利ハアルモソレヲ欲セサルモノト云ヒ得ルヤ、或ヒハ右ノ如キ權利ナキコトヲ意味スルモノナリヤ」ト問ヒ英國代表ハ「右說明ノ意味ハ受任國カ如何ナル變更モ意圖セス、從テ右ノ如キ問題ハ檢討シタルコトナシトノ事ナリ」ト述ヘタルニ**ペンハ・ガルシア**委員ハ「問題ノ法律的側面ハ檢討セラレサルカ故ニ問題ハ未解決ナリト推定ス」ト述ヘ英國代表ハ「若シ檢討カ加ヘラレタル場合ニハ如何ナル變更モ爲シ得サルコトヲ確認スルニ至ルヘシ問題ハ其處ニ在リ」ト應酬シ**ペンハ・ガルシア**委員ハ「英國代表ノ右意見ハ受任國カ將來何等カノ決定ヲナスノ權ヲ留保スルモノト思考スルカ如何」ト問ヒシニ英國代表ハ「受任國ハ問題ヲ檢討スルノ能力ニ關シ態度ヲ留保スルモノナリ」ト答ヘタリ

ラツパール委員ハ「事態ハ**コンゴー**盆地ノ問題ニ依ツテ益々複雜化セラレタリト思料ス、委任統治

B-1169
0433
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

地域ノ全部トハ云ハサル迄モ殆ント大部分ノ地域カ經濟上ノ平等原則ヲ規定スル**サン・ジェルマン**條約ノ支配下ニアリ」ト述ヘ英國代表ハ「正ニ右ニ云ハレル通リナリ問題ハ實ニ複雜ニシテ如何ナル變更モ意圖セラレ如ラサルカ故ニ未タ充分ニ論議セラレタリト云フヲ得ス」ト答ヘタリ

斯クテ委員會ハ英國委任統治地域**タンガンイカ**ニ關スル**オブザベーション**中ニ通商均等待遇問題ニ關シ左ノ如ク述ヘタリ

「委員會ハ受任國カ今日迄ノ處委任統治地域ニ於テ聯盟國ト非聯盟國トノ間ニ差別ヲ設ケル如キ關稅立法ヲナスノ理由ヲ發見セス此ノ點ニ關シ旣度ヲ變更スルノ意圖ヲ有セストノ回答ヲ爲シタルコトニ留意シ、受任國カ次年度年報ニ於テ非聯盟國ノ商品ニ經濟上ノ均等待遇ヲ與フルハ法律的ニ其ノ義務アリト思考スルカ爲ナリヤ否ヤ明ニサレンコトヲ望ムモノナリ」

二、英國委任統治地域**カメルーン**ニ關シテハ六月四日其ノ年報審査ニ際シ英國代表ヨリ左ノ通リ聲明スル所アリタリ

「英國委任統治地域**カメルーン**ニ關スル一九三五年ノ年報ニ付、常設委任統治委員會ハ其ノ理事會ヘノ報告ニ於テ受任國カ聯盟國タラサル國ヨリノ輸入商品ニ經濟上ノ均等待遇ヲ適用スルハ法律上義務アリト思考スルカ故ナリヤ否ヤニ付來年度年報中ニ於テ報告アリ度シトノ希望ヲ表明シタリ英國政府ハ聯盟國タラサル國ハ委任統治地域ニ輸入スル商品ノ爲ニ、委任統治條項ニ基クモ將又聯盟規約第二十二條ニ基クモ、經濟上ノ均等待遇ヲ要求シ得サルモノト思考ス英國政府ノ意見ニ依ルニ該諸國ハ此ノ點ニ關シ受任國ト特別ノ協定ヲ締結スルニ非サレハ其ノ輸入商品ニ對スル均等待遇ヲ要求シ得サルモノナリ他方英國政府ハ該諸國カ事實上現在英國委任統治地域ニ於テ享受シツツアル經濟上ノ均等待遇ヲ該諸國ヨリ剝奪スル立法ヲ權限アル機關ニ慫慂スル意圖ヲ有セス」

此レニ對シ**ヘーレー**委員ハ「聯盟國タラサル國ヨリノ輸入カ六〇%ヲ占ムルニ鑑ミ右ハ甚タ重要ナル聲明ト思考ス」ト述ヘ**ペンハ・ガルシア**委員ハ「右聲明ハ前回ノ委員會ニ於テ述ヘラレタル所ト稍異ル所アリ受任國ハ聯盟ヲ脫退シタル國カ其商品ニ對スル經濟上ノ均等待遇ヲ要求スルヲ得ストノ法律上ノ見解ヲ採用シ而モ此ノ點ニ關シテ別段ノ措置ヲ採ルノ意圖ナキヲ明ニセルモノト認メラルル處問題ハ委任統治地域カ該諸國ニ於テ其ノ輸出品ニ對スル經濟上ノ均等待遇ヲ確保スルノ機會ヲ得タリヤ否ヤニアリ英國政府ハ該諸國ヨリノ輸入品ニ差別待遇ヲ爲スノ權ヲ有スルコトヲ認ムルモ實際上ハ差別待遇ヲ爲ササリキ此ノ恩惠ト交換條件ニ於テ英國政府ハ該諸國ヘノ輸出商品ニ有利ナル待遇ヲ與フル如ク要求シタルヤ主要點ハ獨逸向**バナナ**ノ輸出ニ關スルモ此ノ點如何」ト質問シタリ

英國代表ハ「余ノ知レル限リニ於テハ、英國政府ハ右ノ如キ措置ヲ採リタルコトナシ年報第一二四

B-1169

0434

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

項（四八頁）ニ依レハ輸出ノ七九%ハ聯盟國タル一國（獨逸）向ナリ、該國ハ問題トナレル輸出商品ノ生産ニ多大ノ關心ヲ有シ居レリ」ト答ヘ**ファン・アスベック**委員ハ「右商品ハ獨逸ニ於テ特別ノ關稅ヲ課セラルルヤ」ト問ヒ英國代表ハ「確答シ得サルモ**カメルーン**ヨリ獨逸ニ輸入セラルルハ**ナニ**障碍トナルカ如キ關稅ハ恐ラク存セサルヘシ」ト答ヘ**ペンハ・ガルシヤ**委員ハ「此ノ點ニ關シ充分ナル報告ヲ來年度年報ニ得ハ幸ナリ互惠主義ヲ要求スルコトニ依リ委任統治地域ノ爲利益ヲ得ルコトハ可能ナルカ如ク思考セラル」ト述ヘタリ

次ニ英國委任統治地域**トーゴーランド**ニ關シテハ六月十日其ノ年報審査ニ際シ英國代表ヨリ一般的說明ノ中ニ於テ經濟平等原則ニモ論及シタリ其ノ論旨ノ內容ハ前揭**カメルーン**ニ關シ英國代表ノ述ヘタル所ト全然同一ナルカ玆ニ再錄スレハ左ノ通リナリ

「一九三五年ノ年報審査ニ當リ委員會ハ受任國カ聯盟國タルヲ止メタル國ノ輸入ニ經濟上均等待遇ヲ適用スルハ法律上義務アリト思考スルカ故ナリヤ否ヤヲ知リ度シト要求シタリ余ハ此ノ問題ニ對シ訓令ニ基キ次ノ如ク回答スルモノナリ、英國委任統治地域**トーゴーランド**ニ關スル一九三五年度年報ニ付常設委任統治委員會ハ其ノ理事會ヘノ報告ニ於テ、受任國カ聯盟國タラサル國ヨリノ輸入商品ニ經濟上ノ均等待遇ヲ適用スルハ法律上義務アリト思考スルカ故ナリヤ否ヤニ付來年度年報中ニ於テ報告アリ度シトノ希望ヲ表明シタリ英國政府ハ聯盟國タラサル國ハ委任統治地域ニ輸入スル商品ノ爲ニ、委任統治條項ニ基クモ聯盟規約第二十二條ニ基クモ、經濟上ノ均等待遇ヲ要求シ得ストノ思考スルモノナリ英國政府ノ意見ニ依ルニ該諸國ハ此ノ點ニ關シ、受任國ト特別ノ協定ヲ締結スルニ非サレハ其ノ輸入商品ニ對スル均等待遇ヲ要求シ得サルモノナリ他方英國政府ハ該國カ事實上現在英國委任統治地域ニ於テ享受シツツアル經濟上ノ均等待遇ヲ該諸國ヨリ剝奪スル立法ヲ權限アル機關ニ慫慂スル意圖ヲ有セス」

ペンハ・ガルシア委員ハ「此ノ點ニ關シ英國代表ニ依リ爲サレタル聲明ハ、**カメルーン**年報審査ニ際シ爲サレタル所ト異ナラス委任統治地域ハ互惠主義ヲ要求シ得ルカ故ニ、聯盟國タルヲ止メタル國ニ於テ現在ヨリ有利ナル待遇ヲ得ルカ如キ措置カ採ラレタルヤ否ヤ承知シ度シ」ト問ヒ英國代表ハ「此ノ點ニ關シテ採ラレタル措置ハ知ラサルモ互惠關係ハ**ココア**ニ關シテ從來存在シタリ何トナレハ佛蘭西ニ於テハ同國ノ港ヨリ發送セラルル商品ニ有利ナル待遇ヲ與ヘタルカ故ニ右**ココア**ハアッ**クラ**港（**ゴールドコースト**）ヨリモ寧ロ佛國委任統治地域內ノ**パリーム**ヨリ發送セラレタルカ故ナリ現在ニ於テハ年報第八六項（二五頁）ニ示ス如ク斯カル事情存在セサルカ如シ」ト答ヘ**ペンハ・ガルシア**委員ハ「問題ハ聯盟ヲ脫退シタル國ニ關スルモノナリ、委任統治地域ハ經濟上均等待遇ノ政策ヲ採レルカ故ニ該諸國ニ對シテハ交涉ヲナシ得ルノ地位ニアリ、卽チ其ノ與ヘタル均等待遇ニ對シテ何等カノ特權ヲ要求シ得ルモノト思考スルカ如何」ト問ヒ英國代表ハ「右ハ**ゴールドコース**

B-1169

0435

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

トノ地方政府ニ於テ檢討スヘキ問題ナリ」ト答ヘタリ

フアン・アスベック委員ハ「**カメルーン**ノ場合ニ於テハ前聯盟國向ケノ輸出カ多額ニ上レルカ**トーゴーランド**ニ關シテモ同樣ナリヤ」ト問ヒ英國代表ハ「主要ナル輸出商品ハ**ココア**ナルカ右ハ一旦アクラ（**ゴールドコースト**ノ港）ニ存在スル輸出商ニ依リ買上ケラレ、他ノ地域ヨリ產スル**ココア**ト共ニ發送セラルルヲ以テ**トーゴーランド**產ノモノノ仕向地ヲ指示スルハ困難ナリ余ノ知ル限リニ於テハ主要ナル輸入國ハ獨逸、北米合衆國及英國ナリカ**メルーン**ニハ一港ヲ存スルモ**トーゴーランド**ニハ海岸ナク從ツテ統計ヲ作成スルハ至難ナリ」ト答ヘタリ

斯クテ委員會カ英國委任統治地域タル**トーゴーランド**及**カメルーン**ニ關シテ採擇シタル**オブザベーション**ハ左ノ如シ

「委員會ハ受任國カ聯盟國タラサル國ハ委任統治條項ノ規定ニ依ルト聯盟規約第二十二條ニ依ルトヲ問ハス委任統治地域ニ於テ其ノ輸入スル商品ニ經濟上ノ均等待遇ヲ要求スルヲ得スト思料シ又受任國ノ意見ニ從ヘハ其等ノ國ハ受任國トノ間ニ締結セル條約ニ依ルニ非サレハ其ノ輸入品ニ對シ通商上ノ均等待遇ヲ要求スルヲ得スト思料スル旨ノ聲明ヲ了承シ同時ニ委員會ハ現在ノ處受任國カ聯盟國ニ非サル國ニ對シ實際ニ於テ其ノ享受シツツアル經濟上均等待遇ヲ剝奪スル立法ヲ權限アル機關ニ慫慂スルノ意圖ナキ旨ヲモ了承シタリ、委員會ハ再ヒ委任統治地域ヨリノ輸出カ

土逃ノ諸國トノ現行通商制度ニ於テ互惠主義ヲ享受シ居レルヤ否ヤニ就キ承知シタキ希望ヲ表明スルモノナリ」

第八　第三十二回常設委任統治委員會（臨時會合）

常設委任統治委員會ハ擾亂ニ依リ年報作成不能ノ爲其ノ審査ヲ延期シ居リタル**パレスタイン**ノ狀態ヲ檢討スルタメ一九三六年七月三十日ヨリ同八月十八日迄臨時會合ヲ開キタルカ八月九日**パレスタイン**ノ一九三五年及一九三六年ノ年報審査ニ際シ**ペンハ・ガルシア**委員ヨリ「聯盟ヲ脫退セル諸國ニ對スル經濟上ノ無差別待遇ニ關シ一九三五年及一九三六年ニ於テ受任國ニ依ツテ示サレタル見解ニ矛盾アリ」（一九三五年ノ年報（二三一頁）ニ於テハ單ニ「聯盟國タラサルニ至リタル諸國ニ對シ別個ノ政策ヲ採用スル必要ヲ認メス」ト云ヒ一九三六年ノ年報（二一五頁）ニ於テハ二個ノ異レル理由ヲ擧ケタリ卽チ第一ニ無差別待遇ハ結局委任統治地域ニ有利ナル規定ナリト云ヒ若シ實際ニ於テ差別待遇ノ政策ヲ採用セハ委任統治地域カ最早購入ノ自由ヲ有セサルニ依リ或種ノ原料品ノ價格ハ騰貴スルニ至ランニ聯盟國タラサルニ至リタル諸國ニ差別待遇ヲナスコトニ如何ナル利益モ認メスト述ヘ居ル處他方年報ノ他ノ部分（四八―四九頁）ニ於テハ英國ト日本トノ間ニハ條約存在シ之ニ依リ日本ニ無差別待遇ヲ與フコト義務ナリトセリ實際ノ事態ハ如何、原則トシテ受任國ハ委任統治地域ノ利益ヲ考慮セス單

B-1169

0436

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ニ受任國ノ利益ノミヲ問題トスル自國ニ關スル條約ニ依ッテ委任統治地域ヲ束縛セントスルモノナル
ヤ」ト述ヘタルニ對シ、英國代表ハ「右二箇ノ理由ニ實質的相異存スル譯ニ非ス、英國政府ハ他國トノ
條約中ニ於テモ**パレスタイン**ノ爲ノ利益ヲ得ルニ努メタリ**パレスタイン**ノ政府ハ委任統治條項ニ無差
別待遇ノ項アル爲關稅竝ニ割當制度ニ依リ齎ラサルル障碍ヲ除去スル爲ノ交涉ニ關シ束縛ヲ受ケ居ル
處此ノ障碍ヲ考慮シ英國政府ハ通商條約ニ依リ**パレスタイン**ニモ成ルヘク有利ナル關稅條件ヲ獲得ス
ルヤウ努力シタリ日本ト締結セラレタル條約ノ場合ニ於テモ右條約ノ規定中ヨリ**パレスタイン**ヲ除外
スルコトカ該地域ノ爲有利ナリトハ英國政府ハ思考セス、英國政府ハ一方ニ於テ**パレスタイン**ノ或種
ノ新興工業ヲ保護スル爲日本品ニ保護關稅ヲ課スルコトヨリ生スル利益ヲ考慮スルヲ義務ト考ヘタル
モ他方ニ於テ右保護關稅ノ結果生スルコトアルヘキ價格トノ關係ヲモ考
慮スルヲ以テ義務ナリト考ヘ總テノ考慮ヲ盡シタル後英國政府ハ右條約ノ存續カ利益ナリト思考スル
ニ至リタリ」ト答ヘタリ**ペンハ・ガルシア**委員ハ「既ニ聯盟國タラサル國ニ關シテハ受任國ハ之ニ無差
別的關稅待遇ヲ與フルノ義務ナシト云ヘル處日英條約ハ一般的原則ニ關スルカ故ニ**パレスタイン**ノ通
商政策ニ關シテハ右條約ヲ援用スル必要ナク唯無差別的取扱カ**パレスタイン**ニ取リ有用ナリヤ否ヤニ
付承知シタシ」ト問ヒタル後「一九三六年ノ年報ニ云ヘル所ト**ロイヤル、コミッション**報告書二一七
頁以下及三六八頁等ニ記載セラレタル同**コミッション**ノ意見即チ**パレスタイン**ノ利益ヲ無視スル委任

統治條項第十八條ノ修正ニ對スル希望トノ間ニハ著シキ矛盾アリ一九三六年ノ年報ニハ無差別的待遇
カ甚タ有用ニシテ現行制度ヲ變更スル理由ナシト云ヘルカ斯クノ如ク記述ニ相異アル理由如何」ト問
ヒ英國代表ハ「右注意ヲ惹ケル年報ノ個所ハ日英條約ヨリ**パレスタイン**ヲ除外スルコトカ同地域ノ爲
ニ利益ニ非サルコト及從ッテ此場合ニ於ケル差別待遇ハ利益ヨリモ寧ロ不便ナルコトヲ英國政府カ思
考スル點ヲ强調スルノ目的ニ出テタルモノナリ委任統治條項第十八條ニ依ル不都合ノ問題ハ委任統治
委員會ニ提出セル**メモランダム**中ニ述ヘラレ其中ニ於テ**パレスタイン**ハ委任統治條項第十八條ニ依リ
其ノ自由ヲ制限セラレタルカ故ニ若干ノ大ナル不自由ニ遭遇セル旨說明セラレタルカ余ハ英國政府カ
未タ前記**ロイヤル、コミッション**ノ報告第二部ニ對シテハ決定ヲ與ヘス又余自身モ第二部ニ關シテハ請
願ニ對スル返答トシテ記セラレタル**メモランダム**ノ範圍以外ニ此レニ關スル政府ノ見解ニ付訓令ヲ受
ケ居ラス」ト答ヘタリ

英國委任統治地域**トランス・ジョルダン**ニ關シテハ、八月九日其ノ年報審査ニ際シ**ペンハ・ガルシア**委
員ヨリ「**パレスタイン**ノ經濟平等原則ニ關スル一項ハ**トランス・ジョルダン**ニモ適用セラルルヤ否ヤ」
ヲ質問シタル處英國代表ハ之ヲ肯定シタリ

斯クテ**パレスタイン**ニ關スル委員會ノ**オブザベーション**中經濟平等原則ニ關スルモノハ左ノ通リ決定セ
ラレタリ

B-1169

0437

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

「委員會ニ依リ審査セラレタル文書ニモ掲載セラレタルカ如ク、委任統治條項第十八條ニ規定セラレタル經濟平等原則ノ適用ハソノ互惠制度ヲ缺クカ爲ニ**パレスタイン**ノ工業及商業ニトリ一ノ重壓トナレリ委員會ハ右ニ關シ受任國カ或ル場合**パレスタイン**ノ爲利益ヲ圖リタルコトニ留意スルト共ニ一九三〇年理事會カ總テノ聯盟國ニ對シ其ノ生産品カA式及B式委任統治地域ニ於テ享有スル利益ニ對應シ右委任統治地域ノ生産品モ同樣ニ有利ナル待遇ヲ確保スルヤウ勸告シタルコトヲ回顧シ、受任國カ一層多數ノ國ノ同意ヲ得ル事ニ依リ委任統治地域ノ現在ノ不利ナル狀態ヲ改善センコトヲ希望スルモノナリ」

第九　第三十三回委任統治委員會

第三十三回委任統治委員會ハ一九三七年十一月八日ヨリ同十九日迄開催セラレタルカ經濟均等待遇問題ニ關スル論議ハ左ノ通ナリ

一、佛國委任統治地域タル**シリア及レバノン**ニ關シテハ十一月九日ノ會合ニ於テ**ジロー**委員ヨリ「年報第十八頁ニ記載セラレタル**シリア、イラーク**間ノ善隣境界協定ハ盛夏期ニ於ケル牧畜、牧草、農業、課稅及治安問題ヲ內容トシ通商關係ニ觸レ居ラサルカ如キ處**イラーク**ニ於テハ**シリア**ヨリ送出サルル商品ニ對シテ如何ナル制度ヲ實施シ居ルヤ又同協定ハ一九三五年以來修正セラレタルコトナキ次第ナリヤ兩國間ノ貿易尻ヲ見ルニ**シリア**ニ取リ著シク不利ナルコトヲ觀取セラル」ト述ヘ此レニ對シ佛國代表ハ「一九三五年ノ協定ハ其儘ナルモ近々中ニ商議ノ運トナルヘシ數ケ月前**イラーク**國大臣巴里ニ來リ通商商議案ノ決定ヲ見ルニ至レリ今日迄本件商議ハ妥決ニ達セルコトナク**イラーク**國ハ**シリア**國民政府ト商議ノ上受任國ノ介入ヲ俟タストセルカ右ハ委任統治制度ト扞格スルモノナリ**イラーク**國ハ**シリア及レバノン**ニ於テ相互條件ノ下ニ一切ノ聯盟加入國ニ最惠國待遇ヲ附與スルノ義務ニ對スル除外トシテ委任統治下ノ國ニ對シ認メラレタル隣接國ニ特定ノ利益ヲ附與スルノ權利ニ均霑スルコトヲ得ルモノナリ」ト答ヘ**ジロー**委員ハ「年報第十九頁ニ「一九三七年一月三十日獨逸國ニ依リ、、、一個ノ協定調印セラレ右協定ノ規定ニ依リ**シリア及レバノン**商品ノ獨逸國輸入ノ際供與セラルル或種便益ノ代償トシテ云々」ノ記載アル處右協定ニ云フ便益トハ如何ナルモノナリヤ一九三六年ニ於テ獨逸國ハ**シリア及レバノン**ヨリ六百萬法ノ商品ヲ買付ケタルニ過キサルニ反シ兩國ヘノ賣付ハ三千九百萬法ニ達セリ」ト述ヘ佛國代表ハ「右便益ニ關シテハ何等承知セス」ト答ヘタリ

ジロー委員ハ「日本國トノ貿易カ片貿易ナルカ故ニ同國トモ取極妥結セラレタル處年報ニ於テ右取極ニ依リ**シリヤ及レバノン**產商品ノ日本向輸出カ增加ヲ見ンコトヲ期待スト陳述シ居レリ」ト述ヘ佛國代表ハ「日本ヲシテ**シリア及レバノン**ニ於テ原料品特ニ棉花ノ買付ヲナサシムル樣仕向ケタル次第ナルカ日本ノ**シリア及レバノン**向輸出ニ對シ日本ヲシテ一種ノ課金ヲ徵收セシメ之ヲ日本ノ賣

B-1169

0438

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

付ニ對スル代償トシテ一定ノシリア及レバノン商品ノ買付ヲ可能ナラシムル資金ニ振當ルコトヲ
ル制度カ採用セラレタリ右代償ハ現在ノ所尚少額ナリ蓋シ日本ハ當委任統治地域ニ對スル大ナル供
給國タリシニ拘ハラス一九三六年迄ハ日本ノ買付ハ皆無ナリキ」ト答ヘタルニ議長ハ「シリアノ日
本向輸出カ著シク增加セルコトヲ認メラルルモ之ヲ日本ヨリノ輸入ニ比スレハ依然トシテ云フニ足
ラサルモノニシテシリアノ日本品買付ハ五千八百萬法ヨリ七千三百萬法ニ達セル處右制度ニ依リ更
ニ一段ト貿易ノ平衡化ヲ期待シ得ヘキヤシリアハ日本向輸出品トシテ左シタルモノヲ有セサルカ如
シ」ト述ヘ此レニ對シ佛國代表ハ「日本ハ現ニ原棉ノ買付國ニシテ更ニ多クノ原棉買付ヲナシ得ヘ
シ」ト答ヘタリ

ペンハ・ガルシア委員ハ「日本國及獨逸國トノ協定ヲ法理的ニハ研究セサルモ此等協定ハシリア及
レバノンニ利益ヲ與フルモノナルコト疑ヲ容レス」ト述ヘタルニ佛國代表ハ「埃及訪問ノ後シリア
及レバノンニ赴ケル日本專門家ノ云フ所ニ據レハ同地產原棉ハ日本ニ販路ヲ見出シ得ヘシトノコト
ナリ棉花栽培ハ發展シツツアリ特ニ北シリアニ於テ然リトス歐洲諸國特ニ受任國ハ日本品ノ當委任
統治地域進出ニ依リ打擊ヲ受ケ居ルコト疑ナキモ日本品ノ輸入カ委任統治地域ノ國內工業ノ發展ヲ
遮ケサル限リ歐洲諸國ニ有利トナル輸入稅率ノ引上ニ依リ日本品ヲ驅逐スルコトヲ當委任統治地域
ニ要請シ得サルヘシ尤モ國內工業ノ發達ヲ阻礙スル場合ニハ當委任統治地域ハ保護關稅ヲ强化スル

コトニ依リ日本品ヲ防遏セサルヘカラサルヘシ委任統治地域ハ日本國ニ對シテハ關稅上ノ自由ヲ有
スルカ故ニ若シ日本ノ買付カ其ノ賣付ニ比シ充分ナル代償トナラサル際ニハ右ノ自由權ヲ行使スル
コトヲ得ヘシ」ト答ヘタリ

ペンハ・ガルシヤ委員ハ「シリアノ關稅政策ハ委任統治カ終末ヲ告ケタル際變更セラルヘキモノト
考フルカ如何」ト問ヒ佛國代表ハ「シリア及レバノンハ同地向輸出ニ比シ充分ナル買付ヲナシ居ラ
サル諸國ニ對シテハ自衞ノ爲關稅自由權ヲ行使スヘシ他方シリア及レバノンニ於テハ將來性アル各
種部門ノ國內工業創始セラルルノ傾向アルヲ以テ販路トシテノ同地市場ハ著シク縮小セラルルコト
トナルヘシ」ト答ヘタリ

二、佛國委任統治地域カメルーンニ關シテハ十一月十一日ノ會合ニ於テ議長ヨリ「委員會ハ國際聯盟
加入國カ委任統治規定及其他國際間ノ文書ニ依リ保證セラレタル方法ニ於テ經濟均等待遇ヲ享受シ
居ルヤヲ監視スルノ要アリ」ト述ヘ佛國代表ハ「佛蘭西委任統治下ノカメルーン地域ニ在ルコンゴ
ー條約地域ノ一部ニ對スル佛蘭西側解釋ハ聯盟規約竝一九一九年九月十日ノサン・ジェルマン協定ノ
何レヲモ批准セル諸國ノミ經濟均等待遇ヲ受クルノ權利ヲ有ストナスモノニシテ此ノ結果聯盟ヨリ
脫退セル諸國ハ右權利ヲ失フニ至ルモノト考フ」ト答ヘタリ

右佛國代表ノ陳述ニ對シファン・アスベック委員ハ「本委員ノ意見ニテハ佛蘭西側解釋ハ和蘭側解釋

B-1169

0439

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ト相違シ居ルカ如シ和蘭側解釋ニテハ**サン・ジェルマン**條約ヲ批准シ居ラサル和蘭及其ノ他ノ諸國ニ付テハ伯林條約カ適用セラルヘキモノナリトナスモノナリ**サン・ジェルマン**條約批准國ニシテ非聯盟國タル諸國ハ經濟均等待遇ヲ有スルヤ伺ヒ度シ」ト問ヒ議長ハ「佛蘭西側解釋ニ依レハ**サン・ジェルマン**條約ハ聯盟規約ニ加入セル諸國ニ對シテノミ享益ヲ保障スルモノニシテ同條約第一條ニ於テ「署名國ハ其ノ臣民ト本條約ニ加入セル聯盟國臣民間ニ其ノ統治ノ下ニ置カレタル地方ニ於テ完全ナル經濟平等ヲ維持スヘキコトヲ約ス」トアルカ故ニ非聯盟國ハ經濟均等待遇ヲ有セサルコトトナルヘシ要スルニ佛蘭西側解釋ニ依レハ經濟平等權ヲ享有スル爲ニハ聯盟國タルト同時ニ**サン・ジェルマン**條約調印國タラサルヘカラス」ト述ヘタル後「本問題ヲ如何ニ取計フヘキカハ委員會ノ任務ニシテ議長トシテハ代表ノ宣言ヲ記錄スルニ止ムヘシ右宣言ハ同統治地域ノ住民ト直接利益關係ヲ有スルカ故ニ委任統治委員會ノ關心ヲ呼フモノナリ」ト述ヘタリ

佛國委任統治地域タル**トーゴー**ニ關シテハ十一月十二日ノ會合ニ於テ**ペンハ・ガルシ**

三、白國委任統治地域タル**ルアンダ・ウルンディ**ニ關シテハ通商均等待遇問題ニ關スル格別ノ論議ナシ

ア委員ヨリ「委員會ハ受任國カ聯盟國タルヲ止メタル國ノ商品ニ對シ與ヘントスル取扱振ニ付說明ヲ與ヘラレタキ旨ノ意見ヲ提出スル所アリタルカ右ニ關シ年報ハ第二百三十二頁ニ於テ「白耳義委任統治下ニ在ル領土ト交易關係ヲ有スル一切ノ諸國ハ其聯盟加入國タルト脫退國タルト若クハ聯盟

員タリシコトナキ國タルトヲ問ハス完全ナル平等待遇ヲ受ケ居レリ、**ルアンダ、ウルンデイ**政廳ニ於テハ右通商政策ノ方針ヲ變更シ又ハ差別制度ヲ設ケントスルカ如キコトハ意圖シ居ラス」トノ白耳義政府回答ヲ記載セリ、他方第三十回委任統治委員會會合ニ於テ**オーツ**議長ト白耳義代表間ニ**アンダ・ウルンディ**委任統治條項トサン、ジェルマン、アン、レーイ條約トノ關係ニ關シ意見ノ交換アリ卽チ**オーツ**議長ヨリ白耳義政府ノ見解ニ從ヘハサン、ジェルマン、アン、レーイ條約ニ依リ規定セラレタル經濟平等地域ニ包含セラレ居ル委任統治地域ニ於テ右條約ノ規定ハ委任統治條項ノ規定ニ優ルモノナリヤトノ質問アリタルニ對シ白耳義代表ハ右ニ對スル回答ハ次回報告書ニ登載セラルヘキモ白耳義政府ハ主義的意見ヲ陳述スヘキ立場ニ置カレ居ルモノナリヤ又委員會ノ監督事項タル行政ノ實際及行爲以外一連ノ法律的及理論的質問ヲ爲シ得ル權限ヲ有スルモノナリヤヲ借問スト述ヘタルカ右ニ關シ議長ハ受任國ハ其ノ權利義務ノ範疇ニ付定見ヲ有セサルヘカラサルカ故委員會ハ右ノ如キ質問ヲナシ得ルモノナリト應酬シタルコトアリ、年報中ニハ本委任統治地域ニ於テハ絕對的通商平等存スルカ故理論的ニシテ且相對的興味ヲ惹クニ過キサル本問題ニ付テハ報告スル所ナキカ余ハ單ニ受任國代表ニ對シ受任國カ本問題ヲ檢討セルコトアリヤ果シテ然ラハ其ノ所見如何ト質問スル次第ナリ」ト述ヘ此レニ對シ白耳義代表ハ「報告書中ニ登載セラレタルカ如キ白耳義政府ノ回答ハ委任統治委員會カ國際聯盟理事會ニ提出セル要望ニ對スル回答トシテハ滿足ナルモノニ

B-1169

0440

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

シテ蓋シ右要望ニ於テハ聯盟外諸國ニ對スル待遇ニ關スル受任國ノ意思ノミカ對象トナリシモノナリ而シテ右意思ニ付テハ受任國カ表明セル通リ受任國ハ諸國間ニ差別ヲ設クルコトヲ考ヘ居ラス一切ノ國ハ無差別的ニ平等制度ニ均霑シ得ヘシ」ト答ヘタルニ**ベンハ・ガルシヤ委員**ハ「**ルアンダ、ウルンディ**ト通商關係ヲ有シ居ル國總體トシテ見ルトキハ本問題ハ成程理論的ナルヘキモ殊統治地域側ヨリ見ルトキハ本問題ハ或種ノ重要性ヲ有スヘシ他ノ委任統治地域ニ於テハ或種ノ場合ニ於テ經濟均等待遇ヲ喪失セル諸國ト互惠制度ヲ設定セルモノアリ**ルアンダ、ウルンディ**ニ付テモ他日斯クノ如キ場合ヲ生起スルコトアルヘキカ故ニ本問題ハ興味ヲ呼フモノナリ」ト述ヘ此レニ對シ白耳義代表ハ「右意見ハ本問題カ純然タル**アカデミック**ナル性質ノモノニアラスシテ若シ一國カ恩惠ニ依リテノミ經濟均等待遇ヲ享有スルモノナラハ相互制度許與權ヲ發動シ得ヘク而シテ若シ受任國カ實際上右權利ヲ行使セサル場合ニハ非難ヲ免レサルヘシトノ意ト解釋スル處右ノ見地ヨリスルモ本問題ハ理論ノ領域ヨリ離ルルモノニアラス**ルアンダ、ウルンディ**ニ付テハ聯盟外ノ諸國ヨリ供與セシメ得ヘキ相互的利益ナルモノ見當ラス年報記載ノ貿易統計ニ依レハ**ルアンダ、ウルンディ**ニ輸入ヲ爲シ居ル聯盟外三國向同委任統治地域ノ輸出ハ皆無ナルカ若クハ極ヲテ微々タルモノナリ日本ニ付テハ**ルアンダ、ウルンディ**ニ輸入品ヲ運送シ來ル日本船ニ歸荷トシテ**ルアンダ、ウルンディ**產品ヲ積載スルコトヲ期待スルハ誤ニアラス、獨逸ニ付テハ錫石、原棉及珈琲ノ輸出有望ナルモ右產品ハ無稅輸入ヲ許サルル白耳義ニ市場ヲ有シ同市場ニ悉ク吸收セラレ居ル實狀ナリ故ニ如何ナル相互協定モ獨逸又ハ其他ノ國ニ於テ此等商品ノ販路好轉ヲナシ得サルナリ」ト答ヘ議長ハ「要スルニ相互協定ノ締結ヲ妨クルモノハ關稅制度ニハアラスシテ輸出商品ノ贏缺ニアリト云フ譯ナリ」ト述ヘ**ペンハ・ガルシア委員**ハ更ニ執拗ニ質問ヲ繼續シ「現在ノ狀態ヨリ推シテ將來異リタル狀態ヲ招來シ得サルモノトナスコトヲ得ス一例ヲ上クルニ**シリア**ニ於テハ相互制度ノ效果トシテ**シリア**ノ日本向輸出ハ約六百%增加セリ故ニ今後受任國カ**ルアンダ、ウルンディ**ノ經濟制度ニ關スル政策ヲ變更セサルヲ得サルニ至ル可能性アリト云フヘシ」ト述ヘタルカ議長ハ「本問題ノ討議ハ複雜ナルノミナラス微妙且煩鎖ナルニ付此レ以上繼續スルノ必要ナカルヘシ委員會ハ現在ノ狀態ニ滿足シ「當地域ニ於テハ完全ナル經濟均等待遇カ存ス、白耳義政府ハ權利問題ニ觸レス將來ニ對スル自由ヲ留保ス、委任統治地域ハ相互主義ノ缺如ニ依リ聯盟外ノ諸國トノ通商上何等苦惱トスル所ナシ」トノ白耳義政府ノ宣告ヲ記錄スルヲ以テ足レリトス故ニ本問題ノ討議ハ此程度ニテ打切リタシ」ト述ヘタリ斯クテ委員會ハ**ルアンダ、ウルンディ**ニ關スル**オブザベーション**中ニ於テ同地域ノ均等待遇問題ニ關シ左ノ通リ述ヘタリ

「委員會ハ委任統治地域內ニ於テ經濟均等待遇原則ノ適用ニ關シ同地域ト交易關係ヲ有スル總テノ國カ聯盟國タルト聯盟ヲ脫退セル國タルト將又未タ聯盟國ト爲リタルコトナキ國タルトヲ問ハ

B-1169

0441

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ス何レモ完全ニ平等ニ取扱ハレ居ルコト並受任國カ右通商政策ヲ變更シ差別的制度ヲ樹立スルノ意圖ナキコトヲ述ヘタル受任國ノ回答ヲ了承ス」

第一〇　第三十四回常設委任統治委員會

一九三八年六月八日ヨリ同二十六日迄開催セラレタル第三十四回常設委任統治委員會ニ於テ委任統治地域ニ於ケル非聯盟國ノ經濟均等待遇カタンガンイカニ付問題トナリタル處右討論ノ模様ハ左ノ如シ

ベンハ・ガルシア委員ハ「受任國カタンガンイカノ商品ニ關シ多數ノ國ヨリ最惠國待遇ヲ得タル政策（年報第六頁第七項）ニ敬意ヲ表スルモノナルカ年報第二八頁第四六節ニ依ルニ受任國ハ其ノ意見トシテ假令非聯盟國カタンガンイカニ輸入スル商品ニ關シ委任統治條項又ハ聯盟規約第二二條ニ基キテ經濟平等原則ヲ要求スルコトヲ得ストスルモ此ノ種ノ要求カ該地域ニ適用アル他ノ手段ニ依リ正當化サレ得ル場合アリト說明シ居ル處右ニ述ヘラレタル他ノ手段トハ何ヲ意味スルカヲ明ニセラレタシ」ト述ヘ此レニ對シ英國代表ハ「他ノ手段トハ第一ニ伊太利、北米合衆國及日本ノ加入シ居ル一九一九年ノサンジェルマン條約、第二ニタンガンイカニ於テ北米合衆國ノ爲ニ聯盟國ト同樣ノ經濟上ノ權利ヲ承認セル一九二五年二月十日ノ英米協定、第三ニ最惠國民條款ノタンガンイカニ於ケル適用ヲ約シタル英國ト他ノ諸國（年報第六頁第七項ニ列擧ノ諸國）トノ間ノ雙務的通商協定ナリ」ト答ヘタリ

ペンハ・ガルシヤ委員ハ「委任統治條項ニ認メラレタル原則ト右ノ諸協定ノ認メタル原則トノ間ニハ矛盾アルカノ如キ印象ヲ受ク余ハタンガンイカカ最惠國待遇ヲ認メラレタル結果獲得セル利益ニ對シテ嚴格ナル原則ノ適用ヲ緩和スルハ正當ナリト思考スルモ上述ノ受任國ノ政策ハ此ノ場合稍斷定的ニ過クル感アリ」ト述ヘ**ヘーレイ**委員ハ「若シタンガンイカノ立場ヨリ日本商品ニ該地域ヘノ輸入稅ヲ課スルヲ有利ナリト判斷セラレタリトスルモ受任國ハ日英通商條約アルカ故ニ斯カル手段ノ採用ヲ不可能ナリト思考セラルルヤ」ト問ヒ英國代表ハ「法律的見解ヲ政府ニ要求セスシテ回答ヲナスコト不可能ナルニ付質問ノ件ハ政府ニ報告シ一九三八年度年報ニ於テ回答ヲ與フヘシ」ト答ヘタリ

B-1169

0442

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

第三節　A式及B式委任統治地域ニ於ケル貿易實狀

第一　英國委任統治地域パレスタイン

一、面積、人口及密度

面　稱　一六、〇〇〇平方粁

人　口　一、〇三五、一五四

人口密度　一平方粁ニ付六四・七

二、貿　易

(イ)　最近五ヶ年間ノ輸出入貿易狀況左ノ如シ　(單位千磅)

	一九三六年	一九三五年	一九三四年	一九三三年	一九三二年
輸出總額	四、九三三	五、五三三	四、六四〇	三、九八八	四、三二七
パレスタイン物産ノ輸出	三、六二五	四、二一五	三、二一七	二、五九一	二、三八一
通過輸出	三三〇	四八一	二三九	一八七	一九六
保稅倉庫ヨリノ輸出	八五	六八	四九	四八	—
外國貨物ノ再輸出	六四二	三〇〇	二八三	三一九	二四三
正貨ノ輸出	二五一	四六六	八五〇	八四一	一、五〇五
輸入總額	一四、三七〇	一八、八五七	一五、六六五	一一、四五六	八、一二〇
消費向輸入	一三、九〇〇	一七、八五三	一五、一五二	一一、一二三	七、七六八
通過輸入	三三〇	四八一	二三九	一八七	一九六
正貨ノ輸入	一四〇	五二一	二七三	一四五	一五五
輸出入合計	一九、三〇三	二四、三九〇	二〇、三〇五	一五、四四四	一二、四四七

(註)　一九三六年ノ輸出入ニ關スル數字ハ上十一月ノ實績ニ十二月ノ見積ヲ加ヘタルモノナリ

(ロ)　輸入貿易

一九三五年及一九三六年ニ於ケル重要輸入品左ノ如シ　(價額單位パレスタイン磅)

品名	數量單位	一九三五年 數量	一九三五年 價額	一九三六年 數量	一九三六年 價額
大麥	千瓩	一二、五〇三	六三、五六〇	三五、〇三六	一七二、〇〇〇
米	同	一七、九一九	一九三、二〇四	一八、六七四	一六九、〇〇〇
小麥	同	一七、八九二	一一七、四二八	二一、六〇五	二〇六、〇〇〇
小麥粉	同	三三、七八六	三四八、九五〇	三〇、二八〇	三四七、〇〇〇
屠殺用牛	頭	二八、五三五	二九六、九九〇	三四、〇〇〇	三四九、〇〇〇
羊及山羊	同	三四四、〇〇二	二五二、二九〇	三三五、〇〇〇	二九二、〇〇〇
卵	千個	七五、九二四	一三八、二〇九	八八、〇二六	一八四、〇〇〇
魚(乾、鹽、生及罐詰)	千瓩	四、八五六	一七三、五六四	五、〇二三	一六六、〇〇〇
家禽	千羽	一、七六四	一三三、四七九	二、〇〇〇	一六七、〇〇〇
パター	千瓩	二、二九一	一九一、三五三	二、四八〇	二二二、〇〇〇
生果實	同	一二、六七二	二〇四、二三五	一四、〇九二	二四一、〇〇〇
珈琛	同	一、九〇三	七九、九六九	一、二〇〇	五四、〇〇〇
砂糖	同	二六、九六〇	二〇六、八二九	二六、六〇〇	一九五、〇〇〇
馬鈴薯	同	一五、七七四	九七、二〇八	一六、九〇〇	一〇五、〇〇〇

B-1169

0443

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

薬	機	絹	毛	綿	綿糸、絹糸、ヤ	ベ	柑	工	農	電	冷	ラチオ	歯	鐵及鋳	鐵	セ	衛	鋪	燃	油	採	鉱	石
						ニ	橘				蔵		科、外科、眼科用器械	及鋳鐵製パイプ及同取付品	枠、メ								
	織	織					業		機		器及同部分品					ン	具	道		生	用	料	
品	物	布	糸	板	材	具	具								骨	ト	具		油	子	材	炭	

同	同	同	同	千	千	立方米	同	千	千	同	千	立方米
						瓩						瓩

| | | |

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

B-1169

	英領印度	錫蘭	海峡植民地	蘭領印度	仏領印度支那	暹羅	波斯	諸国	計
一九三五年	一、五三二、九六六	八五五、〇八六	三九七、四四〇	二〇、七〇七	一、九七〇、〇〇〇	一三、〇二〇	八九、七六九	一一、二一四	四五六、九五〇
一九三六年	一、九七〇、〇〇〇	八七〇、〇〇〇	四五七、〇〇〇	一〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	五、四〇〇、〇〇〇
増減	四三七、〇三四	一七、九一四	五九、五六〇	一〇、七〇七	二九、九三〇	三、〇二〇	一〇、二三一	一、二一四	四九三、〇五〇

一九三五年及一九三六年ニ於ケルベレスタイン商品ノ仕向國及其ノ國別割合

國別	一九三五年		一九三六年	
	數量	割合	數量	割合
英國	二、五五三、九六六	五四・三四	一、九七〇、〇〇〇	三六・四九
印度	一、五三二、九六六	三三・六一	一、九七〇、〇〇〇	三六・四九
錫蘭	八五五、〇八六	一八・八八	八七〇、〇〇〇	一六・一一
海峡植民地	三九七、四四〇	八・五五	四五七、〇〇〇	八・四七
蘭領印度	二〇、七〇七	〇・四八	一〇、〇〇〇	〇・一九
仏領印度支那	一、九七〇、〇〇〇	四一・五五	二、〇〇〇、〇〇〇	三七・〇四
暹羅	一三、〇二〇	〇・二八	一〇、〇〇〇	〇・一九
波斯	八九、七六九	一・九二	一〇〇、〇〇〇	一・八五
諸国	一一、二一四	〇・二四	一〇、〇〇〇	〇・一九
計	四五六、九五〇	一〇〇・〇〇	五、四〇〇、〇〇〇	一〇〇・〇〇

三、本邦ト貿易關係

一九三六年	日本向輸出	六〇、〇〇〇ベレスタイン磅	
	此邦貨	一、〇三二、〇〇〇圓	
一九三六年	日本ヨリノ輸入	四一五、〇〇〇ベレスタイン磅	
	此邦貨	七、一三八、〇〇〇圓	

日本向輸出ハ久シク皆無ナリシカ一九三五年ニ於テ一〇、七〇七ベレスタイン磅、一九三六年ニ於テ六〇、〇〇〇ベレスタイン磅ノ輸出アリタリ右輸出ノ内容ニ關シテハ日本側統計ニ依リテモ判明セサル處右ハ日本カ最近買付ヲナセルボタンノ輸出ニ係ルモノト推定セラル

本邦ヨリノ輸入ハ一九三〇年ニ於テ僅カニ一八八〇七ベレスタイン磅ニシテ輸入總額トノ割合ハ二厘ニ過キサリシカ其後逐年增加シ一九三五年ニ於テ六四五六九五ベレスタイン磅輸入總額トノ割合三分五厘、一九三六

	英領印度	錫蘭	海峡植民地	蘭領印度	仏領印度支那	暹羅	波斯	諸国	計
一九三五年	一、五三二、九六六	八五五、〇八六	三九七、四四〇	二〇、七〇七	一、九七〇、〇〇〇	一三、〇二〇	八九、七六九	一一、二一四	四五六、九五〇
一九三六年	一、九七〇、〇〇〇	八七〇、〇〇〇	四五七、〇〇〇	一〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	五、四〇〇、〇〇〇
増減	四三七、〇三四	一七、九一四	五九、五六〇	一〇、七〇七	二九、九三〇	三、〇二〇	一〇、二三一	一、二一四	四九三、〇五〇

	英領印度	錫蘭	海峡植民地	蘭領印度	仏領印度支那	暹羅	波斯	諸国	計
一九三五年	一、五三二、九六六	八五五、〇八六	三九七、四四〇	二〇、七〇七	一、九七〇、〇〇〇	一三、〇二〇	八九、七六九	一一、二一四	四五六、九五〇
一九三六年	一、九七〇、〇〇〇	八七〇、〇〇〇	四五七、〇〇〇	一〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	五、四〇〇、〇〇〇
増減	四三七、〇三四	一七、九一四	五九、五六〇	一〇、七〇七	二九、九三〇	三、〇二〇	一〇、二三一	一、二一四	四九三、〇五〇

	英領印度	錫蘭	海峡植民地	蘭領印度	仏領印度支那	暹羅	波斯	諸国	計
一九三五年	一、五三二、九六六	八五五、〇八六	三九七、四四〇	二〇、七〇七	一、九七〇、〇〇〇	一三、〇二〇	八九、七六九	一一、二一四	四五六、九五〇
一九三六年	一、九七〇、〇〇〇	八七〇、〇〇〇	四五七、〇〇〇	一〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	五、四〇〇、〇〇〇
増減	四三七、〇三四	一七、九一四	五九、五六〇	一〇、七〇七	二九、九三〇	三、〇二〇	一〇、二三一	一、二一四	四九三、〇五〇

年ニ於テ四一五、〇〇〇ポ磅輸入總額トノ割合二分九厘ニ達セリ本邦ヨリノ輸入商品ノ主ナルモノハ綿布、絹布、人絹製品、莫大小製品、電球、陶磁器、玩具、護謨靴等ナリ

第二　英國委任統治地域トランス・ジョルダン

一、面積、人口及人口密度

面　積　二〇、〇〇〇平方哩
人　口　推定人口　三〇〇、〇〇〇
人口密度　一平方哩當リ一五

二、貿　易

(イ) 完全ナル統計ナク實數判明セサルモ一九三六年ニ於ケル統計ニ計上セラレタル輸出入額左ノ如シ

輸　入	七九四、九五六	パレスタイン磅
輸　出	二二七、九九六	同
合　計	一、〇二二、九五二	同

（此外ニ再輸出額三二四二磅アリ）

(ロ) 經路別ニ依ル輸出入額左ノ如シ（單位パレスタイン磅）

輸　入

	一九三六年	一九三五年	一九三四年	一九三三年
パレスタイン通過輸入	二三六、〇〇八	二〇〇、一一九	二一二、四一五	二一七、四一二
シリア通過輸入	一九九、〇一三	八二、六一一	三〇、七四五	九、九〇三
	四、九四五	（統計ナシ）	（統計ナシ）	（統計ナシ）
郵便局通過輸入	九、五〇八	七、五五〇	二、七三〇	六、八二一
イラーク通過輸入	一一、一一五	（統計ナシ）	（統計ナシ）	（統計ナシ）
ネジド通過輸入	一二二、四五三	一二、三二〇	一三、六二七	一二、七一八
パレスタイン製品ニ於テ輸入税ヲ支拂ハレタル外國品輸入	三六、〇八八	八一、〇四三	七九、四二五	六八、五三二
シリア製品ニ於テ輸入税ヲ支拂ハレタル外國品輸入	二二、八六三			
パレスタイン製品	一五三、九六三			

輸　出

	一九三六年	一九三五年	一九三四年	一九三三年
パレスタイン向輸出	一九八、二一五	二、六七八	二九、七八一	五六四
パレスタイン向再輸出	二、六七八	（統計ナシ）	（統計ナシ）	（統計ナシ）
シリア向輸出	二九、七八一	二一、四八七	九、二二〇	一、八七三
シリア向再輸出	五六四	（統計ナシ）	（統計ナシ）	（統計ナシ）
ネトド向輸出	（統計ナシ）	一	一	三八〇
ネジド向再輸出	一、八七三			
イラーク向輸出	三八〇			
イラーク向再輸出	一			

(ハ) 重要輸入品（一九三六年）

B-1169
0447
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

綿製品	九四、九二六(六種)	晒金巾	一四、三五九(六種)
紋織綿布	一二、九三七	人絹織物	七三、〇四五
キヤラコ	九、五七九	ベンヂン	四六、八八一
砂糖	四五、五九七	ケロゼン	二一、七〇〇
珈琲	一六、六四〇	羊毛製品	一五、六四七
木材	一四、九六四	下着類	一三、九九九
サムネー	一三、七〇〇	頭巾	一三、八五七
菜子類	一一、五五四	金屬製品	一一、四八八
靴	一〇、四六七	茶	一〇、五五六
穀粉類	八、四一〇	オリーブ油	八、一七二
毛織物	七、九七一	鐵製品	七、〇四七
紙製品	六、二一六		

(二) 重要輸出品

羊	三二、三二二(六種)	山羊	八、一七五(六種)
家禽	二、七二九	サムネー	八、七七五
生野菜	一〇、九九五	腕豆	一二、〇五四
生果實	四、七五四	葡萄	二、四三六
小麥	一〇八、六二三	大麥	四、六七九
ドゥラ	一、九六四		

三、本邦トノ貿易關係

當委任統治地域ノ貿易ハ其ノ接壤地タルパレスタイン、シリア、イラーク及ネジドトノ貿易ニ限ラレ其ノ他諸國トノ直接貿易關係ハナキモノノ如クニテ本邦トモ直接ノ貿易關係ナシ但シ本邦商品ニシテパレスタイン、シリア及イラークヲ經テ當委任統治地域ニ入ルモノ若干アルヘシ

第三　佛國委任統治地域シリア及レバノン

一、面積、人口及人口密度

面積　二〇四、六〇〇平方粁

人口　三、二〇〇、〇〇〇

人口密度　一平方粁ニ付一五、七

二、貿易

(イ) 最近五ケ年間輸出入貿易（單位千シリア磅）

	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三四年	一九三五年	一九三六年
輸入（通常貿易ヲ含ム）	四八、五〇〇	三八、八三二	四五、一七六	三九、三八四	三八、九三〇	
輸出（再輸出及通過貿易ヲ含ム）	一七、一二五	一五、五六四	一七、三八三	二一、七八五	二六、九三九	

(ロ) 輸入貿易

シリア、レバノンノ主要輸入品ハ綿糸布、毛織物、絹布、人絹布、各種機械、鐵及鋼鐵製品、電氣器具、自動車、紙類、罐及壜詰食料品、化學製品等ニシテ一九三二年乃至一九三六年間ニ於ケル關稅定率表節別ニ依ル輸入數量及價額ヲ掲クレハ左ノ如シ

B-1169

0448

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

品名	明治廿三年	廿四年	廿五年	廿六年	廿七年	廿八年	廿九年	三十年	三十一年	三十二年
動物及同生産品	一九、三四六	一九、四七五	二九、二七五	二九、三五三	二九、三四三	二九、四〇九	二九、六〇七	二九、八〇二	四八、二二五	五一、二九五
植物及同生産品	一九、八九九	二〇、八一四	二一、七二一	二一、八四一	二一、九八七	二一、九二六	二一、九三五	二一、九五五	二一、七五五	二一、七五五
食料品、飲物、酒類、醋、油、種、香物	一五、三八四	一五、八九七	一六、二四九	一六、三四五	一六、四三三	一六、四三六	一六、四三五	一六、四三五	一六、四三五	一六、四三五
鉱物、土石、塩、硫黄、石炭、石油、瀝青、金属鉱、宝石、貴金属及同製品	一、四二八、四一〇	一、五一八、四一〇	一、五一八、四一〇	一、五一八、四一〇	一、五一八、四一〇	一、五一八、四一〇	一、五一八、四一〇	一、五一八、四一〇	一、五一八、四一〇	一、五一八、四一〇
皮革及同製品、毛皮、毛皮製品、骨角、牙、貝、甲、象牙、ゴム、ラック、樹脂、ゼラチン、膠、香料及同製品	一、八五二、九二	一、七〇八、〇四	一、六九〇、〇三	一、六九〇、〇三	一、六九〇、〇三	一、六九〇、〇三	一、六九〇、〇三	一、六九〇、〇三	一、六九〇、〇三	一、六九〇、〇三
木竹及同製品	七〇、八〇七	七〇、八〇七	七〇、八〇七	七〇、八〇七	七〇、八〇七	七〇、八〇七	七〇、八〇七	七〇、八〇七	七〇、八〇七	七〇、八〇七
紙及同製品	一〇、八〇七	一〇、八〇七	一〇、八〇七	一〇、八〇七	一〇、八〇七	一〇、八〇七	一〇、八〇七	一〇、八〇七	一〇、八〇七	一〇、八〇七
織物及同製品	九、五三〇、二	九、五三〇、二	九、五三〇、二	九、五三〇、二	九、五三〇、二	九、五三〇、二	九、五三〇、二	九、五三〇、二	九、五三〇、二	九、五三〇、二
帽子、靴及同製品	一、七四八	一、七四八	一、七四八	一、七四八	一、七四八	一、七四八	一、七四八	一、七四八	一、七四八	一、七四八
陶磁器、硝子、傘及同製品	一、七三〇、八	一、七三〇、八	一、七三〇、八	一、七三〇、八	一、七三〇、八	一、七三〇、八	一、七三〇、八	一、七三〇、八	一、七三〇、八	一、七三〇、八
貴金属、宝石、貴金属及同製品、時計、楽器	二、〇三二、七二	二、〇三二、七二	二、〇三二、七二	二、〇三二、七二	二、〇三二、七二	二、〇三二、七二	二、〇三二、七二	二、〇三二、七二	二、〇三二、七二	二、〇三二、七二
機械、器具、車輌、船舶、鉄道用材料及同製品	三、二二、八五六	三、二二、八五六	三、二二、八五六	三、二二、八五六	三、二二、八五六	三、二二、八五六	三、二二、八五六	三、二二、八五六	三、二二、八五六	三、二二、八五六
武器、火薬及同製品	五、四三一、〇	五、四三一、〇	五、四三一、〇	五、四三一、〇	五、四三一、〇	五、四三一、〇	五、四三一、〇	五、四三一、〇	五、四三一、〇	五、四三一、〇
群舶、艇舶、車輌、機械、器具、電信機、時計、楽器	一、九八六	一、九八六	一、九八六	一、九八六	一、九八六	一、九八六	一、九八六	一、九八六	一、九八六	一、九八六
自動機械、器具、車輌、船舶、鉄道用材料及同製品	一、四四二、六二	一、四四二、六二	一、四四二、六二	一、四四二、六二	一、四四二、六二	一、四四二、六二	一、四四二、六二	一、四四二、六二	一、四四二、六二	一、四四二、六二
雑金属、金属製品及同製品	三、二二、八五六	三、二二、八五六	三、二二、八五六	三、二二、八五六	三、二二、八五六	三、二二、八五六	三、二二、八五六	三、二二、八五六	三、二二、八五六	三、二二、八五六
雑品、陶磁器、硝子、傘及同製品	一、七三〇、八	一、七三〇、八	一、七三〇、八	一、七三〇、八	一、七三〇、八	一、七三〇、八	一、七三〇、八	一、七三〇、八	一、七三〇、八	一、七三〇、八
帽子、靴及同製品	九、五三〇、二	九、五三〇、二	九、五三〇、二	九、五三〇、二	九、五三〇、二	九、五三〇、二	九、五三〇、二	九、五三〇、二	九、五三〇、二	九、五三〇、二
織物及同製品	一、〇八七	一、〇八七	一、〇八七	一、〇八七	一、〇八七	一、〇八七	一、〇八七	一、〇八七	一、〇八七	一、〇八七
紙及同製品	一、〇八七	一、〇八七	一、〇八七	一、〇八七	一、〇八七	一、〇八七	一、〇八七	一、〇八七	一、〇八七	一、〇八七
木竹及同製品	七〇、八〇七	七〇、八〇七	七〇、八〇七	七〇、八〇七	七〇、八〇七	七〇、八〇七	七〇、八〇七	七〇、八〇七	七〇、八〇七	七〇、八〇七
皮革及同製品、毛皮、毛皮製品、骨角、牙、貝、甲、象牙、ゴム、ラック、樹脂、ゼラチン、膠、香料及同製品	一、八五二、九二	一、七〇八、〇四	一、六九〇、〇三	一、六九〇、〇三	一、六九〇、〇三	一、六九〇、〇三	一、六九〇、〇三	一、六九〇、〇三	一、六九〇、〇三	一、六九〇、〇三
鉱物、土石、塩、硫黄、石炭、石油、瀝青、金属鉱、宝石、貴金属及同製品	一、四二八、四一〇	一、五一八、四一〇	一、五一八、四一〇	一、五一八、四一〇	一、五一八、四一〇	一、五一八、四一〇	一、五一八、四一〇	一、五一八、四一〇	一、五一八、四一〇	一、五一八、四一〇
食料品、飲物、酒類、醋、油、種、香物	一五、三八四	一五、八九七	一六、二四九	一六、三四五	一六、四三三	一六、四三六	一六、四三五	一六、四三五	一六、四三五	一六、四三五
植物及同生産品	一九、八九九	二〇、八一四	二一、七二一	二一、八四一	二一、九八七	二一、九二六	二一、九三五	二一、九五五	二一、七五五	二一、七五五
動物及同生産品	一九、三四六	一九、四七五	二九、二七五	二九、三五三	二九、三四三	二九、四〇九	二九、六〇七	二九、八〇二	四八、二二五	五一、二九五

過去五年間ニ於ケル品目別輸入價額

(單位千シリング)

品名	明治廿三年	廿四年	廿五年	廿六年	廿七年	廿八年	廿九年	三十年	三十一年	三十二年
動物及同生産品	一九、三四六	一九、四七五	二九、二七五	二九、三五三	二九、三四三	二九、四〇九	二九、六〇七	二九、八〇二	四八、二二五	五一、二九五
植物及同生産品	一九、八九九	二〇、八一四	二一、七二一	二一、八四一	二一、九八七	二一、九二六	二一、九三五	二一、九五五	二一、七五五	二一、七五五
食料品、飲物、酒類、醋、油、種、香物	一五、三八四	一五、八九七	一六、二四九	一六、三四五	一六、四三三	一六、四三六	一六、四三五	一六、四三五	一六、四三五	一六、四三五
鉱物、土石、塩、硫黄、石炭、石油、瀝青、金属鉱、宝石、貴金属及同製品	一、四二八、四一〇	一、五一八、四一〇	一、五一八、四一〇	一、五一八、四一〇	一、五一八、四一〇	一、五一八、四一〇	一、五一八、四一〇	一、五一八、四一〇	一、五一八、四一〇	一、五一八、四一〇
皮革及同製品、毛皮、毛皮製品、骨角、牙、貝、甲、象牙、ゴム、ラック、樹脂、ゼラチン、膠、香料及同製品	一、八五二、九二	一、七〇八、〇四	一、六九〇、〇三	一、六九〇、〇三	一、六九〇、〇三	一、六九〇、〇三	一、六九〇、〇三	一、六九〇、〇三	一、六九〇、〇三	一、六九〇、〇三
木竹及同製品	七〇、八〇七	七〇、八〇七	七〇、八〇七	七〇、八〇七	七〇、八〇七	七〇、八〇七	七〇、八〇七	七〇、八〇七	七〇、八〇七	七〇、八〇七
紙及同製品	一〇、八〇七	一〇、八〇七	一〇、八〇七	一〇、八〇七	一〇、八〇七	一〇、八〇七	一〇、八〇七	一〇、八〇七	一〇、八〇七	一〇、八〇七
織物及同製品	九、五三〇、二	九、五三〇、二	九、五三〇、二	九、五三〇、二	九、五三〇、二	九、五三〇、二	九、五三〇、二	九、五三〇、二	九、五三〇、二	九、五三〇、二
帽子、靴及同製品	一、七四八	一、七四八	一、七四八	一、七四八	一、七四八	一、七四八	一、七四八	一、七四八	一、七四八	一、七四八
陶磁器、硝子、傘及同製品	一、七三〇、八	一、七三〇、八	一、七三〇、八	一、七三〇、八	一、七三〇、八	一、七三〇、八	一、七三〇、八	一、七三〇、八	一、七三〇、八	一、七三〇、八
貴金属、宝石、貴金属及同製品、時計、楽器	二、〇三二、七二	二、〇三二、七二	二、〇三二、七二	二、〇三二、七二	二、〇三二、七二	二、〇三二、七二	二、〇三二、七二	二、〇三二、七二	二、〇三二、七二	二、〇三二、七二
機械、器具、車輌、船舶、鉄道用材料及同製品	三、二二、八五六	三、二二、八五六	三、二二、八五六	三、二二、八五六	三、二二、八五六	三、二二、八五六	三、二二、八五六	三、二二、八五六	三、二二、八五六	三、二二、八五六
武器、火薬及同製品	五、四三一、〇	五、四三一、〇	五、四三一、〇	五、四三一、〇	五、四三一、〇	五、四三一、〇	五、四三一、〇	五、四三一、〇	五、四三一、〇	五、四三一、〇
群舶、艇舶、車輌、機械、器具、電信機、時計、楽器	一九八六	一九八六	一九八六	一九八六	一九八六	一九八六	一九八六	一九八六	一九八六	一九八六
自動機械、器具、車輌、船舶、鉄道用材料及同製品	一四四二六二	一四四二六二	一四四二六二	一四四二六二	一四四二六二	一四四二六二	一四四二六二	一四四二六二	一四四二六二	一四四二六二
雑金属、金属製品及同製品	三二八五六	三二八五六	三二八五六	三二八五六	三二八五六	三二八五六	三二八五六	三二八五六	三二八五六	三二八五六
雑品、陶磁器、硝子、傘及同製品	一九八三五	一九八三五	一九八三五	一九八三五	一九八三五	一九八三五	一九八三五	一九八三五	一九八三五	一九八三五
帽子、靴及同製品	六八六二	六八六二	六八六二	六八六二	六八六二	六八六二	六八六二	六八六二	六八六二	六八六二
織物及同製品	一〇三八四	一〇三八四	一〇三八四	一〇三八四	一〇三八四	一〇三八四	一〇三八四	一〇三八四	一〇三八四	一〇三八四
紙及同製品	一四二六	一四二六	一四二六	一四二六	一四二六	一四二六	一四二六	一四二六	一四二六	一四二六
木竹及同製品	四八、二二五	四八、二二五	四八、二二五	四八、二二五	四八、二二五	四八、二二五	四八、二二五	四八、二二五	四八、二二五	四八、二二五
皮革及同製品、毛皮、毛皮製品、骨角、牙、貝、甲、象牙、ゴム、ラック、樹脂、ゼラチン、膠、香料及同製品	一、四二八、四一〇	一、四二八、四一〇	一、四二八、四一〇	一、四二八、四一〇	一、四二八、四一〇	一、四二八、四一〇	一、四二八、四一〇	一、四二八、四一〇	一、四二八、四一〇	一、四二八、四一〇
鉱物、土石、塩、硫黄、石炭、石油、瀝青、金属鉱、宝石、貴金属及同製品	一、四二八、四一〇	一、四二八、四一〇	一、四二八、四一〇	一、四二八、四一〇	一、四二八、四一〇	一、四二八、四一〇	一、四二八、四一〇	一、四二八、四一〇	一、四二八、四一〇	一、四二八、四一〇
食料品、飲物、酒類、醋、油、種、香物	一五、三八四	一五、八九七	一六、二四九	一六、三四五	一六、四三三	一六、四三六	一六、四三五	一六、四三五	一六、四三五	一六、四三五
植物及同生産品	一九、八九九	二〇、八一四	二一、七二一	二一、八四一	二一、九八七	二一、九二六	二一、九三五	二一、九五五	二一、七五五	二一、七五五
動物及同生産品	一九、三四六	一九、四七五	二九、二七五	二九、三五三	二九、三四三	二九、四〇九	二九、六〇七	二九、八〇二	四八、二二五	五一、二九五

過去五年間ニ於ケル品目別輸入數量

(單位メートルトン)

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

主要供給國ハ受任國タル佛國第一位ニ在ル處我國ハ一九三五年度ニ於テハ英國ニ次キ第三位ヲ占メシモ一九三六年度ニ於テハ遂ニ彼ヲ凌駕シ第二位ヲ獲得スルニ至レリ

供給國別輸入狀況（單位千圓）

國名	一九三五年 數量	一九三五年 價額	一九三六年 數量	一九三六年 價額
和蘭	五三、八四五	四、二七八	三五、二八二	三、八五二
印度	一、〇九二	五八	二、二五五	一六六
伊太利	三、七二八、九	一、九三三	三四、〇〇三	一、九四七
瑞西	二八、三三九	一、三二二	二五、九三四	一、八七〇
英國	四三、六六一	三、一八六	五九、八六〇	三、三九一
埃及	一二、六四二	六三二	一四、〇八八	七二二
佛國	三四、九四二	一、九六五	四〇、七三七	二、一九九
獨逸	一二、六四二	六三二	一四、〇八八	七二二
白耳義	三六、四一四	一、九六二	四二、九六三	二、二六〇
墨西哥	五三、二八四	二、八六一	五九、八六〇	三、三九一
利比亞	二、〇九二	五八	二、二五五	一六六
日本	二九、六〇四	一、五九二	三三、〇五〇	一、七四〇
伊太利	一、〇九二	五八	二、二五五	一六六
計	五六、一二四	二九、七八九	六三、五二一	三、三六二

（ハ）輸出貿易

尙玆ニ過去五年間ニ於ケルシリア輸入貿易國別順位表ヲ掲クレバ左ノ如シ

シリア輸入貿易國別順位表

年	佛	獨	白	米	英	イラーク	伊	羅	土
一九一一年									
一九一二年									
一九一三年									
一九一四年									
一九一五年									
一九一六年									
一九一七年									
一九一八年									
一九一九年									
一九二〇年									
一九二一年									
一九二二年									
一九二三年									
一九二四年									
一九二五年									
一九二六年									
一九二七年									
一九二八年									
一九二九年									
一九三〇年									
一九三一年									
一九三二年									
一九三三年									
一九三四年									
一九三五年									
一九三六年									

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/
B-1169

品目別輸出狀況（單位 價數額千シリング）

品目	一九三五年 数	一九三五年 価額	一九三六年 数	一九三六年 価額
飼料用植物及同生産品	五、〇四二	一、四八〇	七、一一七	一、六〇二
動物性生産品	一〇、九四六	二、七七九	二、〇二七	六、六八六
油脂	六、五五〇	九八七	一、七七七	一、三五二
蠟	三、八〇〇	七七一	七三七	七三〇
獸皮及毛皮	三、七三一	一二九	一、一六三	一九〇
石綿製品	三、〇五一	一、一四	一、三五〇	一六六
木材及同製品	三、〇三六	一、一一	一、三四三	一四二
紙類	七、〇三六	一、四八〇	三、七二四	七七九
織物及同製品	七、〇六〇	二、九二八	八、七九三	三、七二四
帽子、靴、傘、流行品	三、〇三五	二、六五七	二、七九三	二、四二二
陶磁器、硝子及同製品	五、〇三一	七六八	二、五四七	一、五四一
貨幣及金塊	七〇	七六八	三	一九五
金屬及同製品	四、〇二九	二、二七六	二、九〇六	一、九三〇
機械、器具、其他雜製品	八、二三九	四、二一一	一五九	一四四
自動車、運轉用具	八、三三九	二、二五二	三九一	二〇八
科學、精密材料、時計、樂器	八、一八九	六一五	一六一	一二二
其他	四七二	一、〇九五	七一	一二二
美術品	八二	一七五、七四八	三五、四八〇	一六、四七九
計				

主要輸出品輸出狀況（單位 價數額千頭シリング及噸）

品名	一九三五年 数	一九三五年 価額	一九三六年 数	一九三六年 価額
羊、同上皮	八八、七二〇	一一、九八八	六二、八九七	一一、八六一
山羊	七、六一一	二、〇九六	五四、八二〇	一七、四〇一
以下噸	三、三六三	六、五八〇	五五、七六	一二、一一一
牛 同上皮	六七	一二、五八	七二	七三二
馬	一七、九〇〇	四三五	二〇、一七五	一九、八六六
豆	一四、七九五	四三一	二八、六四〇	一九、〇九八
玉蜀黍	四、七九五	八七九	七、七二六	一、三五二
小麥	一五、九一五	二、八二一	六六、三一一	一一、二五五
大麥	一三、三七二	二、六二一	七二、三一一	一一、二二六
粟	一四、一五〇	二五八	二五、八七七	四、四八七
小麥粉	二、九〇五	一、三四	四、五五九	一、六九九
ジヤガ芋	五、九二三	一、一七七	八、〇四五	一、六二一
甘藷	二、一一二	一七七	二、一一六	一七二
胡桃	九〇五	一七七	一、一六九	二二二
葡萄酒	一、五七七	一、一二一	一、一二六	一、一二二
煙草	一六、七四	一、一二一	一七、一三五	一、一二二
綿	一四、六七四	一七三	一七、七八八	一九四
セメント	一七三	一、一二一	一〇三	一、一二二
鉛	一七、七五	一、一二一	一七、七五	一、一二二
鐵	一七、七五	一、一二一	一七、七五	一、一二二

尙右ノ中主要輸出品ノミニ付其ノ輸出數量及價額ヲ掲クレバ左ノ如シ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

B-1169

毛、絹、綿、混紡織布布　二、六八四　一、三三　一、三一八　一、二二三
人絹製衣服類　三四三　四〇二　二九五　一五〇九
人絹混紡織布　三、一五八、五八〇　二、二〇二、五九　二、二五三、四八四　二、二五〇、九〇九
人絹布布　三、一三二、〇〇四　二、二五八、二九　二、二七四、八五五　一、五一〇、八六二
毛、綿混紡織布　二、九三三、八六　二、四八三、五五　二、三〇四、九五二　一、四九、三六三
羊毛、山羊革、羊ノ鞣革、調革革　三、五五三、三　一、四八、五五　三、四九、八五　一、四九、三六三
馬革、底用革、調革革　二、五五、五五　一、三三、一　一、三〇、四　一、二六、三
生羊毛　二、六八四　一四二　一、三、一八二　一、二二三

七六

之等輸出品ノ仕向國ハ一九三六年度ニ於テハレスタイン、ヲ首位トシ佛、米、英、埃及、トランス・ヂョルダン、伊、之ニ次キ居レリ

仕向國別輸出狀況（單位價數額千噸シリア磅）

埃及	自由佛領佛蘭西	佛領佛蘭西	仕向國	一九三五年 數量	一九三五年 價額	一九三六年 數量	一九三六年 價額
○、六六六	一三、九四六	一、四九九	英國	六二、五〇八	二、八四五		
八、五九二	四三七	二七九	米國	一九、二〇一	二二二		
一、〇九六	二、五〇六	三六三	佛蘭西	一、四四九	三〇三		
一、六二七	六、五九二	一、六三	伊太利	四三五	一一三		
一、五三一	六、四二六	一、四二	瑞西	一二、四二六	三、一四		
一、一六	一、七五二	一、一六	埃及	一、七五二	一、一六		
一、一六	一、七五二	一、一六	埃及	一、七五二	一、一六		

今玆ニ過去五年間ニ於ケルシリア輸出貿易國別順位表ヲ掲クレバ左ノ如シ

共産主義聯邦	一、六三三	一、四八六	一、三五七	一、四八六
他邦古典	三、〇〇五	二、五三四	六、二五	三、二七
計	八、八八四	四八〇	一、九四	一、〇六
トランス・ヂョルダン	三、九三一	四三五	七、九六〇	三、七五
チェッコスロバキア	二二	一、四六	一、四六	三六
瑞西	一	二	七八	四五
瑞典	一四三	九、	七二	七六
サウヂアラビア	八七	四一	一七六	一九三
尼國	一、五六四	四二	一、九九一	三九
羅波	一	一	一、九	二
和蘭	四〇七	一三	三三〇	一六
レスタイン、	九四、七二八	五、三四三	一四〇、四二一	六、〇三六
本邦	四、七二八	四五一	三、三六九	四二七
伊太利	五、三六六	四五一	二、三六九	一、三七
ンク	一一、〇〇五	三五三	三、七九二	三七一
度	二	一	一、三三	七七
佛國	一一、四五七	一、八	二、九四〇	五四
印	六八五	一八	二、九四〇	五四
希臘	二、八四五	一、一八	二、三七〇	一、三七五
英國	一一、四五七	八四七	二五、三〇	一、四六
米	二、六三	五五	四、四四九	一、四六八

七七

B-1169

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

シリア輸出貿易國別順位表

年度	佛	獨	埃及	米	英	イラーク	伊	パレスタイン	トランス・デョルダン	土
一九三一年	一	一〇	五	六	七	四	三	一	八	九
一九三二年	二	一	五	三	八	四	六	一	七	一〇
一九三四年	二	九	五	七	四	三	六	一	八	一
一九三五年	二	八	四	五	三	九	六	一	七	一〇
一九三六年	二	一	五	三	四	八	七	一	六	一〇

(二) 再輸出

一九三二年乃至一九三六年ニ於ケル再輸出數量價額左ノ如シ

過去五年間ニ於ケルシリア再輸出數量價額（單位 數量 噸 價額 千シリア磅）

年度	數量	價額
一九三二年	二、〇一六	六九四
一九三三年	一、三三五	三三七
一九三四年	一、〇九一	三五五
一九三五年	三、〇五九	四五四
一九三六年	二、三〇八	三六九

尙主ナル再輸出仕向國ハパレスタイン、イラーク、埃及、トランス・ジョルダン、イラン、土耳古ノ近接諸國ナリ

(ホ) 通過貿易

一九三六年度ニ於ケル通過貿易ハ數量二、〇五八、七三八噸、價額一〇、〇九一、〇〇〇「シ」磅ニシテ輸入價額ノ三五%ニ匹敵スルモ右ノ中ニハイラーク・ペトローリアム・コムパニーノ石油原油二、〇二九、五六二噸、五、〇七四、〇〇〇「シ」磅ヲ含ミ居レル點ハ注意ヲ要ス

尙右ハ主トシテイラーク、土耳古、米、英、佛、獨、本邦ヨリ積出サレ、佛、イラーク、パレスタイン、埃及、米、土等ニ輸送セラレタルナリ

一九三五年及一九三六年ニ於ケル關稅定率表節別ニ依ルトランジット數量價額ヲ揭クレハ左ノ如シ

品目別通過貿易狀況（單位 數量 噸 價額 千シリア磅）

關稅定率表節別品目	一九三五年 數量	一九三五年 價額	一九三六年 數量	一九三六年 價額
動物及同生產品	四九八	四四九	五四三	一、六八五
植物生產品	三、四五三	四九二	五、一一四	七二六
動植物性各種油脂	四二	一〇	五八	一六
食料品、酒類、酢、煙草	七二四	一九六	一、〇四二	一〇〇
礦產物	一、九五〇、五九六	五、〇四二	二、〇四四、一四六	五、二五〇
化學製品、藥品、染料、香料、石鹼、爆發物、肥料	二七四	八五	八八三	一〇一
皮革、毛皮及同製品	二、〇	一四九	四〇八	一二二
護謨及同製品	三八四	二三〇	二五九	一五九
木材及同製品	一〇四	八	五五八	一一

B-1169

0453

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

B-1169

(一) 港別輸出入貿易

シリア ニ於ケル貿易港ベイルート、アレキサンドレッタ、トリポリ及ラタキアノ諸港ナルハ一九一七年乃至一九三六年ニ於ケルシリア對外輸出入貿易狀況ヲ前記諸港別ニ見ルニ左ノ如シ

年度、港別	計	衛生品	他薬品	弾薬	武器、	非金属鉱物製品	科学精密機械時計楽器	自動車、運輸用具	機械、器具、他装飾材料	金属及同製品	貴石、貴金属及同製品、貨幣	陶磁器、硝子及同製品	紡織、糸、流行品	木材及同製品	紙類
一九三二年	一、九六一、五三五	五五	六七	一		四七	一、二四五	一、二四三	一、二三四	二四〇	五五	七三六	三六	一、八九三	一三五
一九三三年	九、五九六	四	六〇	一		四三	六三五	六二五	三五二	八三	六一六	一四六	四	一、〇六〇	三四
一九三四年	二、〇五八、七三八	一	三五	一		四三	六九七	六九	一、二九六	二一、一九六	一、四〇四	六一	一七	一、四〇四	一三五
一九三五年	一〇、〇九二、〇二	一	三八	一		三九	八六二	八六	一、二九六	二、二六四	四四	九一	一五	七八八	五二

港別ニ見タルシリア輸入貿易（単位数量ハ噸、価額千シリア磅）

年度、港別	ベイルート 数量	ベイルート 価額	アレキサンドレッタ 数量	アレキサンドレッタ 価額	トリポリ 数量	トリポリ 価額	ラタキア 数量	ラタキア 価額
一九三二年	四三、三六一	三一、五一六	六一、四三三	五、四三五	一〇四、三七〇	四、四九五	一〇、六七七	三五一
一九三三年	四八、六三三	三〇、〇三五	五七、七二二	四、六七二	一一七、二六六	四、一七四	九、三三一	三〇三
一九三四年	三九、三四二	二六、三六三	四七、一四〇	三、八一〇	一〇五、一六八	三、八六一	一一、四三三	三六六
一九三五年	四六、一四〇	二九、一四一	五一、一四四	四、一四〇	一一四、一四四	四、一四四	一一、〇五四	三五六
一九三六年	四八、〇〇一	三一、〇九七	五一、一四四	四、一四〇	一一四、一四四	四、一四四	一〇、〇六六	三五六

港別ニ見タルシリア輸出及再輸出貿易（単位数量ハ噸、価額千シリア磅）

年度、港別	ベイルート 数量	ベイルート 価額	アレキサンドレッタ 数量	アレキサンドレッタ 価額	トリポリ 数量	トリポリ 価額	ラタキア 数量	ラタキア 価額
一九三二年	一七、三六六	二、六六	一五、一四四	二一〇	三、八〇六	一、三三	九、一八五	二六六
一九三三年	一八、二三〇	二、三六六	一九、七六〇	一、四九一	三、四九三	九一八	八、四四五	二六六
一九三四年	三、八三二	三、三三五	一、四四九	一、四九一	三五、一六八	一、〇三九	一一、〇五四	三三六
一九三五年	六、五五六	三、三三一	三、三七六	二、六六五	五一、一四四	一、四四四	一一、四三三	四三五
一九三六年	五、一二五	四、〇九九	七、三三五	四、九九〇	三、六六〇	三、三三三	一五、九三三	六五〇

(二) 日本トノ貿易關係

日本向輸出　一九三六年　九二千シリア磅（邦貨約一七八千圓）

日本ヨリ輸入　一九三六年　三、六四〇千シリア磅（邦貨約七、〇二五千圓）

本邦對シリア、レバノン貿易ハ一九三五年迄ハシリア、レバノンヨリノ本邦向輸出ハ殆ント皆無ニシテ極端ナル片貿易ナリシカ一九三六年七月日本及シリア、レバノン間通商制度ノ成立以来漸ク本邦ヘノ輸出ノ途開ケ一九三六年ニ於テ初メテ九二、〇〇〇シリア磅ノ輸出ヲ見ルニ至レルカ之ヲ輸出總額ニ比スレハ僅カニ〇、五五%ヲ占ムルヲ過キス反之本邦ハ供給國中一九三〇年ニ於テ第十位

一九三一年ニ於テ第九位ナリシモノカ一九三二年以降ハ第二位乃至第四位ヲ占ムルニ至リ一九三六年ニ於テハ佛國ニ次キ第二位トナレリ輸出價額ハ一九三一年以降毎年千二百萬圓乃至千五百萬圓程度ヲ維持シ輸入總額ニ對スル比率モ一九三一年ニ於テ五、八%、一九三二年六、九%、一九三三年七、九%、一九三四年一一、三%、一九三五年九、八%、一九三六年一二、四%ト順調ナル發展振ヲ示セリ

而シテ**シリア、レバノン**ヨリノ日本向ノ輸出ノ大部分ハ原綿ニシテ日本ヨリノ輸入ハ綿布（本邦ヨリノ輸入額ノ七二%）ヲ筆頭トシ綿糸綿製糸、人絹糸、人絹布、人絹製糸、毛織物、毛糸、絹布、罐詰、陶磁器、玩具、**ゴム**靴、**カンバスシューズ**、**セルロイド**製品、茶等ナリ

最後ニ現行ノ日本、**シリア**、**レバノン**間通商制度ニ付テ一言スルノ要アリ

シリア、レバノンノ輸入稅率ハ若干ノ例外ヲ除キ之ヲ最高及最低ノ二種ニ分チ前者ハ後者ノ二倍ニシテ非聯盟國原産品ニ適用シ後者ハ聯盟國原産品ニ適用スルヲ原則トシ居レル處昭和八年三月二十七日本邦カ國際聯盟ヲ脫退セル結果佛國ハ本邦商品ハ最低稅率ニ均霑スル權利ヲ喪失セルモノナリトノ見解ヲ持セリ然ルニ昭和十一年七月日佛間往復書翰ノ形式ヲ以テ「日本國及**シリア**及**レバノン**間ノ通商關係ヲ發展セシメ且特ニ**シリア**及**レバノン**原産品ノ日本國輸入ヲ奬勵スル」爲ニ日本、**シリア、レバノン**間通商ニ關スルノ一ノ**レヂーム**設立セラレ右ノ結果本邦商品カ**シリア、レバノン**輸入ニ際シ最低稅率ノ適用ヲ受クル代償トシテ日本側ハ政府ノ監督ノ下ニ設立セラレタル日本綿糸布歐

阿近東輸出組合及日本絹人絹糸輸出組合聯合會ヲシテ同年八月一日ヨリ**シリア、レバノン**向綿糸布及絹人絹布ニ對シC、I、F從價三分ノ統制料ヲ徵收セシメ之ヲ**シリア、レバノン**産品輸入奬勵資金ニ充當セシムルコトトナレルカ同時ニ日本綿糸布歐阿近東輸出組合及日本絹人絹輸出組合聯合會ヲ打ツテ一丸トスル貿易調整委員會設置セラレ之ヲ以テ**シリア、レバノン**産品ノ輸入ニ對スル輸入補償金ノ交付機關トスル一方**シリア、レバノン**産品ノ輸入許可及爲替許可ノ申請ハ凡テ同委員會ヲ經由セシムルコトトナレリ

右**レヂーム**實施ノ結果大藏省統計ニ依レハ**シリア**ヨリノ輸入ハ昭和十年及昭和十一年ニハ夫々三萬一千二百圓及三萬一千九百五十五圓ノ少額ニ過キサリシモノカ昭和十二年ニハ一躍百三十八萬六千六百九十三圓ニ激增セリ

第四　英國委任統治地域　タンガンイカ

一、面積、人口及人口密度

面　積	三七五、〇〇〇方哩
人　口	五、一三八、〇〇〇（內、土人五、〇九六、〇〇〇）
人口密度	一平方哩ニ付一三、七

二、貿　易

B-1169

0455

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

(イ) 最近五ケ年間貿易額表（單位 磅）

年次	輸出	輸入	總額	差額
一九一一年	四八〇、五二七、〇〇〇	三二、五二〇、〇〇〇	八〇一、〇五二、〇〇〇	一六、四八〇、〇〇〇（出超）
一九一二年	五一、九二七、〇〇〇	三七、四二〇、〇〇〇	八九、三四七、〇〇〇	一四、五〇七、〇〇〇（出超）
一九一三年	五二、三五六、〇〇〇	四一、〇二〇、〇〇〇	九三、三七六、〇〇〇	一一、三三六、〇〇〇（出超）
一九一四年	四二、〇九六、〇〇〇	三二、九五六、〇〇〇	七五、〇五二、〇〇〇	九、一四〇、〇〇〇（出超）
一九一五年	四一、〇九六、〇〇〇	三二、九五六、〇〇〇	七四、〇五二、〇〇〇	八、一四〇、〇〇〇（出超）

（ロ）輸出

主要輸出國ハ英本國、ケニヤ・ウガンダ、自耳義、獨逸、米國、印度、佛國、日本ナルカ英國向主要品ハサイサル麻、金、落花生、棉花等ニシテケニヤ・ウガンダ向ハ珈琲、棉花（再輸出ノ參）ヲ主トシ其他食料品、煙草等ノ交換アリ自耳義向ハサイサル麻、獨逸向ハサイサル麻、珈琲、コプラ、蜜蠟、獸皮ナリ、米國向ハサイサル麻及同麻繩類、印度向ハ棉花ヲ主トス、佛國向ハ獸皮類、コプラ、サイサル麻、落花生等ニシテ本邦向ハ殆ト棉花ナリ、最近三ケ年主要國別輸出額ヲ比較スレハ次ノ如シ（單位 磅）

主要國名	一九一四年	一九一五年	一九一六年
英本國	七二四、四〇四	一〇七、九九〇	一四五、二一四
ケニヤ・ウガンダ	八一八、二四五	七八、一〇〇	七二五、八八一
自耳義	二三〇、三七七	三四三、三四三	五七三、六四七

（ハ）輸入

品名	一九一四年	一九一五年	一九一六年
精製棉金塵	二、六四五、五二七	二、三四五、一四五	三、三〇〇、六六五
棉花	一、六五三、五二七	一、三六六、六九七	二、三一五、八四四
珈琲	三三、三六一、四五六	一三、六八七、七二七	二三、三三五、八四四
棉花種子	一、〇七〇、三七八	一、三四五、一四三	一、七〇三、三〇五
麻類	八四七、五六二	一、〇九二、五六八	一、八〇一、六二二
獸皮	二三七、二五二	二五九、六五四	二一三、九八〇
蜜蠟	三三二、五九六	四三、六〇〇	八二、二四六
棉屑ヲ類	二九五、六五九、〇〇〇	三六八、二四七	五六、七三八
落花生	七六、五七〇、一四五	四八、三二六	二七、七九六
麻屑	三二、五九六	四三、六〇〇	五六、七三八
牛脂	二〇、三七九	一七、二五九	三四、三四三
貨幣	三、五六九、〇〇〇	三六九、六四二	四八九、七九六
糖類	七六、五七〇、〇〇〇	一二、五六九、〇〇〇	一四、四九〇、〇〇〇
牙	二〇、三七九	一七、二五九	三四、三四三

（ニ）最近三ケ年重要品輸出額ヲ比較セハ次ノ如シ（單位 磅）

品名	一九一四年	一九一五年	一九一六年
棉花	三三二、六六二、三三	五六六、五四七	六四〇、六三五
珈琲	八四七、五六二	一、〇九二、五六八	一、八〇一、六二二
麻	二三七、二五二	二五九、六五四	二一三、九八〇
落花生	七六、五七〇、一四五	四八、三二六	二七、七九六
棉屑	三三、三六一、四五六	一三、六八七、七二七	二三、三三五、八四四
蜜蠟	三三、三六一、四五六	一三、六八七、七二七	二三、三三五、八四四
獸皮	二三七、二五二	二五九、六五四	二一三、九八〇
麻屑ヲ類	二九五、六五九、〇〇〇	三六八、二四七	五六、七三八
貨幣	三、五六九、〇〇〇	三六九、六四二	四八九、七九六
牙	二〇、三七九	一七、二五九	三四、三四三

内國品輸出總額ハ英本國、西印度、佛國、米國、獨逸

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/
B-1169

主要國別最近三ケ年ノ輸入額ヲ比較セハ次ノ如シ

（單位磅）

國名	一九三四年	一九三三年	一九三二年
英國本土	六四五、七六七	八六五、九六〇	九一四、〇五四
獨逸	五三二、七九二	六五五、六二五	七八一、四八八
米國	二三〇、〇二二	三一七、七一九	四七二、九三三
ケニヤ・ウガンダ	二六八、八八〇	二八五、二五八	二七七、八九一
蘭領印度	一三三、二八二	一八五、六七六	二一七、四六九
和蘭	一二四、八三四	一四四、九七六	一六八、七八三
佛蘭西	五三、八四九	四四、一一二	四六、九九七
白耳義	三四、〇八〇	四〇、二四〇	四四、五九一
自由港	二九、七四五	三七、九〇三	三三、七九七
自治領及印度諸國	二八、七九二	二七、五四九	二八、三六六
阿根廷	一四、二一五	一七、一七二	二〇、一七二
入超額	二、三四三、一八五	二、九八九、六〇〇	三、三五六、八六〇

主要品ノ最近三ケ年ノ輸入額ヲ比較セハ次ノ如シ

（單位磅）

主要輸入品	一九三四年	一九三三年	一九三二年
綿布類	四九二、九八七	六〇一、七〇四	六四八、五一六
機械	一四七、〇二六	一四三、二四二	二五八、三四九
食料品	一四七、〇一九	一四七、四八四	二一二、一七一
自動車用抑製油	一一三、一四三	一三五、九八三	一七一、四三五
鐵鋼類	八九、七四〇	一一二、〇八一	一六二、五九五
石炭	七七、六一一	一〇七、五五三	一三五、〇七四
小麥粉	七〇、六〇七	八一、一三六	一〇五、三五三
砂糖	三三、二九一	四二、六六五	六〇、二三六
ジュート袋	三三九、六三一	四七、九三八	五一、三〇四
油類	四八、五三一	六七、三四〇	七〇、四八一
自動煙草車	二二、六三〇	二一、一九一	二七、四三五
貨物自動車	五九、五五五	六八、五五九	七八、六二
衣類	一一六、四八〇	一一七、九四	一三四、八四四
人絹	二七、四三四	二七、四八五	三一、九八四
葡萄酒	二六、〇八二	二八、二八五	二九、九八四
麥酒	一三、一二七	一三、二八一	一三、〇二一
潤滑油	一八、五四八	二七、〇三六	三〇、三〇六
燃料	四六、二五九	四一、〇四五	三一、六四二
乾電池	一九、〇八五	一九、二五六	三一、六八三
綿毛織物	二二、五四七	二七、一七五	三七、三五五
タイヤ及チューブ類	二五、七二四	三一、八五七	三五、七六七
藥品	三一、八四一	三三、〇九一	三五、〇九四
ウイスキー、ブランデー等	三四、五六七	三七、一七五	三八、〇九四
麥粉	三三、四八三	三七、一三六	四三、七四四
砂糖	三三、二九一	三七、一三九	四三、七七五
ジュート袋	三三九、六三一	四七、九三八	五一、三〇四
石炭	四八、五三一	六七、三四〇	六〇、二六六
道具	二二、六三〇	六二、一九一	七〇、四八一
自動煙草車	五九、五六五	七〇、七七六	八一、一三三
貨物自動車	六八、五五五	九五、一一九四	一一六、四八〇
衣類	一〇五、三五三	一一三、八四四	

（イ）本邦トノ貿易關係

最近五ケ年間對日貿易額表（單位圓）

年	輸出	輸入	入超
一九三〇年	一、一〇〇、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇
一九三一年	一、〇〇〇、〇〇〇	一、六〇〇、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇
一九三二年	一、〇〇〇、〇〇〇	一、六〇〇、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇
一九三三年	一、〇〇〇、〇〇〇	一、六〇〇、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇
一九三四年	一、〇〇〇、〇〇〇	一、六〇〇、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/
B-1169

	一九三二年	一九三三年	一九三四年	一九三五年	一九三六年
本邦向輸出額	四七九、六二一	四九三	一、一三三、八四九	二二二、四一一	一、七五五、四二〇
本邦ヨリ輸入額	五、二三四、八二七	七、〇八六、三八二	八、八八七、五四九	一一、一四九、〇二五	一三、二八五、二九六

タンガンイカ地域ト本邦トノ貿易關係ハ前掲統計ノ如ク片貿易ヲ辿リ我ニ有利ナル情勢ヲ示シ居レリ、輸入國中本邦ハ第二位（英本國第一位）ヲ保持シ居レリ、當地域ヨリノ本邦向輸出ハ殆ト棉花ナルカ一九三六年度輸出額ハ百七十五萬五千圓ニ達シ一九三五年ニ比シ七倍餘ノ增加ヲ示セリ

本邦輸入品中最モ重要ナルハ綿布ニシテ之レニ亞クハ衣類、人絹織物、靴類、莫大小製品、セメント、絹織物、綿毛布、琺瑯鐵器、帽子類、陶器、硝子器物、燐寸ナルカ是等諸品ノ輸入額ハ追年增加ノ麴勢ヲ持シ同地域ハ本邦綿布竝雜貨市場トシテ頓ニ重大性ヲ加ヘツツアリ

（ロ）一九三四年乃至一九三六年ニ於ケル供給國別綿布輸入高左ノ通リ

		一九三五年	一九三五年	一九三六年
總數	圓	八、三八〇、七七九	一〇、二二八、九六八	一一、〇二四、七七二
	方碼	三八、一七二、〇九五	四六、五八三、三八一	五三、五七九、七五四
日本	同	六、二六四、四八三	七、八八四、一二四	九、〇三七、〇九八
	同	三一、七七四、九七七	三九、二五八、八〇二	四七、五〇二、七〇三
英本國	同	一、一二九、四二九	一、四六〇、八六一	一、一〇〇、〇一六
	同	三、〇六五、三三〇	四、三二八、六一五	三、〇九八、六九五
英領印度	同	一五〇、九〇九	四五九、八三三	五三三、八八五
	同	五六、九五四	一、六五四、六六七	一、七六六、八一五

和蘭	同	三六一、五九〇	三〇六、六二九	二七二、四二五
	同	一〇〇、八二四	一、〇三八、九四四	九八一、〇四五

本邦ハカンガ以外ノ各綿布ニ對スル最大供給國ニシテ一九三六年ニ於ケル當地域ノ種類別綿布輸入總量及總額ノ內本邦品ノ占ムル割合ハ夫々生地綿布ハ總量ノ九割三分、總額ノ八割九分、晒綿布ハ總量ノ九割五分、總額ノ九割二厘、捺染綿布（カンガヲ除ク）ハ總量ノ九割二分、總額ノ九割三分、反染綿布ハ總量ノ九割六分、總額ノ八割九分、染絲綿布ハ總量ノ八割八分、總額ノ八割一分ナリ

カンガニ對スル最大供給國ハ英本國ニシテ一九三六年ニ於ケル本品輸入總量及總額ノ內英本國ハ數量六割一分價額六割五分、本邦ハ僅ニ一割四分價額一割一分ヲ占ムルニ過キス

（ハ）一九三五—六年ニ於ケル當地域ノ種類別綿布輸入高左ノ通リ

	一九三五年		一九三六年	
	數量（方碼）	價額（圓）	數量（方碼）	價額（圓）
生地綿布	一二、九一八、〇三五	二、二六八、〇八九	一三、六七五、六三五	二、三二七、五七二
日本	一二、〇一五、四九五	二、〇四六、七三二	一二、七三〇、九三二	二、〇八七、六五一
英領印度	八六七、一四四	二〇六、〇九一	八八四、〇九六	二一九、四〇二
晒綿布	三、四四〇、七三六	七三八、五八二	六、八八七、五八四	一、二五七、七六二
日本	三、〇九七、二一二	六一八、一二〇	六、五七五、七六二	一、一三五、六八五
英本國	二一五、一八三	八〇、四七八	一八七、八一八	八〇、五一二
捺染綿布（カンガ）	四、五九四、三九五	一、二六七、五九二	三、七四五、八八二	一、〇〇六、五五三
日本	二七四、六一九	五八、一〇六	五三〇、九三四	一二〇、三〇九
英本國	三、四二九、一五七	九五九、九七三	二、三〇二、九四二	六六四、二二〇

B-1169
0458
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

B-1169

英國印度本領	英國印度本領	反英日綿布	英國印度本領	同上（カンガヲ除ク）
一、八五五、七三二	一、九八三、九三三	一、九八三、九三三	一、八五五、七三二	
一、〇〇七、三七八	一、〇九三、五〇五	一、〇九三、五〇五	一、〇〇七、三七八	
一、三四一、〇三五	一、四三〇、三五五	一、四三〇、三五五	一、三四一、〇三五	
四四四、九八	四四四、九八	四四四、九八	四四四、九八	

(二) 其他主要品 一九三六年度ニ於ケル綿布以外ノ本邦主要品ノ輸入ハ人絹織物ヲ除キ何レモ增加ヲ見タルカ就中其ノ顯著ナルハ綿毛布ニシテ其數量十三萬五千枚（價額十七萬二千圓）一九三五年ニ比シ十八倍九分ノ激增ナリ又本邦セメントノ輸入モ增加（數量ニ於テ七倍五分增）シタルカ獨逸品ノ進出モ亦著シク英國品ハ一九三五年ニ比シ減退シ居レリ

(ホ) 一九三五—六年主要本邦品ノ輸入高左ノ通リ

品目	一九三五年 數量	一九三五年 價額（圓）	一九三六年 數量	一九三六年 價額（圓）
人絹織物	一、四五三、六八	一、三七〇、三五二	一、八五五、七三二	一、三一〇、四三二
本絹織物	一、一	九三、三五二	一、一	八〇、三五二
同方同回鴨	四五二、三五五	四四四、九八	一、〇〇七、三七八	九三、三五二
同同	四五二、三五五	四四四、九八	一、〇九三、五〇五	一、〇〇七、三七八

品目	數量	價額（圓）
燐寸	一、一	一、一
砂糖	一、一	一、一
陶器	一、一	一、一
日本製ビール	一、一	一、一
朝鮮製ビール	一、一	一、一
日本製ウヰスキー	一、一	一、一
朝鮮製ウヰスキー	一、一	一、一
日本製ブランデー	一、一	一、一
朝鮮製ブランデー	一、一	一、一
日本製ジン	一、一	一、一
朝鮮製ジン	一、一	一、一
日本製リキュール	一、一	一、一
朝鮮製リキュール	一、一	一、一
日本製ベルモット	一、一	一、一
朝鮮製ベルモット	一、一	一、一
日本製其他酒精飲料	一、一	一、一
朝鮮製其他酒精飲料	一、一	一、一
日本製ゼリー	一、一	一、一
朝鮮製ゼリー	一、一	一、一
日本製メリヤス	一、一	一、一
朝鮮製メリヤス	一、一	一、一
日本製靴下	一、一	一、一
朝鮮製靴下	一、一	一、一
日本製ゴム靴	一、一	一、一
朝鮮製ゴム靴	一、一	一、一
日本製其他ゴム製品	一、一	一、一
朝鮮製其他ゴム製品	一、一	一、一
日本製セメント	一、一	一、一
朝鮮製セメント	一、一	一、一
日本製ガラス	一、一	一、一
朝鮮製ガラス	一、一	一、一
日本製其他ガラス製品	一、一	一、一
朝鮮製其他ガラス製品	一、一	一、一
日本製ゴム	一、一	一、一
朝鮮製ゴム	一、一	一、一
日本製ベルト	一、一	一、一
朝鮮製ベルト	一、一	一、一
日本製其他ゴム製品（主トシテ工業用ノモノ）	一、一	一、一
朝鮮製其他ゴム製品（主トシテ工業用ノモノ）	一、一	一、一
日本製ゴムボックス	一、一	一、一
朝鮮製ゴムボックス	一、一	一、一
日本製打鴨	一、一	一、一
朝鮮製打鴨	一、一	一、一
日本製其他打鴨	一、一	一、一
朝鮮製其他打鴨	一、一	一、一
日本製ミシン	一、一	一、一
朝鮮製ミシン	一、一	一、一
日本製其他鐵製品	一、一	一、一
朝鮮製其他鐵製品	一、一	一、一
日本製其他機械器具	一、一	一、一
朝鮮製其他機械器具	一、一	一、一
日本製其他雜品	一、一	一、一
朝鮮製其他雜品	一、一	一、一

第五　英國委任統治地域　カメルーン

一、面積、人口及人口密度

面　積　三四、〇〇〇平方哩

人　口　約七八〇、〇〇〇（內歐人約三〇〇）

人口密度　一平方哩ニ付二三

二、外國貿易（一九三六年）

(イ)　當地域外國貿易ハ一九二八年以來世界的不況ノ影響ヲ受ケ其ノ總額著シク減退シ一九三一年ニ於テハ最低額（二五九、二九八磅）ヲ示シタルガ其ノ後漸增シ一九三六年ニ於テハ六八、九二六磅ニ達シタリ、右總額ヲ港別ニ見ルニ**ヴィクトリヤ**港ハ二一〇、六七四磅、**ティコ**港ハ四六、二五二磅ニシテ前年ニ比シ何レモ增加ヲ示シ居レリ

本地域ニ於ケル最近五年間輸出入貿易額ヲ掲クレハ左ノ如シ　（英位磅）

		一九三二年	一九三三年	一九三四年	一九三五年	一九三六年
輸入	正貨	政府輸入額	—	—	—	—
		取引輸入額	—	—	五、一〇七	三、四三三	四〇三
	商品一般	政府輸入額	一、四六三	七三三	九七三	一、四七七	一、四七七
		取引輸入額	一〇一、九九九	一一六、三六〇	一一〇、〇六九	一八、三四〇	三四、三八八
	計		一〇三、四六三	一一七、〇九三	一二六、一四八	一八、三四三	三四、三九七

參考迄一九三五—六年港別輸出入額ヲ示セハ左ノ通リ（單位磅）

			一九三五年			一九三六年		
			輸入	輸出	計	輸入	輸出	計
テヴィクトリヤ港			九九、二九四	八三、五二三	一八二、八〇六	一〇三、八五五	一一六、八九九	二二〇、七四四
ティコ港			八六、〇四九	三三、五四四	一一九、五九三	一三九、六〇三	四六、二五二	一八五、八五五
合計			一八五、三四三	一一七、〇六七	三〇二、四一〇	二四四、四五七	一六三、一四一	四〇七、五九八
輸出入總計			三二七、七五六	二三四、二三九	五六一、九九五	三一〇、六五〇	二四九、四一九	六八九、二六九
輸出	正貨	政府輸出額	—	—	—	—	—	—
		取引輸出額	—	—	—	—	五〇〇	五〇〇
	商品一般	政府輸出額	一、五八二	一	一、五八三	一、九四〇	一	一、九四一
		取引輸出額	一六、〇三六	一	一六、〇三七	三一、八一四	四二六	三二、二四〇
計			一七、六一八	一	一七、六一九	三三、七五四	四二六	三四、一八〇

(ロ)　一九三五年及一九三六年ニ於ケル主要國ヨリノ輸入額（磅）比較左ノ通リ

國別	一九三五年	一九三六年	額一九三六年輸入總額ニ對スル百分比
北歐諸國	九四、一六八	一二七、五九二	五二・四一
米國	一三、一八二六	一三、〇一二	一二・七四
英領印度	一二、〇九一	一九、四二一	七・八四
英國本國	一九、〇八八	一二、一四五	四・八五
獨逸	一五、二五二	六、九三八	二・八五

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/
B-1169

佛國委任統治地域カメルーン	六、九八二	六、二五一	二・五七
西班牙諸領地	二、四九一	三、七五二	一・五四

最近三年間ニ於ケル主要輸入品數量及供給國名ヲ表示セハ左ノ通リ

品目	數量單位	一九三四年	一九三五年	一九三六年	主要供給國名
袋類	打	六、〇九〇	七、八八六	七、六五六	獨逸、英領印度
セメント	噸	五一九	八〇一	一、四七四	英本國、獨逸
レンガー及シガレット	百本	一一、九三四	一二、四六五	一三、〇〇九	英本國、獨逸、埃及
綿製品	平方碼	六一〇、七二二	一、一三四、四四七	一、一五五、四二三	日本、英本國、獨逸、和蘭、佛領カメルーン
魚類	封度	六四九、六九〇	七六三、五一六	一、一九一、一八七	英本國、諸威、佛領カメルーン、西班牙諸領地
石油	英ガロン	三四、五七二	四〇、九九八	七三、五六〇	北米合衆國、獨逸
米	C(百二十封度)W T S	一六、五三〇	一九、九三八	三六、六〇一	英領印度、緬甸、和蘭、佛領カメルーン
鹽	C(百二十封度)W T S	八、八五六	一〇、八二八	一一、〇八五	英本國、獨逸、佛領カメルーン
煙草	封度	一一、〇四〇	一一、三八七	一九、四二四	北米合衆國、佛領カメルーン

(ハ) 輸出

一九三五年及一九三六年ニ於ケル仕向國別輸出額左ノ通リ

國別	一九三五年	一九三六年	一九三六年輸出總額ニ對スル百分比
獨逸	二五六、五二七	三五四、二三四	七九・五二
佛國委任統治地域カメルーン	一一、一二七	三三、二一〇	七・四五
英本國	四〇、三九〇	三二、四八〇	七・二九
和蘭	七、〇五〇	一八、二二三	四・〇九
佛蘭西	二、一八七	五、〇七〇	一・一四

最近三年間ニ於ケル主要輸出品數量及輸出國名ヲ掲クレハ左ノ通リ

品目	數量單位	一九三四年	一九三五年	一九三六年	主要輸出國名
バナナ	(乾) 噸	五三七	七四〇	四五三	獨逸、和蘭
同	(生) 同	二二、七八一	三七、七五二	四九、六〇五	英本國、獨逸、和蘭、佛蘭西
ココア	同	四、五六一	四、〇七三	四、七七四	獨逸、和蘭、佛領カメルーン
棕櫚	實 同	一、二八三	一、四一八	一、五〇六	獨逸
棕櫚	油 同	一、四七七	一、七三一	五、六四八	英本國、獨逸
護謨	同	六五七	五九九	五八二	獨逸

三、本邦トノ貿易關係

當地域ヨリノ本邦向輸出ハ從來皆無ナリ

最近五年間ニ於ケル當地域ヘノ本邦ヨリノ輸入額（邦貨換算額）ヲ擧クレハ左ノ通リ　（單位千圓）

一九三二年	一一
一九三三年	一一
一九三四年	八三
一九三五年	二〇六
一九三六年	三二四

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/
B-1169
0461

本邦ヨリノ輸入ハ一九三五年ヨリ俄然激増シ其ノ額二〇六、〇〇〇圓（同年度輸入總額ニ對スルパーセンテージハ六・三五）一九三六年ニ於テハ更ニ増加シテ三二四、〇〇〇圓（同年度輸入總額ニ對スルパーセンテージハ七・八四）ニ上リ輸入國順位ニ於テ獨逸、英本國、英領印度ニ亞キ第四位ヲ占ム尤モ輸入本邦品ノ大部分ハ綿織物製品ナル處右ハ必スシモ全部當地域内ニ於テ消費セラルル次第ニアラス第二節第六ノ一ニ記述セラレタルカ如ク一九三四年以來ナイジェリアニ於テ日本織物ニ對シ課セラレ居ル輸入割當量カ當該年度ニ於テ消費シ盡サレタル結果ナイジェリアト同一關稅地域内ニ在リテ而モ右割當制度存在セサル當地域ノヴイクトリア港ニ輸入セラレ次年度ヲ俟ツテ之ヲナイジェリアニ再輸出セント仕組マレ居ルタメナリ

主要輸入業者ハ在ティコ港阿弗利加果物會社ナリ

第六　佛國委任統治地域　カメルーン

一、面積、人口及人口密度

面　積　四二七、〇〇〇平方粁

人　口　二、三四一、一〇五

人口密度　一平方粁ニ付五、五

二、貿　易

(イ)　最近五ケ年間輸出入貿易額（單位百萬法）

	一九三二年	一九三三年	一九三四年	一九三五年	一九三六年
輸入	七二	七五	五八	八八	一二六
輸出	八三	七七	七二	九七	一六八
計	一五五	一五二	一三一	一八六	二九四

(ロ)　輸出貿易

主要輸出品左ノ通リ

品名	一九三五年 數量（噸）	一九三五年 價額（千法）	一九三六年 數量（噸）	一九三六年 價額（千法）
牛及山羊	九九一	八九六	一、六一六	一、七六六
羊	二〇	二七	四	一三
豚	一九	六四	二	一一
粗皮	三八〇	七四二	五〇八	一、二八四
乾魚	一	一	同	同
象牙	二	五七	〇・三	八
マボ	八二	一四	三六	七
玉蜀黍	六一	二九	四、一八九	二、〇四六
バナナ	七、七二九	五、二八一	一六、八六五	一〇、〇七四
落花生（脫殼）	七、七二五	六、二三四	一二、九二四	一四、七六三
胡麻	六二一	四八九	一、〇七九	一、〇三四
棕櫚ノ實	三七、〇二二	二〇、一七七	四四、三〇二	三五、八三九

B-1169

0462

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

(ハ) 北伊米自和蘭英佛
計 太利國領國國國
輸 即 西 國 國 國 額
入
貿
易

品名	一九三五年及一九三六年ニ於ケル輸入品									
	一九三五年				一九三六年					
	數(噸)量	價額(千法)			數(噸)量	價額(千法)				
魚類(乾)	一、五二二	八、七二九	二、三四四	一、一九四	一、八七二	一〇、七四九	三、九〇〇	一、六二〇	一、四〇〇	一、〇〇〇
麥	八、二五四	一、九四七	四八、三八六	一、三五六	一、九一〇	四、五〇〇	二六、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
麵麭	一、一九四	一、二五四	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
雜穀	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
粉	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
澱粉	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
肉類	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
牛肉	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
豚肉	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
動物	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
木材	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
樞	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
道	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
類	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
枕木	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
材(小割)(樽用)	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
板	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
材	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
棒	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
葉	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
カ	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
珈琲	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
カリ	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
非	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
テ	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
ン	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
石	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
油	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
草	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
豆	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
豌豆	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
其他	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
計	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇

主要仕向國

佛國	一九三五年(千法)價額	一九三六年(千法)價額	割合 一九三五年	割合 一九三六年
其他	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
金	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
銀	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
金原	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
木	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
樞	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
鐵	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
黑	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
黑	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
ア	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
建	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
コ	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
棉	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
葉	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
カ	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
珈	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
カ	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
リ	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
非	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
テ	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
ン	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
オ	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
豆	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
豌豆	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
計	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

普通金属類	二、三〇〇、〇〇〇	細絲及細絲製品	一、〇〇〇
普通金属類製品	三、〇〇〇、〇〇〇	綿糸	八三〇
普通金属類半製品	二、八〇〇、〇〇〇	綿織物（漂白サラシ晒シ染メ及捺染ヲ含ム）	四四
普通金属類屑	一、〇〇〇	綿織物（小幅大幅ヲ含ム）及帯	四六
普通金属類鉱	一、〇〇〇	綿織物（小幅大幅ヲ含ム）及リボン	四四
普通金属類其他ノ物	一、〇〇〇	綿織物（小幅大幅ヲ含ム）及其他ノ物	四四
普通金属類製品	一、〇〇〇	綿織物（小幅大幅ヲ含ム）及製品	四四
普通金属類製品ノ部分品	一、〇〇〇	綿織物（小幅大幅ヲ含ム）及製品ノ部分品	四四
普通金属類屑	一、〇〇〇	綿織物（小幅大幅ヲ含ム）及屑

三　日本トノ貿易關係

日本向輸出

	英佛和蘭佛	米自	計
	國		
	西		
	國	年	
	國領西		
	他國領印遙		

	計	其小	玩	小	其他ノ	皮
(二)			ブ			
			ラ	間	護	革
主要供給國		包	ッ	物	謨	
		郵	シ		製	
			類	具	品	類
		他便	ュ	寸		靴

	一九三五年	一九三六年
價額（單位千法）	一七五、九七六	一九三、八九九
	二四、九三五、八六六	二〇、三六六、五四九
	五、六八六、二七一	七三、九八九、八四一
	二五、八九八、九六	二三、八九八、九六
	二、三八九、八六	二、三八九、八六
	一、三四二、九八六	一、三四二、九八六
	二、六八四、八六	二、六八四

日本ヨリノ輸入　一九三六年　二百十六萬六千圓

當委任統治地貿易統計ニハ日本向輸出ナク日本ヨリノ輸入ハ一九三五年度ニ於テ一二、〇五五、〇〇〇法、一九三六年ニ於テ二一、六六三、〇〇〇法ヲ示セリ輸入品ハ綿布ヲ筆頭トシ純絹布、莫大小、皮靴、ゴム靴、硝子類、陶磁器及家具ナリ

第七　英國委任統治地域　トーゴーランド

一、面積、人口及人口密度

面　積　一三、〇四一平方哩

人　口　二九三、六七一

人口密度　一平方哩ニ付三二

二、貿　易

當委任統治地域ハ細長キ帶狀ノ地ニシテ南部及北部ノ二地域ニ分離セラレ北部地域ハゴールドコースト植民地ノ北部州ニ、南方地域ハ同植民地ノ東部州ニ夫々行政上ノ便宜ヨリ從屬セラレ居リ貿易統計モ當委任統治地域特有ノモノナクゴールドコーストノ貿易中ニ包含セラレ居レリ

佛國委任統治地域トーゴー當委任統治地域間ノ貿易ニ關シ若干ノ統計アルモ右ハ素ヨリ當委任統治地域ノ貿易ノ一部ニ過キス當委任統治地域ノ貿易ハゴールドコースト植民地ヲ經由シ行ハルルモノ多キヲ占メ居ルモノト認メラル

ゴールドコーストニ於テハナイジェリアト共ニ一九三四年五月十六日以降本邦綿織物及人絹織物ニ對シテノミ輸入割當制ヲ布キ來リシカ昭和十二年一月以降諸外國ノ同種品ニ對シテモ割當ヲ行フコトトナリ一九三七年ノ各國割當ヲ一九三五年ニ於テ當該國ヨリ輸入セラレタル數量ノ一倍半若クハ各國ヨリノ輸入總量ノ二分五厘ノ內何レカ多キ方トセリ依ツテゴールドコーストヲ經由シ英國委任統治地域トーゴーランドニ向ケラルル本邦商品ハ送狀ニ仕向地ヲトーゴーランドト明記セサル限リゴールドコーストニ於ケル割當制ニ依リ輸入ヲ制限セラルル次第ナリ

一九三五年ニ於ケル當地域ノ日本綿織物及人絹織物ノ實際輸入量左ノ通リ　（單位平方碼）

綿　布	八五一、九八六	綿製タオル	七、六四二
人絹布	七八、四六五	計	九三八、七〇八

一九三六年ニ於ケルゴールドコーストノ貿易（ステーツメンス、イヤーブック、一九三八年）

品名	容積單位	數量	價額（磅）
重要輸入品			
各種魚類	CWTS（百二十封度）	一一七、一〇六	二〇六、九七七
米	同	二三三、六六六	一〇二、八五五
麥粉	同	一五二、五四二	一一八、一七七
各種獸肉（生ノモノヲ除ク）	同	七四、七六九	一三九、五四五

B-1169
0466
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

B-1169

飲	煙草及紙巻煙草	方	度
各	種	袋	紙袋
衣	絹	及	製
人	綿	製	製
綿	自動車及貨物自動車	車	品
運	動	車	品
自	動	機	械
鐵	銅	種	製
セ	メ	ン	ト
硝	石	醫	藥
同	同	品	品
ゴ	ム	製	製
英	日	獨	英

主要供給國

輸出品	英	日	獨	英	同	ガ	硝	窒	同	平	枚	封	ガ
						ロ				方			ロ
						ン				呎			ン
イ	二八〇、四四三磅	三〇五、四三三磅	七、四九九、七八八磅	六、〇五八、九五八磅	一、六三六、一一一磅	一三九、〇四七磅	六、〇二〇、九〇二、六四一、九三六磅	一八〇、四五〇、八四二、二六五磅	一九〇四	六二三五	一、三六五、七	一八一、四五〇	一、九三五、四五〇
ジ	二一七、一一六磅	五九二、七三三磅	九、二七六、八六五磅	一、六三六、一一一磅	一三九、〇四七磅								
リ	二一七、三一七磅	八〇五、〇二三磅	九、二七六、八六五磅										
ア	一八〇、四四三磅	四二一、九一九磅	七、四九九、七八八磅										

重要輸出品

英	日	獨	英	同	ガ	硝	窒	同	平	枚	封	ガ
					ロ				方			ロ
					ン				呎			ン
佛	自	チ	和	米								
		ニ										
		コ	ス									
		耳	ロ	ヴ	ア	キ						
國	筏	ア	即	國								

主要仕向先

加	獨	英		佛	和	米		西	威	即	國	
奈	陀	國	逸	國								
		二、六〇五、八、九五八磅									二、八四三、六〇九磅	
		一、六三六、一一一磅									七四三、四七〇磅	
		一三九、〇四七磅	一六五、二八四磅								一五二、四三八磅	
											三六、〇一九磅	

| 鹽 | 生 | コ | ホ | 綜 | 滯 | ダ | 金 | コ | | | | | | | | | | |

ルノ外ナキ處之ヲ大藏省統計ニ付テ見ルニ

	昭和十二年	昭和十一年	昭和十年
日本ヨリノ輸入	六、七六六、三二八圓	三、五六五、四三八圓	二、六七四、五九六圓
日本向輸出	九五〇、八二五	四三六、一六九	二一八、一八二

トナリ居レリ然ルニ當委任統治地域トゴールドコースト植民地ノ人口（ゴールドコーストノ人口ハ一九三一年度三、四四一、〇九二八）ノ割合ハ後者ガ前者ノ約十一倍ニ當ルヲ以テ之ヨリ推定スルニ昭和十二年ニ於ケル當委任統治地域ヘノ日本ヨリノ輸入ハ約六十萬圓ト概算セラルヘシ而シテゴールドコーストニ向ケ輸出セラルル日本品ハ綿製品、靴下、雜貨等ナリ

第八　佛國委任統治地域　トーゴー

一、面積、人口及人口密度

面積	五三、〇〇〇平方粁		
人口	七六三、〇〇〇		
人口密度	一平方粁ニ付一四、三		

二、貿易

(イ) 最近五ケ年間ノ輸出入貿易

	一九三二年	一九三三年	一九三四年	一九三五年	一九三六年
一、噸數（單位千噸）					
特別貿易					
輸入	三一・四	一九・三	一四・一	一七・一	二六・〇
輸出	二四・二	二三・一	三五・八	四〇・三	五六・〇
通過再輸出	〇・二	〇・三	〇・五	〇・二	〇・九
二、價額（單位千法）					
特別貿易					
輸入	六五・五	三八・一	二六・五	三一・二	四七・一
輸出	二八・四	二七・四	二八・一	三四・七	四四・〇
通過再輸出	〇・八	〇・九	一・八	〇・八	〇・八

(ロ) 輸入貿易

最近五ケ年間ニ於ケル輸入品大別（單位、百萬法）

	一九三二年	一九三三年	一九三四年	一九三五年	一九三六年
動物質品	〇・三	〇・三	〇・三	〇・二	〇・三
漁產物	〇・七	〇・三	〇・三	〇・四	〇・五
食料穀粉	〇・七	〇・六	〇・五	〇・五	〇・七
砂糖	〇・五	〇・五	〇・四	〇・四	〇・七
煙草	一・一	一・四	一・一	一・一	一・四
木材	〇・五	〇・五	〇・一	〇・一	〇・二
衣料	二・八	二・六	一・七	一・七	二・〇
建築材料	一・〇	〇・八	〇・六	〇・五	〇・六
金屬（銀ヲ含マズ）	一六・〇	三・五	〇・六	〇・九	一・〇

B-1169
0468
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

主要供給國（單位、百萬法）

	一九三三年	一九三四年	一九三五年	一九三六年
英佛領西印度	六五五・五	三八二・一	三一・三	四五三・一
佛國	一〇〇・二	二七・九	三〇・六	一五・九
共他ノ材料ニ依ル製品	四四四・九	一・六六	一・三三	一・一
共他ノ風絖及同下織着製品	一四八・六	一・三五	一・三三	一・一
共他ノ金屬製器具	一四〇・一	一・三五	一・三三	一・一
共他ノ紙及紙製品	四七・八	二・八	二・〇	一・一
共他ノ織物	一九・四	一・六	一・四	一・一
共他ノ絲及絲製品	七・四	一・二	一・一	一・一
共他ノ鹽	〇・一	〇・一	〇・一	〇・一
共他ノ鑛物及陶器	〇・一	〇・一	〇・一	〇・一
共他ノ藥品及香料	〇・一	〇・一	〇・一	〇・一
共他ノ化學製品	〇・一	〇・一	〇・一	〇・一
計	六五五・五	三八二・一	三一・三	四五三・一

(ハ) 輸出貿易

最近五ケ年間ニ於ケル輸出品大別（單位、百萬法）

	一九三二年	一九三三年	一九三四年	一九三五年	一九三六年
農產物	二六・二	二五・八	二六・七	三三・六	四三・一
牧畜品、狩獵品、漁獲品	一・九	一・三	一・四	一・一	〇・九
鑛產物、工業品及其他	〇・三	〇・三	〇・〇三	〇・〇一	〇・〇一
計	二八・四	二七・四	二八・一	三四・七	四四・〇

註、當委任統治地重要輸出品、玉蜀黍、**マニオック**粉、**タピオカ**、落花生、椰子實、椰子油、**コプラ**、棉實、麻子、**カオ**、珈琲、棉花、**カポック**

主要仕向國（單位、百萬法）

	一九三三年	一九三四年	一九三五年	一九三六年
佛國	一八・九	一三・三	一三〇四	一八・一
佛國西印度領	〇・〇二	〇・一	〇・〇二	〇・〇五

	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三四年	一九三五年	一九三六年
英佛領西印度	四七・八	四四・九	四〇・一	三八・四	三一・三	四五三・一
佛國	二七・九	二〇・二	一七・二	一三・三	一三〇四	一五・九
佛國西印度領	〇・〇二	〇・〇二	〇・〇二	〇・一	〇・〇二	〇・〇五

註、一九三三年ニ於ケル英國屬領及日本ヨリノ輸入ハ共他中ニ包含ス

	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三四年	一九三五年	一九三六年
共和國	三一・二	二二・九	二二・〇	一二・二	一二・四	一二・二
日本	一二・一	一二・一	一二・二	一二・二	一二・二	一二・四
米國	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一
獨逸	一〇・六	一〇・五	一〇・九	一〇・九	一〇・七	一〇・三
白耳義	一〇・九	一〇・五	一〇・四	一〇・四	一〇・四	一〇・四
和蘭	一〇・四	一〇・四	一〇・四	一〇・四	一〇・四	一〇・四
英國	一〇・六	一〇・一	一〇・一	一〇・一	一〇・一	一〇・一
計	三八・一	三六・五	三一・二	三三・二	三三・四	四七・一

B-1169

英國	二・二	二・二	二・〇	二・三
英國屬領	—	一・八	一・五	一・二
獨逸	三・〇	六・五	六・六	六・〇
白耳義	—	〇・五	〇・四	〇・二
和蘭	〇・八	一・六	一・四	三・〇
米國	—	一・五	二・〇	三・〇
日本	—	—	—	—
其他	二・五	〇・六	〇・四	〇・二
計	二七・四	二八・一	三四・七	四四・〇

註、一九三三年ニ於ケル英國屬領向輸出ハ其他中ニ包含ス

三、日本トノ貿易

輸出　ナシ

輸入　一九三六年　邦貨換算額五十五萬圓

日本向輸出ハ殆ント皆無ナルカ日本ヨリノ輸入ハ前顯ノ通リ一九三五年ニ於テ二百二十萬法、一九三六年ニ於テ五百五十萬法ヲ示セリ日本ヨリノ重要輸入品ハ綿布、衣類、金屬製品及護謨製品ナリ綿布ハ一九三六年ニ於テ輸入總量七百八十六噸中日本ヨリ三百四十六噸（此ノ割合四割四分）、衣類ハ三十六噸中二十二噸（此ノ割合六割）、護謨製品ハ六十噸中三十三噸（此ノ割合五割五分）ヲ輸入セリ

第九　白國委任統治地域　ルアンダ、ウルンディ

一、面積、人口及人口密度

面積　五三、〇〇〇平方粁

人口　三、五〇〇、〇〇〇（外ニ歐人一〇〇〇印度人及アラビヤ人五〇〇）

人口密度　一平方粁ニ付六六

二、貿易

（イ）最近五ヶ年間ノ輸出入貿易左ノ如シ（單位、千法）

	一九三二年	一九三三年	一九三四年	一九三五年	一九三六年
輸入	二三、三四三	二七、五五九	三〇、六一七	三八、四六六	五七、七二〇
輸出	一三、〇九六	一五、六四六	二九、三五二	四五、〇二四	七四、三四一

（ロ）輸入貿易

一九三六年ニ於ケル主要輸入品（單位、千法）

魚類（生、乾、鹽、燻）	一四六	穀物	九〇
果實罐詰	一一三	カカオ	八一
茶	六六	鹽	一、八四一
葡萄酒	三四九	麥酒	四八一
リキユール	四八〇	石油	二、七六四
石鹼	三六〇	藥品	五五五

B-1169

0470

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

皮靴	一五〇
粗布（生地）	二、六二二
粗布（染色）	七、二五五
掛布	一、一五七
紙及紙製品	三八三
鐵製家具	四九五
銅線	六八三
自動車	六三二
自動車部分品	三七二
自轉車	一六八

過去三ケ年間ニ於ケル主要供給國（單位千法）

	一九三四年	一九三五年	一九三六年
日本	八、九六七	一〇、一九六	一八、一一七
白耳義	四、九一三	六、五九八	一〇、三九五
英國	二、二八三	三、四三〇	二、六五六
米國	一、九八三	四、四〇八	三、三二九
タンガンイカ委任統治地域	一、八一九	三、五四三	七、二九七
關領印度	一、七九九	九〇六	五七一
獨逸	一、七七九	一、七九〇	二、七〇九
ウガンダ	一、〇二一	九一〇	二、一一三

(八)輸出貿易

粗布（晒）	一一四
粗布（捺染）	六七三
粗布（糸染糸晒糸及**マーセラ イズ**糸ニテ織上タルモノ）	四、八一七
ランヂユリー	一、五一三
鐵類	一、一〇〇
鐵製品	一、八三〇
家具	一、三二四
貨物自動車	一、一〇三
自働自轉車	二、二〇三
火藥	一八三
	八二三

一九三六年ニ於ケル主要輸出品左ノ如シ（單位千法）

生珈琲	三、八八三
象牙	五五〇
原棉	三、七六五
皮革	九、二九二
錫	二六、四二四

過去三ケ年間ニ於ケル主要仕向先（單位千法）

	一九三四年	一九三五年	一九三六年
白耳義	二二、三二六	三五、三一五	四九、四八七
タンガンイカ委任統治地域	一、四九〇	三、一六一	五、八六一
ウガンダ	一二	一六〇	一九四
ローデシア	—	四三	三一
日本	—	—	—

三、日本ト之貿易關係

日本向輸出　一九三六年　一八、一一七、六七五法

日本ヨリノ輸入　同　三、五八〇法

日本向輸出ハ僅ニ三、五八〇法ニ過キサルカ日本ヨリノ輸入ハ一九三四年ニ於テ八、九六七、〇〇〇法一九三五年ニ於テ一〇、一九六、〇〇〇法一九三六年ニ於テ一八、一一七、〇〇〇法ヲ示シ日本ハ右三ケ年共白耳義ヲ凌駕シ第一位ヲ占メ居レリ

日本ヨリノ輸入品ハ肉罐詰、魚罐詰、貝罐詰、米、穀粉、乾野菜、乾果實、精糖、藥味、セメント

B-1169

0471

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

石鹸、蠟燭、香水及コスメチック、皮靴、革具、毛糸、綿糸、麻糸、毛織物、絹布及人絹布、綿布、天鵞絨、麻織物、絨毯麻織物、寢臺被、莫大小、女子用服、各種布袋、諸謨製品、家具、紙及紙製品、陶磁器、硝子器、鐵線、鐵製家具、琺瑯鐵器、アルミニウム器、銅線、美術品、電機機具、ミシン機械、自動車部分品、自轉車、樂器、時計、燐寸等多岐多樣ナルカ右ノ內綿布ハ一千三百九十四萬法ニ達シ日本ヨリノ各商品輸入總額ノ七割七分、當委任統治地綿布輸入總額ノ八割二分強ニ當リ居レリ

一九三六年ニ於ケル各國ヨリノ綿布輸入狀況左ノ通リ（單位千法）

國	晒生地	捺染	染タルモノ	染糸、晒糸若クハマーセライズ糸ニテ織リタルモノ
英	四一	一七九	一	五
白耳義	一五	六	八八	一二七
英領印度	三	一	四五	二八
日本	一四	四、二九二	一、五、八四九	一、二一八
和蘭	四九	三三	三	三
タンガンイカ	五一六	二二六	九七二	一一三
ウガンダ	二、〇六六	七九	二三三	一五
	四			
	七三			
	八			
	二八一			
	二二〇			

第四節　コンゴー盆地條約

第一　概說

中央阿弗利加ニ於テ通商ノ自由及外國人ニ對スル均等待遇ノ原則カ一般ニ確立シタルハ一八八五年二月二十六日ノ伯林會議ノ一般議定書ニ基クモノナルカ本議定書成立ノ由來ヲ述フルニ第十九世紀後半ニ中央阿弗利加ニ於ケル各國ノ勢力範圍擴張競爭カ激甚ヲ極メタル頃同地方ニ於ケル先進國殊ニ佛、白兩國ノ發展ヲ阻止センコトヲ目的トシテ一八八四年四月二十六日付ヲ以テ英、葡間ニ成立セル條約アリタルカ此レニ對シ佛、白、獨其ノ他ノ諸國ヨリノ猛烈ナル反對アリ結局獨逸宰相ビスマルクノ斡旋ノ下ニ伯林會議ノ開催トナリ、コンゴー河流域及其ノ隣接ノ地方ニ於テ一切ノ國民ニ對シ通商上ノ完全ナル自由ヲ確保スル目的ヲ以テ本議定書ノ作成ヲ見タルモノニシテ其ノ參加國ハ獨、墺(洪)、白、丁、西、米、佛、英、伊、蘭、葡、露、瑞典（諾威）及土ノ十四箇國ナリ

右議定書ハ一八九〇年七月二日ノブリュッセル會議ノ一般議定書及宣言書ニ依リ追補セラレ（參加諸國ニ從價一割ヲ超エサル限度ニテ公平ニ輸入稅ヲ課シ得ルコトヲ認ム）次イテ世界大戰後一九一九年九月十日サン、ジェルマン、アン、レーイニ於テ締結セラレタル條約ニ依リ更ニ修正セラレタルモ外國人ニ對シ通商上ノ均等待遇ヲ賦與スルノ原則ニ關シテハ變更ナク今日ニ及ヘリ

所謂コンゴー盆地條約ト稱セラルルモノハ右ニ述ヘタル最後ノ條約ニシテ帝國ヲ初メ英、米、佛、白、

B-1169
0472
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

葡、伊ノ七ケ國ノ全權ニ依リ署名セラレタルモノナリ

茲ニ英國トハ英本國ハ勿論南阿聯邦、濠洲、加奈陀、印度及新西蘭ヲ含ムモノナリ

右條約ニ對スル伊國及米國ノ批准書寄託ハ他ノ諸國ニ比シ相當遲延シタルカ伊國ハ一九三一年四月十四日、米國ハ一九三四年十月二十九日夫々批准書ノ寄託ヲ了シタリ

伯林會議一般議定書ノ加入國ニシテ**コンゴー**盆地條約ニ加入シ居ラサル國ニ對シテハ今尚右議定書ノ適用アルモノト解セサルヘカラス（**コンゴー**盆地條約條約第十三條及前揭第二節第九ノ二ニ記述シタルファン・アスベック委員ノ所論參照）尤モ獨逸及埃洪國ハ伯林及**ブリュッセル**議定書ノ當事國ニシテ本條約ニ加入セル國ナルカ右三國及勃國ハ各對獨、墺、洪、勃ノ平和條約ノ規定ニ依リ伯林一般議定書**ブリュッセル**一般議定書及之ヲ補足シ又ハ變更スル條約ニ規定スル事項ニ關シ同盟及聯合國又ハ其ノ數國ト他國トノ間ニ締結スル取極ヲ受諾シ遵守スルコトヲ約シタルヲ以テ右諸國モ亦本條約ニ羈束セラルヘキモノナリ又土耳古ニ關シテハ對土平和條約ニ於テ同國ヲシテ**コンゴー**盆地條約ニ加入シ之ヲ批准スルコトヲ約セシメタリ

コンゴー盆地條約カ伯林會議議定書ト異ナル主要ナル點ハ議定書カ完全ナル貿易ノ自由ヲ規定スルニ對シ本條約カ差別的關稅ノ制度ノミヲ禁シ居ルニ過キサルコト及議定書ノ場合ノ受益者ハ一切ノ國民ナルニ對シ本條約ノ受益者ハ加入國（本條約ノ署名國及本條約ニ加入スル國際聯盟國タル諸國）ノ國民ノミナルコトノ二點ナリ

第二　**コンゴー**盆地條約ノ內容

本條約ノ體裁ハ一般ノ條約ト同樣ニ先ツ前文ヲ揭ケ次ニ十五箇條ヨリ成ル本文ヲ置キ最後ニ末文ヲ附シタリ、本文ニ規定セラレタル內容ノ要點ハ左ノ如シ

一、加入國ニ對スル通商上ノ均等待遇

加入國（本條約ノ署名國及本條約ニ加入スル國際聯盟國タル諸國）ノ國民ニ對スル通商上ノ均等待遇ヲ維持スルノ原則ハ第一條ノ規定スル所ナリ其ノ適用地域ハ伯林一般議定書第一條所定ノ境界內即チ(イ)**コンゴー**河及其ノ支流ヲ形成スル一切ノ地方(ロ)南緯二度三十分ノ緯度線ヨリ**ロージェ**河口ニ至ル迄ノ間ノ大西洋ニ浴フ海岸地帶(ハ)右ニ定メタル**コンゴー**河流域ヨリ東方ニ展開シテ印度洋ニ至リ北緯五度ヨリ南方**ザンベーズ**河口ニ至ル迄ノ地帶ナルカ之ヲ政治的管轄ニ依リ示セハ左ノ如シ（地圖ニ付テハ條約彙纂第二卷第四部參照）

佛領赤道アフリカ及佛國委任統治地域カメルーンノ各一部

白領**コンゴー**

白國委任統治地域ルアンダ及ウルンディ

葡領東アフリカ（モザンビック）及西アフリカ（アンゴラ）ノ各一部

英領北部**ローデシア**ノ一部

B-1169

0493

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

英國保護領ニアサランド、ウガンダ及ザンジバル
英領ケニヤ植民地
英國委任統治地域タンガンイカ
伊領リマリランドノ一部
エチオピヤノ南部
アングロ・エジプシアン・スーダンノ南部

右均等待遇ノ原則ノ適用及實施ニ關スル細則ハ左ノ通本條約第二條乃至第十條ニ依リ規定セラル

(イ) 商品ノ輸出入及通過ノ自由

加入國ノ國民ニ屬スル商品ハ第一條ノ地方ニ於テ自由ニ搬入セラルヘク其ノ輸出入ニ際シ何等ノ差別待遇ヲ設ケス且其ノ通過ニ付テモ單ニ之カ手數ノ爲徴收スルモノ以外ノ一切ノ稅金、料金又ハ課金ヲ免除スヘキモノトス（第二條第一項）

(ロ) 加入國國民ノ身體、財產及職業ノ保護

第一條ノ地域內ニシテ締約國中ノ一國ノ權力下ニ在ル地方ニ於テハ加入國ノ國民ハ其ノ身體及財產上ノ保護ヲ受クヘク又動產不動產ノ取得移轉ニ關シ及職業ノ實行ニ關シ右地域ニ權力ヲ行使スル國ノ國民ト同一ノ待遇及權利ヲ享有スヘシ尤モ當該地方ノ公共ノ安全及秩序ヲ維持スルニ必要ナル制限ニ限リ之ニ從フヘキモノトス（第三條）

(ハ) 利權ノ開發

各國ハ其ノ國有財產ヲ自由ニ處分シ且前記地方ニ於ケル天然富源開發ノ事業ヲ特許スルノ權利ヲ保有スルモ右ノ諸權利ノ行使ニ關シテハ加入國國民ニ對シ均等ノ待遇ヲ與フヘキモノトス（第四條）

(ニ) 航行ノ自由

加入國ノ船舶ハ自由ニ第一條所定ノ地域ノ海岸ヲ通航シ其ノ海港ニ寄港スルコトヲ得ヘク右ニ對シテハ何等ノ差別的待遇ヲ課セサルヘキモノトス（第二條第二項）

航行及寄港ノ自由ハ單ニ前記ノ海岸及海港ニ付テノミナラス**ニジェール**河ノ本支流及捌口竝第一條ノ地域內ノ諸河川ノ本支流及捌口竝同地域內ノ湖水ニ及ヒ加入國ノ船舶ノ航行竝貨物及旅客ノ運送ハ右ノ諸河川ノ本支流及湖ニ於テモ自由ニシテ且均等ノ待遇ヲ受クヘク（第五條）卽チ寄港碇泊滯留荷卸又ハ强制入港ノ義務ヲ負フコトナク又單純ナル航行ノ事實ヲ理由トシテ何等ノ制限又ハ課金ヲ命セラレ乃至ハ通行稅ヲ課セラルルコトナカルヘク船舶內ノ商品ニモ何等ノ通過稅ヲ課スルコトナシ尤モ航行其ノモノノ手數ニ對スル料金又ハ稅金ハ之ヲ徴收スルコトヲ認メラルルモ右料金又ハ稅金ノ率ニ付テハ差別的待遇ヲ設クルコトヲ得サルヘシ（第六條）

前記ノ河川及湖水ノ支川ハ一切ノ點ニ於テ其ノ流入スル本流及湖水ト同一ノ制度ニ從フヘク右諸

B-1169
0474
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

河川ノ本支流及捌口並湖水、其ノ派川及捌口等ノアル區域ニ於ケル水路ヲ改修スルノ目的ヲ以テ設クル道路、鐵道又ハ傍系運河ニ付テハ交通機關タル限右ノ河川及湖水ニ附屬スルモノト看做シ加入國ノ國民ノ通行ニ對シ均シク開放セラルヘク右交通機關ノ開設、維持及管理ノ諸費用及衡平ナル收益ヲ參酌シテ定メラルヘキ通行稅ハ之ヲ徵收シ得ルモ其ノ稅率ハ加入國ノ國民ニ均等ヲ維持スルコトヲ要ス（第七條）

(ホ) 航行ノ取締

各署名國ハ航行ノ安全取締上有用ナリト認ムル規則ヲ自由ニ設クルコトヲ得ルモ右ハ能フ限リ商船ノ航運ヲ容易ナラシムルコトヲ期スヘキモノトス（第八條）而シテ二以上ノ沿岸國ニ依リ利用セラルルコトナキ河川及其ノ支流ノ部分並湖水ニ付テハ之ニ權力ヲ行使スル政府ハ加入國間ニ均等ニ適用スルコトヲ條件トシテ自由ニ公共ノ安全及秩序ノ維持並文化及植民事業ノ爲必要ナル制度ヲ設クルコトヲ得ヘシ（第九條）

(ヘ) 一般取締機關ノ維持

署名國ハ其ノ權力下ニ在ル地方ニ於テ身體及財產ノ保護並必要アルトキハ通商及通過ノ自由ヲ保證スルニ充分ナル官憲及警察力ノ存在ヲ維持スルノ義務ヲ承認ス（第十條）

二、土着人民並宗教ノ保護

署名國ハ土着人民ノ保存並其ノ精神的及物質的狀態ノ改善ヲ督視シ特ニ奴隸制度及黑人賣買ノ禁止ヲ確保スルニ努ムヘク（第十一條第一項）右土人ノ文化誘導ノ目的ヲ以テ設立組織シタル宗教的、學術的、慈善的施設及學術調查團並其ノ材料及蒐集品ニ對シテハ特ニ保護ヲ加フヘキモノトシ（第十一條第二項）又加入國ノ國民ハ良心ノ自由ト宗旨ノ勤行ノ自由ヲ保障セラルヘク右ニ付宣教師ハ其ノ傳道事業遂行ノ爲アフリカ地方ニ入國シ旅行シ及居住スルノ權利ヲ有スヘシ

前記土着人民ノ誘導機關ノ保護並信仰ノ自由ノ保障ニ關スル規定ノ適用ニ付テハ公共ノ安全及秩序ノ維持ニ必要ナルカ又ハアフリカ諸地方ニ權力ヲ行使スル各國ノ憲法上ノ制限ノ外他ノ制限ヲ設ケサルヘシ（第十一條第四項）

三、紛爭ノ解決方法

本條約ノ適用ニ關シ紛爭ヲ生シ協議ニ依リ解決シ能ハサルトキハ署名國ハ該紛爭ヲ國際聯盟規約ノ規定ニ從ヒ仲裁裁判所ニ付スヘキコトヲ約ス（第十二條）

四、舊規定ノ廢棄

千八百八十五年二月二十六日ノ伯林一般議定書並千八百九十年七月二日ノブリュッセル一般議定書及宣言書ハ本條約第一條ニ揭クル規定ノ外本條約ノ當事國タル諸國間ノ關係ニ於テハ之ヲ廢棄シタルモノト看做サルヘシ（第十三條）

B-1169
0475
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

五、本條約ヘノ加入

アフリカ諸地方ニ權力ヲ行使スル國及國際聯盟國タル他ノ諸國ニシテ伯林議定書、ブリュッセル議定書又ハ其ノ附屬宣言書ノ當事國タルモノハ本條約ニ加入スルコトヲ得ヘク締約國ハ右諸國ヲシテ之ニ加入セシムルコトニ努ムヘシ（第十四條）

六、本條約ノ修正

署名國ハ本條約實施ノ日ヨリ十年ノ後ハ其ノ經驗ニ徴シテ有益ナリト認メラルヘキ修正ヲ本條約ニ加フル爲會合スルモノト定ム（第十五條）

第三　コンゴー盆地條約改訂問題

一、本件條約ハ其ノ第十五條第五項ニ同條約ノ批准書ヲ佛國政府ノ記錄保存所ニ寄託シタル「署名國ニ對シ其ノ批准寄託ノ日ヨリ實施セラルヘク該國ハ既ニ批准書ノ寄託ヲ了シタル他ノ國ニ對シ右ノ時ヨリ拘束セラルヘシ」トアルニ依リ本件條約ノ實施期ハ最初ニ本條約ノ批准書ヲ佛國政府ニ寄託シタル英白兩國ノ寄託ノ日タル一九二〇年七月三十一日ト見ルヘキモノナリ又第十五條第一項ハ「署名國ハ本條約實施ノ日ヨリ十年ノ期間滿了ノ際經驗上必要ト爲レル修正ヲ本條約ニ加フルカ爲ニ會合スヘシ」ト規定シ居ルヲ以テ本條約改訂會議開催期日ハ前記實施期日ヨリ十年目卽チ一九三〇年七月三十一日ニ相當セル次第ナリ

二、右改訂期日ノ切迫スルニ伴ヒ本條約ニ最モ關係深キ英本國及英領東アフリカ植民地ニ於テハ英國產品ニ對シ特惠稅率ヲ設定スルノ權利ヲ獲得スルノ要アリト論スルモノ多ク凡ユル機會ニ右ノ趣旨ノ運動ヲ試ミ英國政府ニ迫リツツアル者尠カラサリシカ他方右特惠關稅設定ニ反對スル者モアリテ輿論統一セス而シテ英國政府ニ於テモ本件條約改訂會議ニ對スル準備整ハサリシモノト見エ在本邦英國大使ヨリ帝國外務大臣ニ對シ一九三〇年七月二十三日附書翰ヲ以テ同條約改訂會議ノ開催期日ヲ一九三五年七月三十一日ト定メタキ旨提案シ來レリ

右提案ニ對シ我方トシテハ同年八月十二日附書翰ヲ以テ他ノ署名國ニ於テ反對ナキ限リ何等異議無之旨回答スル所アリタリ蓋シ本件條約ニ於テ通商上ノ均等待遇ヲ約定シ居ル結果植民地統治關係ヲ有スル諸國ハ本條約ニ拘束セラレ自國ノ植民地ト雖モ自國產品ニ對シ有利ナル特惠稅又ハ差別的關稅制度ヲ設定スルヲ得ス之ニ反シ本邦ノ如クアフリカニ於テ何等政治的權力ヲ有セサル國モ右均等主義ニ均霑シ得ル次第ニシテ畢竟本條約カ本邦ノ對アフリカ貿易ノ一大保障タルノミナラス未タ何等同條約ヲ以テ不利不便ヲ經驗シタルコトナキヲ以テナリ

三、前記英國提案ヲ受諾シタルハ關係署名國中本邦ヲ始メ佛、白、葡ヲ加ヘ四國ナリキ尤モ當時ニアリテハ米伊兩國ハ未タ批准セサリシ狀態ナリシヲ以テ右四國ノ同意ニ依リ本條約ニ拘束セラルル五國間ニ改訂延期ノ合意カ成立セルモノニシテ隨テ第十五條ハ其ノ意味ニ改正セラレタルモノナリト

B-1169

0476

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

解スルコトヲ得ヘシ右法律上ノ解釋問題ハ兎ニ角其後事實上ニ於テ何レノ署名國ヨリモ本條約改訂ノ措置ヲ取ルコトナクシテ今日ニ及ヘリ

第四　コンゴー盆地條約廢棄ノ可能性

一、本條約ニハ廢棄ニ關スル規定ナキヲ以テ或ル締約國ノ一方的意思ノミニ依リ之ヲ廢棄シ得ルヤ否ヤハ問題ナリ多數ノ學說ハ斯カル場合之ヲ廢棄シ得スト論ス、學者ハ往々一方的廢棄ノ理由トシテ所謂 Clausula rebus sic stantibus（締約當時ノ事態存續條款）ナルモノヲ擧クルモ果シテ右條款ノ適用ヲ合理的ナラシムヘキ事態ニ變化ヲ生シタリヤ否ヤノ認定ニ關スル標準カ學者ニ依リ異リ其ノ間定說ナク又實際問題トシテモ締約國ハ各々自由ニ解釋スルノ權利ヲ有スヘク結局或ル締約國ハ右條款ヲ援用シ或ル條約ノ一方的廢棄ヲ主張スルコトアリ得ヘキト共ニ他ノ締約國ハ又之ヲ承認スル義務ナカルヘキモノナリ之ヲ國際間ノ先例ニ徵スルニ右條款ヲ援用シテ條約ヲ一方的ニ廢棄シタル場合ハ極メテ尠ク且其ノ場合他ノ締約國ハ常ニ右廢棄ヲ承認セサルヲ例トセリ（例ヘハ露國千八百七十年「締約當時ノ事態存續條款」ヲ理由トシテ一八五六年ノ巴里條約中ノ黒海中立條款ノ廢棄ヲ宣言シタルモ關係國ハ之ヲ認メス露國ノ所爲ヲ咎メテ倫敦議定書ニ依リ和親的協定ニ依リ總テノ締約國ノ同意ヲ經ルニ非サレハ何國モ條約上ノ義務ノ拘束ヲ免カレ若クハ條約上ノ義務ヲ變更シ得サルコトカ國際法上ノ重要ナル原則ナルコトヲ聲明セリ、又近時ニ於テモ本條款ヲ理由トシテ土耳其

國カ**バルカン**同盟諸國ト結ヘル一九一三年ノ倫敦條約ノ拘束ヲ免レントシ、千九百十九年佛國カ**ヴォア**ノ中立地帶ニ關スル一八一五年ノ條約ヲ廢棄セントシ、支那カ千九百十九年十一月露國及蒙古國ト結ヘル一九一三年十一月ノ條約及一九一五年六月ノ條約ヲ廢棄セントシタル等トノ場合此等ノ主張ノ對抗ヲ受ケタル諸國ハ右條款ヲ理由トスル條約廢棄ヲ認メタリト云フコトヲ得ス）

二、次ニ條約ノ一方的廢棄問題ニ關スル前述ノ一般理論的考察ヲ離レ本條約成立ノ沿革及目的ヨリ觀ルトキハ本條約ノ一方的廢棄ハ左ニ述フルカ如ク不可能ナリト解セラルヘシ

(イ)　本條約ハ**コンゴー**盆地ニ關スル一八八五年二月二十六日ノ伯林一般議定書竝ニ之ヲ補足修正シタル一八九〇年七月二日ノ**ブリュッセル**一般議定書及宣言書ノ趣旨ヲ更ニ確立シ且其ノ後ノ事態ノ變化ニ適應スル修正ヲ加フル爲ニ締結セラレタルモノニシテ之カ締約國間ノ關係ニ於テハ前記伯林及**ブリュッセル**ノ一般議定書ニ代リタルモノナリ

而シテ前記伯林一般議定書ハ當時中央**アフリカ**ニ於テ歐洲諸國カ通商經濟上ノ發展ノ爲植民地又ハ勢力範圍ノ獲得ニ熱中シタル結果右諸國間ニ衝突ノ惧大ナリシ際**コンゴー**河ノ流域及其ノ隣接地（第一條參照）ニ於テ通商航海ノ自由及商業上內外國民ニ對スル均等待遇ヲ保障スルコトニ依リ互ニ植民地又ハ勢力範圍ノ現狀維持ノ下ニ平和ノ維持ヲ圖ラントスル目的ヲ以テ締結セラレタルモノナルカ同時ニ右一般議定書ハ同地方ニ於テ當時盛ニ行ハレタル奴隷制度及黒人賣買ノ弊習ヲ

B-1169

0477

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

禁絶シ一般ニ土着人民ノ精神的及物質的福祉ヲ增進セントスル文化的、人道的目的ヲモ併セ有シタリ

從テ右議定書ハ國際聯盟規約第二十二條第五項ノB式委任統治地域ニ關シ規定スル所ト其ノ精神ヲ同クスルモノニシテ前記コンゴー盆地地域ニ於テ權力ヲ行使スル締約國ハ本條約ニ依リ平和及人道ノ見地ヨリ自ラ右權力行使ニ關シ一定ノ制限ヲ受諾シタルモノナリ、反面ヨリ之ヲ觀レハ他ノ締約國ハ斯カル制限ヲ條件トシテ右權力ノ行使ヲ認メタルモノト謂ヒ得ヘシ從ツテ該地域ニ對シテ權力ヲ有スル國ハ之ヲ維持スル限リ本條約ニ依リ課セラレタル制限ヲ一方的ニ排除スルコトヲ容認セラルヘキモノニ非ス

(ロ) 伯林會議一般議定書ニ加入スル國ニシテ本條約ニ加入セサル國ニ對シテハ依然右議定書ノ適用アルモノト解セラルヘキ處（第一、概說參照）同議定書第一條ハコンゴー河流域及其ノ隣接地域ニ於テ一切ノ國民カ完全ナル通商ノ自由ヲ有スヘキコトヲ規定シ居ルニ付本條約ヲ廢棄スル場合ハ同時ニ舊條約ヲモ廢棄セサル限リ所期ノ目的ヲ達シ難シ

(ハ) 最後ニ本條約カ第十五條ニ於テ「署名國ハ本條約實施ノ日ヨリ十年ノ期間滿了ノ際經驗上必要トナレル修正ヲ本條約ニ加フルカ爲ニ會合スヘシ」ト規定セル點ハ頗ル注意ヲ要ス、右ハ十年後ノ事態變更ニ應シテ必要ナル修正ヲ加ヘントスルモノナルカ故ニ修正ニ關シテ締約國カ協議スヘキコトヲ定ムルト共ニ或締約國カ前顯ノ事態變更ノ原則ヲ主張シテ廢棄ヲ爲シ得サルコトヲ規定シタルモノト謂フヘク此ノ點ハ他方ニ於テ條約廢棄ノ規定ナキ事實ト比照スルモ正當ノ解釋ナリ

三、現ニ本年五月三十一日英國議會ニ於テ日本品ノコンゴー盆地地方ニ對スル進出カ問題トナリ「本條約カ英國ノ貿易ニ不利益ヲ醸成シ居ルニ於テハ之ヲ改訂シテハ如何」トノ議員ノ質問ニ對シスタンレー商相ヨリ「右改訂ニハ署名國全部ノ同意ヲ有シ英國ノミニ依リ一方的ニ之ヲ廢棄スルコト不可能ナリ而シテ日本モ右署名國ノ一ナリ」ト答ヘタルハ前述ノ諸點ニ鑑ミ公正ナル所論ナリト云フコトヲ得ヘシ

第五　コンゴー盆地條約ト委任統治地域

一、コンゴー盆地條約トハ別箇ニA式及B式委任統治地域ニ於テハ夫々聯盟規約ニ基ク委任統治條項ニ依リ通商上ノ均等待遇ヲ保證セラレ居ル處其ノ地域ハ左ノ如シ

A式委任統治地域

英國委任統治地域パレスタイン及トランス・ジョルダン、佛國委任統治シリア及レバノン

B式委任統治地域

英國委任統治地域カメルーン、トーゴーランド及タンガンイカ、佛國委任統治地域カメルーン及

B-1169

0478

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

トーゴー

白國委任統治地域ルアンダ及ウルンディ

二、次ニ右地域ニ於テ委任統治條項ニ依ル通商均等待遇カ我方ニ拒否セラレタル場合コンゴー盆地條約ニ依リ依然通商上ノ均等待遇ヲ享受シ得ヘキ地域ハ左ノ通ナリ

(イ) 佛國委任統治地域タル東部カメルーンノ一部

(ロ) 白國委任統治地域タルルアンダウルンディ

(ハ) 英國委任統治地域タルタンガンイカ

從ツテ殘餘ノ部分即チ左ノ委任統治地域ハコンゴー盆地條約ニ依リカヴァーセラレス他ニ何等カノ條約上ノ根據ナキ限リ我方カ同地域ニ於テ通商上ノ均等待遇ヲ受ケ得サルニ至ルヘシ

(イ) パレスタイン及トランス・ジョルダン

(ロ) シリア及レバノン

(ハ) 英國委任統治地域タルカメルーン及トーゴーランド

(ニ) 佛國委任統治地域タルカメルーンノ大部分及トーゴー

第五節　結　論

第一　通商均等問題ニ關スル委任統治委員會及各受任國側ノ意向

一、第二十七回ヨリ第三十三回ニ至ル常設委任統治委員會ノオブザベーションヲ地域別ニ通觀スレハ左ノ通ナリ（オブザベーション作成ノ經緯ニ關シテハ第二節參照）

(一) パレスタイン及トランス・ジョルダン

第二十七回（パレスタイン及トランス・ジョルダンニ共通）

オブザベーションニハ「委員會ハ聯盟國タルコトヲ止メタル國ノ生産品ノ輸入カ聯盟國ノ生産品ノ輸入ト均等ノ地位ニ於テ認メラレ居ルコトヲ聞知シタリ委員會ハ其ノ理由ヲ承知シタシ」トアリ

第二十九回（パレスタイン）

オブザベーションニハ「委員會ハ聯盟國タルヲ止メタル國ヨリノ輸入商品ノ待遇ニ關シ受任國カ委任統治地域及聯盟國ノ利益ノ爲採レル處置ニ付來年度年報中ニ完全ナル說明ヲ與フルコトヲ希望スルモノナリ」トアリ

B-1169

0479

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

第三十二回（パレスタイン）

オブザベーションニハ「委員會ニ依リ審査セラレタル文書ニモ掲載セラレタルカ如ク、委任統治條項第十八條ニ規定セラレタル經濟平等原則ノ適用ハ其ノ互惠制度ヲ缺クカ爲ニパレスタインノ工業及商業ニトリ一ノ重壓ドナレリ委員會ハ右ニ關シ受任國カ或ル場合パレスタインノ爲利益ヲ圖リタルコトニ留意スルト共ニ、一九三〇年理事會カ總テノ聯盟國ニ對シ其ノ生産品カA式及B式委任統治地域ニ於テ享有スル利益ニ對應シ右委任統治地域ノ生産品モ同樣ニ有利ナル待遇ヲ確保スル樣勸告シタルコトヲ回顧シ、受任國カ一層多數ノ國ノ同意ヲ得ルコトニ依リ委任統治地域ノ現在ノ不利ナル狀態ヲ改善センコトヲ希望スルモノナリ」トアリ

(二) シリア及レバノン

第二十七回

オブザベーションニハ「委員會ハ聯盟國タルコトヲ止メタル國ノ生産品ノ輸入カ聯盟國ノ生産品ノ輸入ト均等ノ地位ニ於テ認メラレ居ルコトヲ聞知シタリ委員會ハ其ノ理由ヲ承知シ度シ」トアリ

第二十九回

オブザベーションニハ『委員會ハ委任統治地域ト一九三五年聯盟國タルヲ止メタル二國トノ間ノ通商調整ニ關シ交涉進行中ナルコトニ多大ノ關心ヲ有シ右交涉ノ結果聯盟國カ委任統治條項第十一條ニ依リ有スル權利ヲ害セラルルコトナク委任統治地域ノ爲有利ナル市場ヲ確保スル協定ニ到達スルコトヲ希望スルモノナリ」トアリ

第三十三回

佛國代表ヨリ「委任統治地域ハ日本國ニ對シテハ關稅上ノ自由ヲ有スルカ故ニ若シ日本ノ買付カ其ノ賣付ニ比シ充分ナル代償トナラサル際ニハ右ノ自由權ヲ行使スルコトヲ得ヘシ」トノ陳述アリタルカ委員會トシテハオブザーベーションヲ爲ス所ナシ

(三) タンガンイカ

第二十七回

『聯盟ヲ離脫シタル國ノ商品ニ對シ統治國ハ依然聯盟國ノ商品ニ對スルト同等ノ待遇ヲ與ヘ居ルカ如何ナル理由ニ基クヤ承知シ度シ」トノオブザベーションヲ爲スヘシトノ意見アリタルモ右ニ對シテハ種々ノ反對論特ニ「本委任統治地域ノ如ク工業ノ存在セサル場合ニハ均等待遇ヲ廢スル時期ニ非ス」トノ反對論アリ結局本委任統治地域ニ對スルオブザベーション中ヨリハ經濟均等

B-1169

0480

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

待遇問題ニ關スル項目ハ削除セラタリ

第三十一回

オブザベーションニハ「委員會ハ受任國カ今日迄ノ處委任統治地域ニ於テ聯盟國ト非聯盟國トノ間ニ差別ヲ設クル如キ關稅立法ヲナスノ理由ヲ發見セス此ノ點ニ關シ態度ヲ變更スルノ意圖ヲ有セストノ回答ヲナシタルニ留意シ、受任國カ次年度年報ニ於テ非聯盟國ノ商品ニ經濟上ノ均等待遇ヲ與フルハ法律的ニ其ノ義務アリト思考スルカ爲ナリヤ否ヤ明ニサレンコトヲ望ムモノナリ」トアリ

(四) 佛國委任統治地域タル**カメルーン及トーゴー**

第二十八回（**カルメン及トーゴー**ニ共通）

オブザベーションニハ「委員會ハ受任國カ一九三五年度ニ於テ非聯盟國トナレル二箇ノ國ヨリノ輸入品ニ對シ如何ナル待遇ヲ與フヘキカニ付考究中ナルコトヲ了承シ右研究ノ結果到達スヘキ結論ヲ承知シタシ」トアリ

第三十回（**カメルーン及トーゴー**ニ共通）

オブサベーションニハ「委員會ハ受任國カ調査ノ結果聯盟國タルヲ止メタル國ヨリノ輸入品ニハ均等待遇ノ利益ヲ享受セシムルノ義務ナシトノ結論ニ達シタル旨ノ政府代表ノ聲明ニ留意シ尙同時ニ右結論ニ拘ハラス今日迄ノ處從來ノ制度ニ如何ナル變更モ加ヘラレ居ラサルコトニ留意スルモノナリ」トアリ

第三十三回（**カメルーン**）

議長ヨリ「佛蘭西側解釋ニ依レハ**サン、ジェルマン**條約ハ聯盟規約ニ加入セル諸國ニ對シテノミ享益ヲ保障セルモノニシテ條約ニ依ル經濟均等待遇ヲ享受スル爲ニハ聯盟國タルト同時ニ**サン、ジェルマン**條約調印國タラサルヘカラサルコトナルヘシ」ト述ヘタル後「本問題ヲ如何ニ取計フヘキカハ委員會ノ任務ニシテ議長トシテハ代表ノ宣言ヲ記錄スルニ止ムヘシ右宣言ハ同委任統治地域ノ住民ト直接利害關係ヲ有スルカ故ニ委任統治委員會ノ關心ヲ呼フモノナリ」ト陳述スル所アリシカ委員會トシテハ**オブザベーション**ヲ爲ス所ナシ

(五) 英國委任統治地域タル**カメルーン及トーゴーランド**

第二十八回

カメルーンニ關スル**オブザベーション**ニハ「委員會ハ一九三五年度ニ於テ聯盟國タルヲ止メタル二箇ノ國ニ對シ受任國カ經濟平等原則ノ適用ヲ如何ニ考慮スルヤ若シ之ヲ適用セサル場合ハ如何ナル措置ヲ講スルヤ承知シタシ」トアリ

トーゴーランドニ關スル**オブザベーション**ニハ「委任統治地域ト**ゴールドコースト**植民地（後者

B-1169

0481

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ニ於テハ一九三四年「輸入織物割當法令」及一九三四年「追加關稅條例」ニ依リ特惠制度ト割當制度トカ定メラレ居レリ）トノ間ニ關稅同盟アルニ鑑ミ委員會ハ實際上經濟平等原則カ受任國ニ依リ如何ニ監視セラレ居ルヤ其ノ方法ニ付次期年報ニ於テ說明ヲ與ヘラレンコトヲ希望ス」トアリ

第三十回

カメルーンニ關スル**オブザベーション**ニハ「委員會ハ受任國カ「今日迄ノ處」聯盟國ト非聯盟國トノ間ニ統治地域ニ於テ差別的ノ關稅制度ヲ設クル理由ヲ發見セス日本及獨逸ノ聯盟脫退ニ伴ヒ此ノ點ニ關シ態度ヲ變更スル意圖ナキ旨ニ注意ヲ拂ヒ、此等ノ國ノ輸入品ニ均等待遇ヲ適用スルハ法律上ノ見地ヨリ然ルヘキモノト思考スルカ故ナリヤ否ヤニ付來年度年報ニ明示セラレンコトヲ希望ス尙委員會ハ委任統治地域ト上述ノ國トノ間ノ現行通商制度ハ委任統治地域ノ輸出ニ關シ相互主義ニ依ル利益ヲ含ムモノナリヤ承知シタシ」トアリ

トーゴーランドニ關スル**オブザベーション**ニハ「委員會ハ受任國カ一九三五年聯盟國タルヲ止メタル國ヨリノ輸入商品ニ對シ均等待遇ヲ適用スルハ法律上ノ見地ヨリ然カスヘキモノト思考スルカ故ナリヤ否ヤニ付來年度年報ニ於テ明示セラレンコトヲ希望ス尙委員會ハ委任統治地域ト問題ノ諸國トノ間ノ現行通商制度ハ委任統治地域ヨリノ輸出ニ關シ相互主義ニ依ル利益ヲ包含シ居ルヤ否ヤヲ承知シ度シ」トアリ

第三十一回（カメルーン及トーゴーランドニ共通）

オブザベーションニハ「委員會ハ受任國カ聯盟國タラサル國ハ委任統治條項ノ規定ニ依ルト聯盟規約第二十二條ニ依ルトヲ問ハス委任統治地域ニ於テ其ノ輸入スル商品ニ經濟上ノ均等待遇ヲ要求スルヲ得スト思料シ又受任國トノ間ニ締結セル條約ニ依ルニ非サレハ其ノ輸入品ニ對シ通商上ノ均等待遇ヲ要求スルヲ得スト思料スル旨ノ聲明ヲ了承シ同時ニ委員會ハ現在ノ處受任國カ聯盟國ニ非サル國ニ對シ實際ニ於テ其ノ享受シツツアル經濟上ノ均等待遇ヲ剝奪スル立法ヲ權限アル機關ニ慫慂スルノ意圖ナキ旨ヲモ了承シタリ委員會ハ再ヒ委任統治地域ヨリノ輸出カ上述ノ諸國トノ現行通商制度ニ於テ互惠主義ヲ享受シ居レルヤ否ヤニ付承知シタキ希望ヲ表明スルモノナリ」トアリ

(六) **ルアンダ、ウルンディ**

第三十回

オブザベーションニハ「委員會ハ受任國カ聯盟國タルヲ止メタル國ノ商品ニ對シ與ヘントスル取扱振ニ付說明ヲ與ヘンコトヲ望ムモノナリ」トアリ

第三十三回

B-1169

0482

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

オブザベーションニハ「委員會ハ委任統治地域内ニ於テ經濟均等待遇原則ノ適用ニ關シ同地域ト交易關係ヲ有スル總テノ國カ聯盟國タルト聯盟ヲ脫退セル國タルト將又未タ聯盟國ト爲リタルコトナキ國タルトヲ問ハス何レモ完全ニ平等ニ取扱ハレ居ルコト竝ニ受任國カ右通商政策ヲ變更シ差別的制度ヲ樹立スルノ意圖ナキコトヲ述ヘタル受任國ノ回答ヲ了承ス」トアリ

二、常設委任統治委員會ノ**オブザベーション**ニ對スル各受任國ノ態度ヲ地域別ニ記述スレハ左ノ通ナリ

(一) **パレスタイン及トランス・ジョルダン**（英國委任統治地域）

受任國ノ意向ハ「聯盟ヲ脫退シタル爲委任統治條項ノ保證セル經濟平等原則ヲ受クルノ權利ヲ有セサルニ至リタル諸國ニ差別待遇ヲ爲スヘキヤ否ヤノ問題ハ委任統治地域ニ關スル利益ト義務トヲ考慮シテ受任國ニ依リ決定セラルヘク先ツ同地域住民ノ利益ヲ考慮セサルヘカラス特ニ日本ハ一九一一年ノ日英通商條約カ**パレスタイン**ニモ適用アル結果同條約ノ有效ナル限リ相互的基礎ノ上ニ最惠國待遇ヲ享受スルモノトス尤モ日本カ聯盟國タルヲ止メタル現在ニ於テ嘗テノ主タル同盟及聯合國タルノ故ヲ以テ委任統治地域ニ於テ經濟平等原則ヲ要求スルノ權利ヲ有スルヤ否ヤノ問題ハ右ト全然別箇ノ問題ニシテ今後ノ研究題目ナリ」ト云フニ在リ、**トランス・ジョルダン**ニ關シテモ受任國ハ同一ノ法理論ヲ採用スルモ此ノ地域ニハ日英通商條約ノ適用ナシ尤モ同地域ニハ海港ナク商品ハ凡テ**パレスタイン、シリア及イラク**等ヲ經由シ移入セラルルヲ以テ實際問題トシテハ重要ナル意義ナシ

(二) **シリア及レバノン**（佛國委任統治地域）

受任國ノ意向ハ「日本及獨逸ハ聯盟脫退後當地域ニ於テ通商均等待遇ヲ喪失セリ」ト云フニアルモ實際上ハ受任國ト日本トノ通商交涉ノ結果日本ヲシテ其ノ**シリア及レバノン**向ケ織物類ノ輸出ニ關シ一定ノ統制料ヲ徵收セシメ之ヲ日本ノ賣付ノ代償トシテ一定ノ**シリア及レバノン**商品ノ買付ヲ可能ナラシムル爲ノ資金ニ振當ル制度ヲ考案シ其ノ交換條件トシテ當地域ニ於テ日本商品カ最低稅率ノ適用ヲ受クルコトトナリ居レリ其ノ詳細ニ付テハ第三節ノ第三參照ノコト

(三) **タンガンイカ**（英國委任統治地域）

受任國ハ現在迄ノ處「從來ノ政策ニ如何ナル變更ヲモ爲スノ意圖ナシ」ト述ヘ居レリ尙第二節ノ第一〇參照アリタシ

(四) 佛國委任統治地域タル**カメルーン及トーゴー**

受任國ノ意向ハ「聯盟國タルヲ止メタル國ヨリノ輸入品ニハ通商均等待遇ノ利益ヲ享受セシムルノ義務ナシ」ト云フニ在ルモ右結論ニ拘ハラス從來ノ制度ニ如何ナル變更モ加ヘラレ居ラス、尙受任國代表ハ**カメルーン**ニ關シ第三十三回常設委任統治委員會ニ於テ「**サン、ジェルマン**條約ハ聯盟規約ニ加入セル諸國ニ對シテノミ享益ヲ保證セルモノニシテ條約ニ依ル經濟均等待遇ヲ享受

B-1169

0483

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

スル爲ニハ聯盟國タルト同時ニサン、ジェルマン條約ノ調印國タラサルヘカラス」ト述ヘタルカ斯カル所論ハ右條約ノ明文ニ照シ甚シキ暴論ニシテ適當ナル機會ニ反駁ノ要アリ

(五) 英國委任統治地域タル**カメルーン及トーゴーランド**

受任國ノ意向ハ「聯盟國タラサル國ハ受任國トノ間ニ特別ニ締結セル條約ニ依ルニ非サレハ委任統治地域ニ於テ通商上ノ均等待遇ヲ要求スルヲ得ス」ト爲スモ他方受任國ハ「現在ノ處聯盟國ニ非サル國ニ對シ實際ニ於テ其ノ享受シツツアル經濟上ノ均等待遇ヲ剝奪スル立法ヲ權限アル機關ニ慫慂スルノ意圖ナシ」ト聲明シタリ

(六) **ルアンダ、ウルンディ**(白國委任統治地域)

當地域ト交易關係ヲ有スル總テノ國ハ聯盟國タルト聯盟ヲ脫退セル國タルト將又未タ聯盟國ト爲リタルコトナキ國タルトヲ問ハス何レモ完全ニ平等ニ取扱ハレ居リ受任國トシテモ「右通商政策ヲ變更シ差別的制度ヲ樹立スルノ意圖ナシ」ト聲明シ居レリ

第二　聯盟カ委任統治地域ニ於ケル通商均等待遇ヲ我方ニ否認スルノ決定ヲ爲シタル場合ノ影響

一、若シ聯盟ニ於テ理事會又ハ常設委任統治委員會カ委任統治地域ニ於ケル通商均等待遇ヲ我方ニ否認スルノ決定ヲ存シタル場合ヲ考フルニ、現在既ニ大部分ノ受任國カ理論上ノ問題トシテハ聯盟脫退國ハ通商均等待遇ヲ享受シ得ストノ見解ヲ持シ居ル狀態ニ在ルヲ以テ直チニ顯著ナル事態ノ惡化ヲ招來スヘキコトナカルヘシ更ニ之ヲ詳述スレハ(イ) **パレスタイン**(但シトランス・ジョルダンハ別)ニ關シテハ一九二一年自英通商條約ニ依リ我方ニ最惠國待遇カ與ヘラレ居リ(ロ) **シリア及レバノン**ニ關シテハ第三節ニ詳述シタル如ク旧本側カ**シリア及レバノン**向綿糸布及絹人絹布ニ對シ一定ノ統制料ヲ徵收シ之ヲ同地域ヨリノ輸入奬勵資金ニ充當スヘキコトノ代償トシテ同地域ニ於テ日本商品カ最低稅率ノ適用ヲ受クルコトトナリ居リ(ハ) **タンガンイカ、ルアンダ・ウルンディ、佛國委任統治地域タル カメルーン**ノ一部ハ**コンゴー**盆地條約ノ適用區域ナルヲ以テ同條約ノ署名國タル我方ハ當然通商上ノ均等待遇ヲ受クルノ權利アリ尙**タンガンイカ**ニハ一九二一年ノ日英通商條約ノ適用モアリ(ニ) 從テ問題トナルハ**トランス・ジョルダン、英國委任統治地域タル カメルーン及トーゴーランド**並ニ佛國委任統治地域タル**カメルーン**ノ大部及**トーゴーナルカ**此等ノ地域ニ對スル我方ヨリノ輸出額ハ第三節ニ記述セルカ如ク一九三六年度ニ於テ

トランス・ジョルダン　本邦ト直接ノ貿易ナシ
英國委任統治地域、**カメルーン**　約三十二萬圓
英國委任統治地域、**トーゴーランド**　約六十萬圓（推定額）
佛國委任統治地域**カメルーン**　約二百十七萬圓

B-1169
0484
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

佛國委任統治地域トーゴー

ニシテ其ノ總額モ精々約四百萬圓程度ナリ

二、右記述ニ依レハ聯盟カ委任統治地域ニ於ケル通商均等待遇ヲ我ニ拒否スルノ決定ヲナスモ其ノ影響ハ微弱ナリト一應結論スルヲ得ヘキカ如シト雖委任統治條項ニ規定セルカ如キ通商均等ノ原則ヲ擴張シテ總テノ未開發地ニ適用シ聯盟國タルト非聯盟國タルトヲ問ハス公平ニ右原則適用ノ利益ニ均霑セシムヘシトスルハ從來我方ノ強ク主張シ來リシ所ニシテ一九三七年度前後三回ニ渉リ國際聯盟內ニ於テ開催セラレタル原料品問題委員會ニ於テモ右ハ我方ノ根本的主張ノ一タリシ經緯モアリ此ノ見地ヨリスレハ多少ナリトモ我方ノ主張ニ合致シ居ル委任統治地域ニ於ケル通商均等ノ原則ヲ我方ニ拒否セントスルカ如キ議論ニ對シテハ極力反對シ將來通商自由ニ對スル我方ノ根本的主張貫徹ノ爲ノ基礎トナシ置クノ要アリ、他方現在パレスタイン及タンガンイカハ最惠國條約ヲ有スル一九二一年ノ日英通商條約ニ加盟シ居ルモ此等ノ地域ハ一箇年ノ豫告ヲ以テ隨時條約ヨリ一方的ニ脫退シ得ル地位ニ在ルヲ以テ曩ニ日英綿業會商破裂ノ結果一九三四年五月十六日、西部アフリカニ在ル英國保護領（カメルーン及トーゴーランドヲ含ム）カ右條約ヨリ脫退セル次第モアリテパレスタイン及タンガンイカカ日英通商條約ノ加盟地域ナルノ故ヲ以テ我方カ永久ニ此等ノ地域ニ於テ最惠國待遇ヲ受クヘシト安心シ居ル譯ニハ行カサル事情アリ從テ我方トシテハコンゴー盆地條約ヲ飽ク迄維持スルト共ニ第二節記載ノ伊藤帝國代表ノ聲明ヲ反覆主張シテ委任統治地域ニ於ケル通商均等ノ原則ノ適用ヲ我方ニモ認メシムルヤウ努力シ少クトモ聯盟カ之ヲ我方ニ拒否スル決定ヲ爲サントスルノ傾向ニ對シテハ絕對的ニ反對セサルヘカラス

B-1169
0485
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/